松山市文化財調査報告書 159

久米高畑遺跡

－ 69次・71次・73次調査－

国庫補助市内遺跡発掘調査報告書

2012

松山市教育委員会

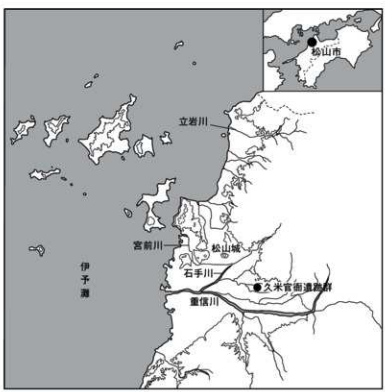
財団法人松山市文化・スポーツ振興財団

埋蔵文化財センター

久米高畑遺跡（くめたかばたけ）

－69次・71次・73次調査－

国庫補助市内遺跡発掘調査報告書



2012

松山市教育委員会

財団法人松山市文化・スポーツ振興財団

埋蔵文化財センター

序　言

本書は、重要遺跡確認調査として国庫補助を受け、国指定史跡『史跡久米官衙遺跡群』の発掘調査の一環として実施した久米高畑遺跡69次調査と71次調査、73次調査の報告書です。

今回の調査は、回廊状遺構の西方における官衙関連施設の展開を把握することを目的に、回廊状遺構の南西隅から西方約30～60メートルの地点で実施しました。

調査では、官衙に関連する施設と思われる掘立柱建物１棟が見つかり、調査の目的である回廊状遺構の西方にも官衙施設が展開することがわかりました。また、来住廃寺創建時の瓦が出土した溝なども見つかりました。このほか、弥生時代前期末から古墳時代にかけての竪穴式建物や掘立柱建物などや中近世の溝・土坑などの集落に関連する遺構や遺物が見つかり、大きな成果を得ることができました。

最後になりましたが、発掘調査および報告書刊行に際しまして、数々のご指導とご協力いただきました地権者ならびに周辺の住民の方々、関係各位に心からお礼申し上げますとともに、本書が学術研究はもちろん、教育や文化の振興等のため広くご活用いただけることを心より祈念いたしております。

平成24年３月

松山市教育長

山内　泰

例　言

1　本書は松山市教育委員会、財団法人松山市生涯学習振興財団（当時）が国庫補助事業として、平成19・20・21年度に実施した、松山市が指定する埋蔵文化財包蔵地、旧「№127 来住廃寺跡」、現「№127 久米官衙遺跡群」（平成22年3月）内における重要遺跡確認調査として行った、埋蔵文化財の発掘調査報告書である。なお、本報告書は平成23年度の国庫補助事業として刊行したものである。

2　本文中では遺構名を略号化し、竪穴建物・竪穴住居：SB、掘立柱建物：掘立、溝：SD、土坑：SK、柱穴・小穴：SP、性格不明遺構：SX で記述した。

3　本書で使用した標高数値はすべて海抜標高を示し、方位は国土座標を基準とした真北である。

4　基本土層や遺構埋土の色調は農林水産省水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』（1998）に準拠した。

5　屋外調査での写真は調査担当者と大西朋子が、遺物写真と図版作成は大西が担当した。

6　遺構の実測は小笠原善治、吉岡和哉、水本完児、遺物の復元及び実測・製図は宮内慎一、小笠原、吉岡、水本の指示のもとに行った。

7　挿図の縮尺は縮分値をスケール下に記した。遺物実測図は原則として、弥生土器は1/4、土師器、須恵器、陶磁器は1/3、石器、金属製品は1/2とした。

8　調査では下條信行（愛媛大学名誉教授）、田崎博之（愛媛大学）の諸先生方にご指導、ご教示を頂いた。記して感謝申し上げます。

9　屋外調査における国土座標測量は、以下の2社に業務を委託した（株式会社 GIS 四国、有限会社四国測量設計）。

10　本書の執筆は小笠原、河野史知、水本が分担し、編集は小笠原が担当した。

11　本書に掲載した記録類や遺物は、松山市立埋蔵文化財センターにおいて保管されている。

12　報告書抄録は巻末に掲載している。

目　次

第Ⅰ章　はじめに ……〔小笠原〕…… 1

第１節　調査に至る経緯 …… 1
第２節　整理・刊行組織 …… 2
第３節　立地と歴史的環境 …… 4

第Ⅱ章　久米高畑遺跡69次調査 ……〔小笠原〕…… 9

第１節　調査に至る経緯 …… 9
第２節　調査の経過 …… 10
第３節　調査の方法と凡例 …… 10
第４節　層　位 …… 13
第５節　遺構と遺物 …… 17
第６節　小　結 …… 42

第Ⅲ章　久米高畑遺跡71次調査 ……〔河野〕…… 49

第１節　調査の経過 …… 49
第２節　層　位 …… 52
第３節　遺構と遺物 …… 54
第４節　小　結 …… 67

第Ⅳ章　久米高畑遺跡73次調査 ……〔水本〕…… 71

第１節　調査の経緯 …… 71
第２節　層　位 …… 72
第３節　遺構と遺物 …… 77
第４節　小　結 …… 94

第Ⅴ章　調査の成果と課題 ……〔小笠原〕… 101

挿図目次

第Ⅰ章　はじめに

第１図　官衙施設の配置図 …… 1
第２図　調査地と周辺の主要遺跡分布図 …… 5
第３図　来住台地南西部遺跡分布図 …… 7

第Ⅱ章　久米高畑遺跡69次調査

第４図　調査地位置図 …… 9
第５図　区割図 …… 11
第６図　遺構配置図 …… 12
第７図　北壁土層図 …… 14
第８図　東壁・西壁土層図 …… 15
第９図　南壁土層図 …… 16
第10図　SB1測量図 …… 17
第11図　SB2測量図 …… 18
第12図　SB3測量図・出土遺物実測図 …… 19
第13図　SB4測量図・出土遺物実測図 …… 20
第14図　掘立1測量図 …… 21
第15図　掘立2・3測量図 …… 22
第16図　掘立4測量図・出土遺物実測図 …… 22
第17図　掘立5測量図・出土遺物実測図 …… 23
第18図　掘立6測量図・出土遺物実測図 …… 23
第19図　掘立7測量図・出土遺物実測図 …… 24
第20図　SD1測量図・出土遺物実測図 …… 25
第21図　SK1測量図・出土遺物実測図 …… 27
第22図　SK2測量図・出土遺物実測図 …… 27
第23図　SK3測量図 …… 28
第24図　SK4測量図・出土遺物実測図 …… 28
第25図　SK5・6測量図 …… 29
第26図　SK7測量図 …… 29
第27図　SK8測量図・出土遺物実測図 …… 30
第28図　SK9測量図・出土遺物実測図 …… 31
第29図　SK10・11測量図 …… 31
第30図　SK12測量図・出土遺物実測図 …… 32
第31図　SK13測量図・出土遺物実測図 …… 33
第32図　SK14測量図 …… 33
第33図　SK15測量図・出土遺物実測図 …… 34

第34図　SK16測量図・出土遺物実測図 …… 35
第35図　SK17・18測量図 …… 35
第36図　SX1測量図・出土遺物実測図 …… 36
第37図　SX2測量図 …… 36
第38図　SP67測量図・出土遺物実測図 …… 37
第39図　SP75・164測量図・出土遺物実測図 …… 37
第40図　SP228・229測量図・出土遺物実測図 …… 38
第41図　SP310測量図・出土遺物実測図 …… 39
第42図　SP334・350測量図・出土遺物実測図 …… 39
第43図　SP379測量図・出土遺物実測図 …… 40
第44図　包含層・その他出土遺物実測図 …… 40
第45図　SP出土遺物実測図 …… 41

第Ⅲ章　久米高畑遺跡71次調査

第46図　調査地位置図 …… 49
第47図　区割図 …… 50
第48図　遺構配置図 …… 51
第49図　土層図 …… 53
第50図　SB1測量図 …… 54
第51図　SB1・炉跡測量図 …… 55
第52図　SB1出土遺物実測図 …… 55
第53図　SD5測量図 …… 55
第54図　SD6・7測量図 …… 56
第55図　SK1測量図 …… 56
第56図　SK1出土遺物実測図 …… 57
第57図　SK2・3測量図 …… 57
第58図　SK4測量図 …… 58
第59図　SK4出土遺物実測図 …… 58
第60図　SK9測量図 …… 59
第61図　SD8測量図・出土遺物実測図 …… 59
第62図　SK5測量図 …… 59
第63図　SK11測量図 …… 60
第64図　SK6・8測量図 …… 60
第65図　SP3測量図 …… 61
第66図　SP3出土遺物実測図 …… 61
第67図　SK7測量図・出土遺物実測図 …… 62
第68図　SK10測量図 …… 62
第69図　SD1測量図・出土遺物実測図 …… 63

第70図　SD2測量図 …… 64
第71図　SD3・4測量図 …… 65
第72図　倒木1・2測量図、倒木2出土遺物実測図 …… 66
第73図　第Ⅱ～Ⅴ層出土遺物実測図 …… 66

第Ⅳ章　久米高畑遺跡73次調査
第74図　調査地位置図 …… 71
第75図　遺構配置図 …… 74
第76図　南壁・北壁土層図 …… 75
第77図　西壁土層図 …… 76
第78図　SK12測量図 …… 77
第79図　SK12出土遺物実測図 …… 78
第80図　SK13測量図・出土遺物実測図 …… 79
第81図　SK15測量図・出土遺物実測図 …… 79
第82図　SK17測量図・出土遺物実測図 …… 80
第83図　SB2測量図・出土遺物実測図 …… 81
第84図　掘立3測量図 …… 82
第85図　SD8・SD10測量図 …… 83
第86図　SD8出土遺物実測図 …… 84
第87図　SD10出土遺物実測図 …… 85
第88図　SK5測量図・出土遺物実測図 …… 86
第89図　SK18測量図 …… 87
第90図　SK18出土遺物実測図（1） …… 87
第91図　SK18出土遺物実測図（2） …… 88
第92図　SK20測量図・出土遺物実測図 …… 89
第93図　SK11・SK19測量図 …… 89
第94図　SK16測量図 …… 90
第95図　SD9測量図 …… 90
第96図　SD9出土遺物実測図 …… 91
第97図　掘立1測量図・出土遺物実測図 …… 92
第98図　掘立2測量図 …… 92
第99図　SD2・SD3①・SD3②・SD11断面図 …… 93
第100図　柱穴出土遺物実測図 …… 94
第101図　包含層・地点不明出土遺物実測図 …… 95

第Ⅴ章　調査の成果と課題
第102図　69次・71次・73次遺構配置図 …… 102

表目次

第Ⅰ章　はじめに

表1　調査地一覧…… 2

第Ⅱ章　久米高畑遺跡69次調査

表2　竪穴住居一覧…… 43
表3　掘立柱建物一覧…… 43
表4　溝一覧…… 43
表5　土坑一覧…… 44
表6　性格不明遺構一覧…… 44
表7　柱穴一覧…… 44
表8　SB3出土遺物観察表　土製品…… 45
表9　SB4出土遺物観察表　土製品…… 45
表10　掘立4出土遺物観察表　土製品…… 45
表11　掘立5出土遺物観察表　土製品…… 45
表12　掘立6出土遺物観察表　土製品…… 45
表13　掘立6出土遺物観察表　石製品…… 45
表14　掘立7出土遺物観察表　土製品…… 45
表15　SD1出土遺物観察表　土製品…… 46
表16　SK1出土遺物観察表　土製品…… 46
表17　SK2出土遺物観察表　土製品…… 46
表18　SK4出土遺物観察表　土製品…… 46
表19　SK8出土遺物観察表　土製品…… 46
表20　SK8出土遺物観察表　石製品…… 46
表21　SK9出土遺物観察表　土製品…… 46
表22　SK12出土遺物観察表　石製品…… 46
表23　SK13出土遺物観察表　土製品…… 47
表24　SK13出土遺物観察表　石製品…… 47
表25　SK15出土遺物観察表　土製品…… 47
表26　SK16出土遺物観察表　土製品…… 47
表27　SX1出土遺物観察表　土製品…… 47
表28　SP出土遺物観察表　土製品…… 47
表29　SP出土遺物観察表　石製品…… 48
表30　遺構検出面出土遺物観察表　土製品…… 48
表31　表採出土遺物観察表　土製品…… 48
表32　グリッド出土遺物観察表　石製品…… 48

第Ⅲ章　久米高畑遺跡71次調査

表33　竪穴住居一覧…… 67
表34　溝一覧…… 68
表35　土坑一覧…… 68
表36　SB1出土遺物観察表　土製品…… 68
表37　SK1出土遺物観察表　土製品…… 69
表38　SK4出土遺物観察表　土製品…… 69
表39　SK4出土遺物観察表　石製品…… 69
表40　SK4出土遺物観察表　装身具…… 70
表41　SD8出土遺物観察表　土製品…… 70
表42　SP3出土遺物観察表　瓦製品…… 70
表43　SK7出土遺物観察表　土製品…… 70
表44　SK7出土遺物観察表　瓦製品…… 70
表45　SD1出土遺物観察表　土製品…… 70
表46　倒木2出土遺物観察表　土製品…… 70
表47　第Ⅱ～Ⅴ層出土遺物観察表　土製品…… 70

第Ⅳ章　久米高畑遺跡73次調査

表48　検出遺構一覧…… 73
表49　竪穴住居一覧…… 96
表50　掘立柱建物一覧…… 96
表51　溝一覧…… 96
表52　土坑一覧…… 96
表53　SK12出土遺物観察表　土製品…… 97
表54　SK13出土遺物観察表　土製品…… 97
表55　SK15出土遺物観察表　土製品…… 97
表56　SK17出土遺物観察表　土製品…… 97
表57　SB2出土遺物観察表　土製品…… 97
表58　SD8出土遺物観察表　土製品…… 98
表59　SD8出土遺物観察表　石製品…… 98
表60　SD10出土遺物観察表　土製品…… 98
表61　SD10出土遺物観察表　石製品…… 98
表62　SK5出土遺物観察表　土製品…… 98
表63　SK5出土遺物観察表　金属製品…… 99
表64　SK18出土遺物観察表　土製品…… 99
表65　SK18出土遺物観察表　石製品…… 99
表66　SK20出土遺物観察表　土製品…… 99
表67　SK20出土遺物観察表　金属製品…… 99

表68　SD9出土遺物観察表　瓦製品 …… 99
表69　掘立1出土遺物観察表　土製品 …… 100
表70　柱穴出土遺物観察表　土製品 …… 100
表71　柱穴出土遺物観察表　石製品 …… 100
表72　包含層出土遺物観察表　土製品 …… 100
表73　地点不明出土遺物観察表　瓦製品 …… 100
表74　地点不明出土遺物観察表　石製品 …… 100

報告書抄録 …… 巻末

写真図版目次

第Ⅱ章　久米高畑遺跡69次調査

写真図版１　１．遺構検出状況（南東より）
　　２．掘立4半截状況（西より）
写真図版２　１．掘立7、SK8・12半截状況（西より）
　　２．官衙遺跡群南西部遠景（南東より）
写真図版３　１．SD1完掘状況（北西より）
　　２．SK1掘り下げ状況（北より）
　　３．SK2、SX2、掘立6、SB3・4半截状況（南東より）
写真図版４　１．SK2半掘状況（北より）
　　２．SK8遺物出土状況（南西より）
　　３．SK9半掘状況（東より）
写真図版５　１．SP116遺物出土状況（南より）
　　２．遺構北半掘り下げ状況（南より）
　　３．現地説明会風景
写真図版６　１．出土遺物（掘 立4：3、 掘 立5：4、 掘 立6：5・6、 掘 立7：7、SK8：17・18、SK9：19、SK13：22、SK16：26）
写真図版７　１．出土遺物（SK15：24・25、SD1：11～13、包含層：41・46～48、SP116：57・58、SP228：35）

第Ⅲ章　久米高畑遺跡71次調査

写真図版８　１．調査前風景（南東より）
　　２．重機による掘削状況（南東より）
　　３．調査風景（北東より）
写真図版９　１．南西隅土層（北東より）
　　２．遺構検出状況（北西より）
写真図版10　１．SD8上面遺物出土状況（南東より）
　　２．SP3内瓦出土状況（南東より）

３．SK1・SK4遺物出土状況（北より）
写真図版11　１．SK8半掘状況（南より）
２．SB1・主柱穴完掘状況（北より）
３．SD8半掘状況（南東より）
写真図版12　１．遺構半掘状況（北西より）
２．遺構半掘状況（北西より）
写真図版13　１．現地説明会
２．調査後全景
３．出土遺物（SB1：3・4、SK1：6）
写真図版14　１．出土遺物（SK4：19～21、SD8：22、SP3：23・24、SD1：27、倒木2：28、第Ⅱ～Ⅴ層：30）

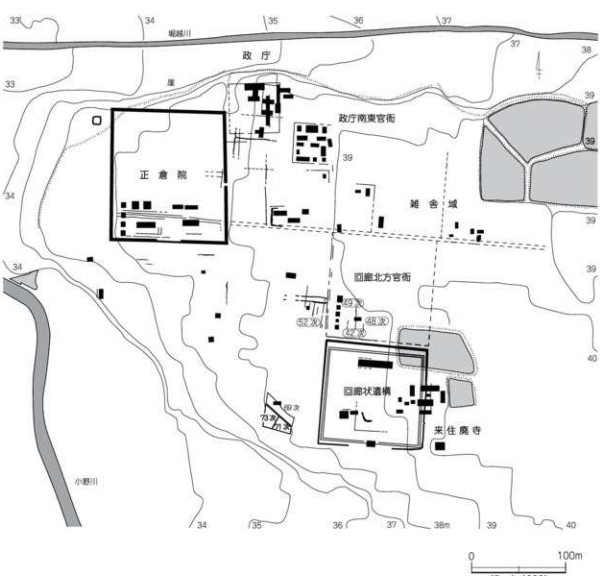
第Ⅳ章　久米高畑遺跡73次調査

写真図版15　１．調査地全景（南より）
２．完掘状況〔中近世〕（北東より）
３．現地説明会（南より）
写真図版16　１．SK12遺物出土状況（南西より）
２．SK13遺物出土状況（北東より）
３．SB2完掘状況（北東より）
写真図版17　１．SD8完掘状況（南西より）
２．SD8遺物出土状況（南西より）
３．SD10完掘状況（北東より）
写真図版18　１．SK5・11・18・19検出状況（北より）
２．SK18遺物出土状況（南西より）
３．SK20遺物出土状況（北より）
写真図版19　１．SD9完掘状況（西より）
２．SD9遺物出土状況（西より）
３．完掘状況（南西より）
写真図版20　１．SK12出土遺物（1・4・5）、SD8出土遺物①（20・22・26・29・30）
写真図版21　１．SD8出土遺物②（31・32）、SD10出土遺物（33・35・39）、SK5出土遺物（43～45）、SK18出土遺物（48・53・54）
写真図版22　１．SD9出土遺物（59・60）、掘立1出土遺物（62）、SP37出土遺物（65）、包含層出土遺物(69・76)、地点不明出土遺物（77～79）

第Ⅰ章　はじめに

第１節　調査に至る経緯

松山市では、平成元年（1989年）より、国から補助を受けて、個人住宅の建設や中小零細開発等に伴う発掘調査（以下、本発掘調査という）及び重要遺跡の保護のための範囲確認及び性格を確認する調査（以下、重要遺跡確認調査という）を実施している。平成3年10月の旧財団（(財）松山市生涯学習振興財団）設立以降は、必要に応じて旧財団の調査員を招聘し、これらの調査に従事する形を採用し、旧財団との間における業務分担が見直され、平成17年より文化庁の承諾を得たうえで、史跡内を



第1図　官衙施設の配置図

除く市内一円を対象として、発掘調査ならびに出土物整理作業、報告書作成業務を旧財団へ委託して実施することとした。(旧財団は平成22年度に(財)松山市文化・スポーツ振興財団へと名称が変わる。)

本書で報告する、平成19年度の久米高畑遺跡69次調査、平成20年度の久米高畑遺跡71次調査、久米高畑遺跡73次調査の各調査については、ともに重要遺跡確認調査として実施された。各調査地の現況はともに水田で、畦を挟んでそれぞれ隣接している。この場所は、史跡久米官衙遺跡群における代表的な施設である回廊状遺構の南西角から西に約30mに位置している。

当地周辺では、回廊状遺構の西方における官衙の実態解明を目的として、平成14年度の久米高畑遺跡56次調査以降、継続的に調査が実施されており、久米官衙遺跡群の西部域について資料が蓄積されている。今回報告する3調査も、同様の目的のもとに計画され、実施されたものである。

表1　調査地一覧

遺跡名称	調査面積	調査期間
久米高畑遺跡69次調査	419㎡	平成19年8月1日～平成19年10月31日
久米高畑遺跡71次調査	約270㎡	平成20年11月17日～平成21年2月28日
久米高畑遺跡73次調査	約270㎡	平成21年11月2日～平成22年3月3日

第2節　整理・刊行組織

平成19年度　(平成19年4月1日現在)

調査委託　松山市教育委員会

松山市教育委員会　教育長　土居　貴美
事務局　局長　石丸　修
企画官　仙波　和典
企画官　田中　郁夫
企画官　田浦　雅文
文化財課　課長　家久　則雄
主幹　森川　惠克
主幹　栗田　正芳

調査組織　財団法人松山市生涯学習振興財団

松山市生涯学習振興財団　理事長　中村　時広
事務局長　吉岡　一雄
埋蔵文化財センター　所長　丹生谷博一
次長　重松　幹雄
次長　田城　武志
(兼務)教育普及担当リーダー　重松　幹雄
(兼務)調査担当リーダー　田城　武志
(久米高畑69次調査担当)　調査員　小笠原善治
(写真担当)　調査員　大西　朋子

平成20年度　(平成20年4月1日現在)

調査委託　松山市教育委員会

松山市教育委員会　教育長　土居　貴美
事務局　局長　石丸　修
企画官　仙波　和典
企画官　古鎌　靖
企画官　岸　紀明
文化財課　課長　家久　則雄
主幹　森　正経
主幹　森川　惠克

調査組織　財団法人松山市生涯学習振興財団

松山市生涯学習振興財団　理事長　中村　時広
事務局長　吉岡　一雄
埋蔵文化財センター　所長　丹生谷博一
次長　折手　均
次長　重松　佳久
調査担当リーダー　栗田　茂敏
(久米高畑71次調査担当)　調査員　吉岡　和哉
(写真担当)　調査員　大西　朋子

平成21年度　（平成21年4月1日現在）

調査委託　松山市教育委員会

松山市教育委員会　教育長　山内　泰
事務局　局　長　藤田　仁
企画官　古鎌　靖
企画官　青木　茂
文化財課　課　長　家久　則雄
主　幹　森　正経
副主幹　三好　博文

調査組織　財団法人松山市生涯学習振興財団

松山市生涯学習振興財団　理事長　中村　時広
事務局長　松澤　史夫
埋蔵文化財センター　所　長　白石　修一
次　長　折手　均
次　長　重松　佳久
調査担当リーダー　栗田　茂敏
（久米高畑73次調査担当）　調査員　水本　完児
（写真担当）　調査員　大西　朋子

平成22年度　（平成22年4月1日現在）

整理委託　松山市教育委員会

松山市教育委員会　教育長　山内　泰
事務局　局　長　藤田　仁
企画官　勝谷　雄三
企画官　青木　茂
企画官　佐々木乾二
文化財課　課　長　駒澤　正憲
主　幹　森　正経
副主幹　三好　博文

整理組織　財団法人松山市文化・スポーツ振興財団

（財）松山市文化・スポーツ振興財団
理事長　一色　哲昭
事務局長　松澤　史夫
事務局次長　砂野　元昭
施設利用推進部　部　長　中越　敏彰
埋蔵文化財センター　所　長　重松　佳久
普及・啓発リーダー　栗原　伸二
調査・研究リーダー　栗田　茂敏
（久米高畑69次調査担当）　主　任　小笠原善治
（久米高畑71次調査担当）　調査員　吉岡　和哉
（久米高畑73次調査担当）　主　任　水本　完児
（写真担当）　調査員　大西　朋子

平成23年度　（平成23年4月1日現在）

整理委託　松山市教育委員会

松山市教育委員会　教育長　山内　泰
事務局　局　長　鳩　啓吾
企画官　渡部　満重
企画官　青木　茂
文化財課　課　長　駒澤　正憲
主　幹　森　正経
主　査　竹内　明男

整理組織　財団法人松山市文化・スポーツ振興財団

（財）松山市文化・スポーツ振興財団
理事長　一色　哲昭
事務局長　松澤　史夫
事務局次長　近藤　正
施設利用推進部　部　長　中越　敏彰
埋蔵文化財センター　所　長　田城　武志
調査・研究リーダー　栗田　茂敏
普及・啓発リーダー　梅木　謙一
（久米高畑69次調査担当）　主　任　小笠原善治
（久米高畑71次調査担当）　主　任　吉岡　和哉
（久米高畑73次調査担当）　主　任　水本　完児
（写真担当）　調査員　大西　朋子

（平成23年4月1日現在）

刊行主体　松山市教育委員会

松山市教育委員会　教育長　山内　泰
事務局　局長　嶋　啓吾
企画官　渡部　満重
企画官　青木　茂
文化財課　課長　駒澤　正憲
主幹　森　正経
主査　竹内　明男

編集組織　財団法人松山市文化・スポーツ振興財団

（財）松山市文化・スポーツ振興財団
理事長　一色　哲昭
事務局長　松澤　史夫
事務局次長　近藤　正
施設利用推進部　部長　中越　敏彰
埋蔵文化財センター　所長　田城　武志
調査担当リーダー　栗田　茂敏
普及・啓発リーダー　梅木　謙一
（久米高畑69次担当）　主任　小笠原善治
（久米高畑71次担当）　主任　河野　史知
（久米高畑73次担当）　主任　水本　完児
（写真担当）　調査員　大西　朋子

第3節　立地と歴史的環境

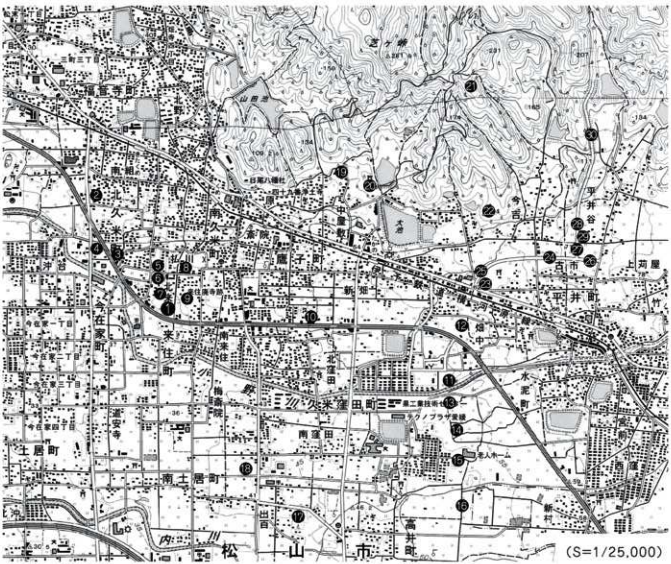
(1)遺跡群の立地

来住廃寺を含む史跡久米官衙遺跡群は、高縄山系の山々の麓に程近い松山平野の北東部に位置している。以下、この平野を形成する河川との関係から当遺跡群の立地を概説する（第1図）。

平野のほぼ中央を東から西へ流れる重信川が、当平野における最大規模の河川である。松山平野はこの川によって大きく南北に分断されている。遺跡群が立地する重信川北側の地域は、高縄山系に源を発した支流の石手川によって東西に区分され、西の地域には、弥生時代中期から後期にかけての拠点集落である文京遺跡が立地する。石手川左岸が歴史上大きな地位を占めるに至るのは、川越しに文京地区を望むことができる高台に位置する桑原地区に大型特殊建造物群が建設される古墳時代初頭のことである。これ以降、代表的な前方後円墳は、桑原から久米にかけての重信川と石手川に挟まれた区域に限定してその系譜を追うことが可能となる。その後、古墳時代中期の大規模集落として知られる福音寺遺跡群は、石手川の支流である小野川と、桑原地区との境を画する川附川に挟まれた区域に立地する。7世紀に至ると、松山平野における政治的中心は、小野川をさらに遡った別の支流である堀越川の南に移動し、久米官衙遺跡群の中心域を形成するに至る。

(2)久米官衙遺跡群における遺跡の歴史的環境

久米官衙遺跡群は、小野川の支流である堀越川の河岸段丘を背にして、小野川が南に蛇行する地点の北に広がる微高地上に立地している。堀越川沿いには、久米官衙遺跡群で最も古いⅠ期の施設である政庁のほか、方格地割に伴う久米官衙遺跡群Ⅱ期の正倉院や政庁南東官衙などの諸施設が東西に建ち並ぶ。Ⅱ期を代表する官衙である回廊状遺構と呼ぶ施設は、これら北部の諸施設から南へ二町張り出した微高地の先端部に設けられており、その北側には別の方一町規模の官衙施設も回廊北方官衙と呼ばれ確認されている。これら南部の施設の一部については、その後7世紀末にかけて来住廃寺の寺域に組み込



1 久米高畑遺跡69・71・73次
2 二つ塚古墳
3 南久米片廻り遺跡1次
4 南久米片廻り遺跡2次
5 久米高畑遺跡26次
6 久米高畑遺跡35次
7 久米高畑遺跡36次
8 久米高畑遺跡23・25・28・29次
9 来住廃寺跡
10 久米窟田森元遺跡
11 平井遺跡2次
12 平井遺跡3～9次
13 水泥遺跡1次
14 水泥遺跡2次
15 水泥遺跡3次
16 高井遺跡
17 波賀部神社古墳
18 開遺跡
19 五郎兵衛谷古墳
20 素鷲神社古墳
21 かいなご3号墳
22 観音山古墳
23 下苅屋遺跡1次
24 下苅屋遺跡2次
25 下苅屋遺跡3次
26 古市遺跡1次
27 古市遺跡2次
28 五楽遺跡1次
29 五楽遺跡2次
30 五楽遺跡3次

第2図　調査地と周辺の主要遺跡分布図

まれていくことが明らかにされている（Ⅲ－A期）。また、8世紀中頃には正倉院が拡充されることに伴って、遺跡群北西部の地割も一部改変される（Ⅲ－B期）。回廊状遺構の北西に遺跡群Ⅱ期の方一町の敷地が存在するか否か明らかにされてはいないが、この区域にも、8世紀以降の区画溝が複数箇所存在する様子が明らかにされていることから、何らかの官衙施設が立地したものと想定されている。

今回報告する3つ（久米高畑遺跡69次・71次・73次）の調査地付近は、回廊状遺構西辺から西へ約30mの地点に位置している。この官衙南西部付近は以前より回廊状遺構の西方に位置することから、官衙関連遺構の存在が期待され調査を重ねられてきたが、これまでの調査では官衙に関連する遺構は希薄であり、また地割に関する知見も特に多くは得られていなかった。この3遺跡は、来住台地南西端部から回廊状遺構西部の大部分を占める場所であり、本3調査地付近が実質的に来住舌状台地上に展開する遺構群の南西端部にあたるものと評価されている。

【文献】

岸　郁男・森　光晴・小笠原好彦他　1979『来住廃寺』松山市教育委員会

吉本　拡　1981「来住V遺跡」『一般国道11号松山東道路関係遺跡埋蔵文化財調査報告書Ⅲ』
愛媛県教育委員会・愛媛県埋蔵文化財センター

池田　学　1991「久米高畑遺跡9次調査地」『松山市埋蔵文化財調査年報』Ⅲ
松山市教育委員会松山市立埋蔵文化財センター

梅木謙一編　1992『来住・久米地区の遺跡』松山市教育委員会・財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター

西尾　幸則　1993『来住廃寺遺跡』松山市教育委員会・財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター

橋本　雄一　1995「来住廃寺23次調査地」『松山市埋蔵文化財調査年報』Ⅶ
財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター

小笠原　彰　1998「久米高畑遺跡36次調査地」『松山市埋蔵文化財調査年報』X
松山市教育委員会・財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター

小笠原　彰　2003「久米高畑遺跡53次調査地」『松山市埋蔵文化財調査年報』14
松山市教育委員会・財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター

小玉亜紀子　2004「久米高畑遺跡56次調査地」『松山市埋蔵文化財調査年報』15
松山市教育委員会・財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター

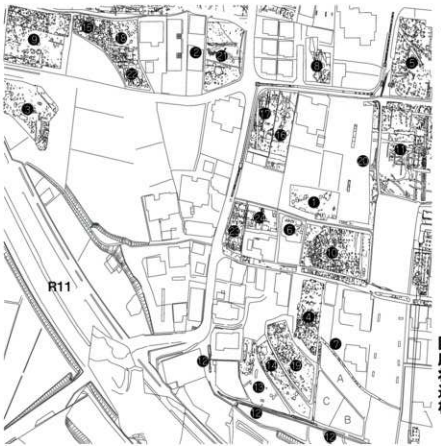
小笠原　彰　2004「久米高畑遺跡58次調査地」『松山市埋蔵文化財調査年報』16
松山市教育委員会・財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター

橋本　雄一　2005「久米高畑遺跡63次調査地」『松山市埋蔵文化財調査年報』17
松山市教育委員会・財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター

橋本　雄一　2006『史跡久米官衙遺跡群調査報告書』松山市文化財調査報告書111
松山市教育委員会・財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター

小笠原善治　2008「久米高畑遺跡69次調査」『松山市埋蔵文化財調査年報』20
松山市教育委員会・財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター

吉岡　和哉　2009「久米高畑遺跡71次調査」『松山市埋蔵文化財調査年報』21
松山市教育委員会・財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター



S=1/2,000

来住台地全体図

A 久米高畑遺跡69次調査
B 久米高畑遺跡71次調査
C 久米高畑遺跡73次調査

1 久米高畑遺跡 3 次調査
2 久米高畑遺跡 4 次調査
3 久米高畑遺跡 5 次調査
4 久米高畑遺跡 9 次調査
5 久米高畑遺跡13次調査
6 久米高畑遺跡14次調査
7 久米高畑遺跡18次調査
8 久米高畑遺跡19次調査
9 久米高畑遺跡27次調査
10 久米高畑遺跡36次調査
11 久米高畑遺跡52次調査
12 久米高畑遺跡53次調査
13 久米高畑遺跡56次調査
14 久米高畑遺跡58次調査
15 久米高畑遺跡59次調査
16 久米高畑遺跡60次調査
17 久米高畑遺跡61次調査
18 久米高畑遺跡62次調査
19 久米高畑遺跡63次調査
20 久米高畑遺跡64次調査
21 久米高畑遺跡65次調査
22 久米高畑遺跡66次調査
23 久米高畑遺跡67次調査
24 久米高畑遺跡68次調査

第3図　来住台地南西部遺跡分布図

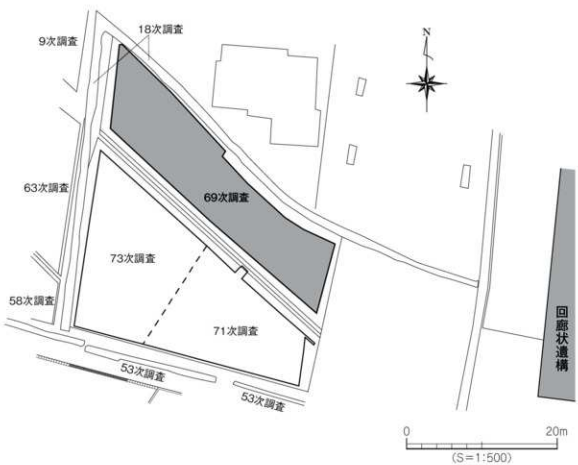
第Ⅱ章　久米高畑遺跡69次調査

第1節　調査に至る経緯

松山市来住町911に所在する水田において、国から補助を受けて重要遺跡確認調査を実施した。

三好鐵己氏（来住町在住）が所有する当該地は、松山市が指定する遺物包含地「№127 来住廃寺跡」に位置している。久米官衙遺跡群の主要施設である回廊状遺構の西辺から西へおよそ30～60mにあたることから、官衙域南西部における官衙関連施設の有無について新たな情報を得ることができるのではないかと期待された。また開発行為に伴って実施される本発掘調査とは異なることから、事前の試掘・確認調査は行っていない。

調査は、平成19年8月1日から同年10月31日の間、久米高畑遺跡69次調査として行った。



第4図　調査地位置図

調査組織

所　在　地：松山市来住町911番
調 査 期 間：平成19年（2007）8月1日～平成19年（2007）10月31日
調 査 面 積：419㎡
土地所有者：三好鐵己
調 査 目 的：重要遺跡確認調査
調 査 主 体：松山市教育委員会、［委託］財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター
調 査 担 当：文化財課　栗田正芳、 埋蔵文化財センター　小笠原善治・橋本雄一

第２節　調査の経過

調査日誌抄録

平成19年8月1日（水）重機による掘削着手。耕作土の移動を完了。
8月 6日（月）重機による掘り下げを継続しながら、遺構検出作業に着手（重機掘削は7日に終了）
8月 8日（水）文化財課担当者現場視察、今後の方針を協議。
8月10日（金）測量業者による基準杭の設置作業を行う。
8月16日（木）調査区西～中央部の遺構検出作業開始。
8月24日（金）調査区内、グリッド杭設置作業に着手。同月29日終了。
8月27日（月）平板測量による遺構全体略図作成開始。
8月29日（水）午後より遺構検出状況写真撮影。
8月31日（金）各遺構平面図作成開始。
9月 3日（月）SK1・2掘り下げ開始。順次SKの掘り下げを継続する。
9月20日（木）調査区東部～中央部の柱穴群半裁開始。
10月 2日（火）SK15・16の掘り下げ開始。その他の遺物出土状況写真及び遺物取り上げに着手。
10月19日（金）各遺構平・断面図作成完了。
10月25日（木）調査区清掃作業の後、遺構全体写真撮影。
10月27日（土）一般向けの現地説明会を開催。午後より、清掃及び調査区内地要作内発掘機材撤去作業。
10月29日（月）遺構保護のため調査区内に真砂土を搬入し、重機による埋め戻し作業開始。
10月31日（水）発掘調査終了。

第３節　調査の方法と凡例

（１）測量の基準と調査区の設定

調査に際しては、株式会社GIS四国（松山市本町）に委託して基準点の設置を行った。久米官衙遺跡群においては、平成17年度の調査まで、旧国土座標に基づく基準点の打設を行ってきたが平成18年度に調査された久米高畑遺跡67次調査より世界測地系への移行を決定し、以降の調査は世界測地系に基づく座標点による基準点の打設を行っている。なお、グリッドの配置については、第5図のとおりの方法で行った。

(2)凡　例

1　遺構の種別は略号で示した。竪穴住居：SB、掘立柱建物：掘立、土坑：SK、溝：SD、柱穴：SP、性格不明遺構：SX、掘立等ならびのわかる柱穴：Pなどである。

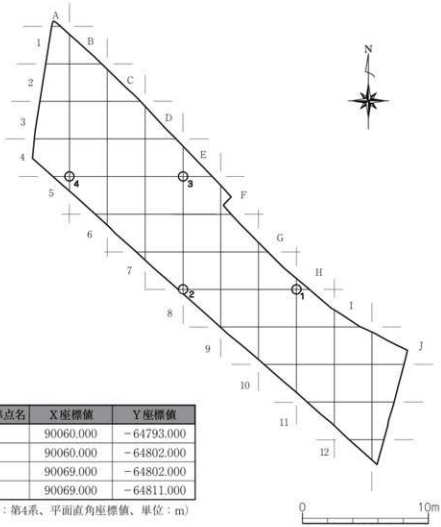
2　遺物の実測図は、基本的に1/4で統一した。遺構図は1/40、1/50を基本としたが、一部1/200およびその他のものもある。

3　本書で示した方位は、世界測地系に基づく座標北で、高度は標高である。

4　基本土層の番号はローマ数字で、遺構埋土についてはアラビア数字で表記した。

5　土色や遺物の色調の表記に際しては、『新版標準土色帖』1998年版を参考にした。

6　本書にて使用した地形図は以下の通りである。一部、加筆したものも含まれている。
松山市都市計画図1/500、同1/2500・国土地理院発行1/25000「松山南部」、「松山北部」



4級基準点名	X座標値	Y座標値
1	90060.000	−64793.000
2	90060.000	−64802.000
3	90069.000	−64802.000
4	90069.000	−64811.000

（座標系：第4系、平面直角座標値、単位：m）

第5図　区割図

N
A
B
C
D
E
F
G
H
I
J
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
X=64811
X=64808
X=64805
X=64802
X=64799
X=64796
X=64793
X=64790
X=64787
X=64784
X=90081
X=90078
X=90075
X=90072
X=90069
X=90066
X=90063
X=90060
X=90057
X=90054
X=90051
X=90048
掘立1
掘立2
掘立3
掘立4
掘立5
掘立6
掘立7
SK1
SK2
SK3
SK4
SK5
SK6
SK7
SK8
SK9
SK10
SK11
SK12
SK13
SK14
SK15
SK16
SK17
SK18
SK19
SK20
SK21
SK22
SK23
SK24
SK25
SK26
SK27
SK28
SK29
SK30
SK31
SK32
SK33
SK34
SK35
SK36
SK37
SK38
SK39
SK40
SK41
SK42
SK43
SK44
SK45
SK46
SK47
SK48
SK49
SK50
SK51
SK52
SK53
SK54
SK55
SK56
SK57
SK58
SK59
SK60
SK61
SK62
SK63
SK64
SK65
SK66
SK67
SK68
SK69
SK70
SK71
SK72
SK73
SK74
SK75
SK76
SK77
SK78
SK79
SK80
SK81
SK82
SK83
SK84
SK85
SK86
SK87
SK88
SK89
SK90
SK91
SK92
SK93
SK94
SK95
SK96
SK97
SK98
SK99
SK100
SK101
SK102
SK103
SK104
SK105
SK106
SK107
SK108
SK109
SK110
SK111
SK112
SK113
SK114
SK115
SK116
SK117
SK118
SK119
SK120
SK121
SK122
SK123
SK124
SK125
SK126
SK127
SK128
SK129
SK130
SK131
SK132
SK133
SK134
SK135
SK136
SK137
SK138
SK139
SK140
SK141
SK142
SK143
SK144
SK145
SK146
SK147
SK148
SK149
SK150
SK151
SK152
SK153
SK154
SK155
SK156
SK157
SK158
SK159
SK160
SK161
SK162
SK163
SK164
SK165
SK166
SK167
SK168
SK169
SK170
SK171
SK172
SK173
SK174
SK175
SK176
SK177
SK178
SK179
SK180
SK181
SK182
SK183
SK184
SK185
SK186
SK187
SK188
SK189
SK190
SK191
SK192
SK193
SK194
SK195
SK196
SK197
SK198
SK199
SK200
SK201
SK202
SK203
SK204
SK205
SK206
SK207
SK208
SK209
SK210
SK211
SK212
SK213
SK214
SK215
SK216
SK217
SK218
SK219
SK220
SK221
SK222
SK223
SK224
SK225
SK226
SK227
SK228
SK229
SK230
SK231
SK232
SK233
SK234
SK235
SK236
SK237
SK238
SK239
SK240
SK241
SK242
SK243
SK244
SK245
SK246
SK247
SK248
SK249
SK250
SK251
SK252
SK253
SK254
SK255
SK256
SK257
SK258
SK259
SK260
SK261
SK262
SK263
SK264
SK265
SK266
SK267
SK268
SK269
SK270
SK271
SK272
SK273
SK274
SK275
SK276
SK277
SK278
SK279
SK280
SK281
SK282
SK283
SK284
SK285
SK286
SK287
SK288
SK289
SK290
SK291
SK292
SK293
SK294
SK295
SK296
SK297
SK298
SK299
SK300
SK301
SK302
SK303
SK304
SK305
SK306
SK307
SK308
SK309
SK310
SK311
SK312
SK313
SK314
SK315
SK316
SK317
SK318
SK319
SK320
SK321
SK322
SK323
SK324
SK325
SK326
SK327
SK328
SK329
SK330
SK331
SK332
SK333
SK334
SK335
SK336
SK337
SK338
SK339
SK340
SK341
SK342
SK343
SK344
SK345
SK346
SK347
SK348
SK349
SK350
SK351
SK352
SK353
SK354
SK355
SK356
SK357
SK358
SK359
SK360
SK361
SK362
SK363
SK364
SK365
SK366
SK367
SK368
SK369
SK370
SK371
SK372
SK373
SK374
SK375
SK376
SK377
SK378
SK379
SK380
SK381
SK382
SK383
SK384
SK385
SK386
SK387
SK388
SK389
SK390
SK391
SK392
SK393
SK394
SK395
SK396
SK397
SK398
SK399
SK400
SK401
SK402
SK403
SK404
SK405
SK406
SK407
SK408
SK409
SK410
SK411
SK412
SK413
SK414
SK415
SK416
SK417
SK418
SK419
SK420
SK421
SK422
SK423
SK424
SK425
SK426
SK427
SK428
SK429
SK430
SK431
SK432
SK433
SK434
SK435
SK436
SK437
SK438
SK439
SK440
SK441
SK442
SK443
SK444
SK445
SK446
SK447
SK448
SK449
SK450
SK451
SK452
SK453
SK454
SK455
SK456
SK457
SK458
SK459
SK460
SK461
SK462
SK463
SK464
SK465
SK466
SK467
SK468
SK469
SK470
SK471
SK472
SK473
SK474
SK475
SK476
SK477
SK478
SK479
SK480
SK481
SK482
SK483
SK484
SK485
SK486
SK487
SK488
SK489
SK490
SK491
SK492
SK493
SK494
SK495
SK496
SK497
SK498
SK499
SK500
SK501
SK502
SK503
SK504
SK505
SK506
SK507
SK508
SK509
SK510
SK511
SK512
SK513
SK514
SK515
SK516
SK517
SK518
SK519
SK520
SK521
SK522
SK523
SK524
SK525
SK526
SK527
SK528
SK529
SK530
SK531
SK532
SK533
SK534
SK535
SK536
SK537
SK538
SK539
SK540
SK541
SK542
SK543
SK544
SK545
SK546
SK547
SK548
SK549
SK550
SK551
SK552
SK553
SK554
SK555
SK556
SK557
SK558
SK559
SK560
SK561
SK562
SK563
SK564
SK565
SK566
SK567
SK568
SK569
SK570
SK571
SK572
SK573
SK574
SK575
SK576
SK577
SK578
SK579
SK580
SK581
SK582
SK583
SK584
SK585
SK586
SK587
SK588
SK589
SK590
SK591
SK592
SK593
SK594
SK595
SK596
SK597
SK598
SK599
SK600
SK601
SK602
SK603
SK604
SK605
SK606
SK607
SK608
SK609
SK610
SK611
SK612
SK613
SK614
SK615
SK616
SK617
SK618
SK619
SK620
SK621
SK622
SK623
SK624
SK625
SK626
SK627
SK628
SK629
SK630
SK631
SK632
SK633
SK634
SK635
SK636
SK637
SK638
SK639
SK640
SK641
SK642
SK643
SK644
SK645
SK646
SK647
SK648
SK649
SK650
SK651
SK652
SK653
SK654
SK655
SK656
SK657
SK658
SK659
SK660
SK661
SK662
SK663
SK664
SK665
SK666
SK667
SK668
SK669
SK670
SK671
SK672
SK673
SK674
SK675
SK676
SK677
SK678
SK679
SK680
SK681
SK682
SK683
SK684
SK685
SK686
SK687
SK688
SK689
SK690
SK691
SK692
SK693
SK694
SK695
SK696
SK697
SK698
SK699
SK700
SK701
SK702
SK703
SK704
SK705
SK706
SK707
SK708
SK709
SK710
SK711
SK712
SK713
SK714
SK715
SK716
SK717
SK718
SK719
SK720
SK721
SK722
SK723
SK724
SK725
SK726
SK727
SK728
SK729
SK730
SK731
SK732
SK733
SK734
SK735
SK736
SK737
SK738
SK739
SK740
SK741
SK742
SK743
SK744
SK745
SK746
SK747
SK748
SK749
SK750
SK751
SK752
SK753
SK754
SK755
SK756
SK757
SK758
SK759
SK760
SK761
SK762
SK763
SK764
SK765
SK766
SK767
SK768
SK769
SK770
SK771
SK772
SK773
SK774
SK775
SK776
SK777
SK778
SK779
SK780
SK781
SK782
SK783
SK784
SK785
SK786
SK787
SK788
SK789
SK790
SK791
SK792
SK793
SK794
SK795
SK796
SK797
SK798
SK799
SK800
SK801
SK802
SK803
SK804
SK805
SK806
SK807
SK808
SK809
SK810
SK811
SK812
SK813
SK814
SK815
SK816
SK817
SK818
SK819
SK820
SK821
SK822
SK823
SK824
SK825
SK826
SK827
SK828
SK829
SK830
SK831
SK832
SK833
SK834
SK835
SK836
SK837
SK838
SK839
SK840
SK841
SK842
SK843
SK844
SK845
SK846
SK847
SK848
SK849
SK850
SK851
SK852
SK853
SK854
SK855
SK856
SK857
SK858
SK859
SK860
SK861
SK862
SK863
SK864
SK865
SK866
SK867
SK868
SK869
SK870
SK871
SK872
SK873
SK874
SK875
SK876
SK877
SK878
SK879
SK880
SK881
SK882
SK883
SK884
SK885
SK886
SK887
SK888
SK889
SK890
SK891
SK892
SK893
SK894
SK895
SK896
SK897
SK898
SK899
SK900
SK901
SK902
SK903
SK904
SK905
SK906
SK907
SK908
SK909
SK910
SK911
SK912
SK913
SK914
SK915
SK916
SK917
SK918
SK919
SK920
SK921
SK922
SK923
SK924
SK925
SK926
SK927
SK928
SK929
SK930
SK931
SK932
SK933
SK934
SK935
SK936
SK937
SK938
SK939
SK940
SK941
SK942
SK943
SK944
SK945
SK946
SK947
SK948
SK949
SK950
SK951
SK952
SK953
SK954
SK955
SK956
SK957
SK958
SK959
SK960
SK961
SK962
SK963
SK964
SK965
SK966
SK967
SK968
SK969
SK970
SK971
SK972
SK973
SK974
SK975
SK976
SK977
SK978
SK979
SK980
SK981
SK982
SK983
SK984
SK985
SK986
SK987
SK988
SK989
SK990
SK991
SK992
SK993
SK994
SK995
SK996
SK997
SK998
SK999
SK1000
SB1
SB2
SB3
SB4
SB5
SB6
SB7
SB8
SB9
SB10
SB11
SB12
SB13
SB14
SB15
SB16
SB17
SB18
SB19
SB20
SB21
SB22
SB23
SB24
SB25
SB26
SB27
SB28
SB29
SB30
SB31
SB32
SB33
SB34
SB35
SB36
SB37
SB38
SB39
SB40
SB41
SB42
SB43
SB44
SB45
SB46
SB47
SB48
SB49
SB50
SB51
SB52
SB53
SB54
SB55
SB56
SB57
SB58
SB59
SB60
SB61
SB62
SB63
SB64
SB65
SB66
SB67
SB68
SB69
SB70
SB71
SB72
SB73
SB74
SB75
SB76
SB77
SB78
SB79
SB80
SB81
SB82
SB83
SB84
SB85
SB86
SB87
SB88
SB89
SB90
SB91
SB92
SB93
SB94
SB95
SB96
SB97
SB98
SB99
SB100
SX1
SX2
SX3
SX4
SX5
SX6
SX7
SX8
SX9
SX10
SX11
SX12
SX13
SX14
SX15
SX16
SX17
SX18
SX19
SX20
SX21
SX22
SX23
SX24
SX25
SX26
SX27
SX28
SX29
SX30
SX31
SX32
SX33
SX34
SX35
SX36
SX37
SX38
SX39
SX40
SX41
SX42
SX43
SX44
SX45
SX46
SX47
SX48
SX49
SX50
SX51
SX52
SX53
SX54
SX55
SX56
SX57
SX58
SX59
SX60
SX61
SX62
SX63
SX64
SX65
SX66
SX67
SX68
SX69
SX70
SX71
SX72
SX73
SX74
SX75
SX76
SX77
SX78
SX79
SX80
SX81
SX82
SX83
SX84
SX85
SX86
SX87
SX88
SX89
SX90
SX91
SX92
SX93
SX94
SX95
SX96
SX97
SX98
SX99
SX100
SD1
SD2
SD3
SD4
SD5
SD6
SD7
SD8
SD9
SD10
SD11
SD12
SD13
SD14
SD15
SD16
SD17
SD18
SD19
SD20
SD21
SD22
SD23
SD24
SD25
SD26
SD27
SD28
SD29
SD30
SD31
SD32
SD33
SD34
SD35
SD36
SD37
SD38
SD39
SD40
SD41
SD42
SD43
SD44
SD45
SD46
SD47
SD48
SD49
SD50
SD51
SD52
SD53
SD54
SD55
SD56
SD57
SD58
SD59
SD60
SD61
SD62
SD63
SD64
SD65
SD66
SD67
SD68
SD69
SD70
SD71
SD72
SD73
SD74
SD75
SD76
SD77
SD78
SD79
SD80
SD81
SD82
SD83
SD84
SD85
SD86
SD87
SD88
SD89
SD90
SD91
SD92
SD93
SD94
SD95
SD96
SD97
SD98
SD99
SD100
SP1
SP2
SP3
SP4
SP5
SP6
SP7
SP8
SP9
SP10
SP11
SP12
SP13
SP14
SP15
SP16
SP17
SP18
SP19
SP20
SP21
SP22
SP23
SP24
SP25
SP26
SP27
SP28
SP29
SP30
SP31
SP32
SP33
SP34
SP35
SP36
SP37
SP38
SP39
SP40
SP41
SP42
SP43
SP44
SP45
SP46
SP47
SP48
SP49
SP50
SP51
SP52
SP53
SP54
SP55
SP56
SP57
SP58
SP59
SP60
SP61
SP62
SP63
SP64
SP65
SP66
SP67
SP68
SP69
SP70
SP71
SP72
SP73
SP74
SP75
SP76
SP77
SP78
SP79
SP80
SP81
SP82
SP83
SP84
SP85
SP86
SP87
SP88
SP89
SP90
SP91
SP92
SP93
SP94
SP95
SP96
SP97
SP98
SP99
SP100
DSP1
DSP2
DSP3
DSP4
DSP5
DSP6
DSP7
DSP8
DSP9
DSP10
DSP11
DSP12
DSP13
DSP14
DSP15
DSP16
DSP17
DSP18
DSP19
DSP20
DSP21
DSP22
DSP23
DSP24
DSP25
DSP26
DSP27
DSP28
DSP29
DSP30
DSP31
DSP32
DSP33
DSP34
DSP35
DSP36
DSP37
DSP38
DSP39
DSP40
DSP41
DSP42
DSP43
DSP44
DSP45
DSP46
DSP47
DSP48
DSP49
DSP50
DSP51
DSP52
DSP53
DSP54
DSP55
DSP56
DSP57
DSP58
DSP59
DSP60
DSP61
DSP62
DSP63
DSP64
DSP65
DSP66
DSP67
DSP68
DSP69
DSP70
DSP71
DSP72
DSP73
DSP74
DSP75
DSP76
DSP77
DSP78
DSP79
DSP80
DSP81
DSP82
DSP83
DSP84
DSP85
DSP86
DSP87
DSP88
DSP89
DSP90
DSP91
DSP92
DSP93
DSP94
DSP95
DSP96
DSP97
DSP98
DSP99
DSP100
0
5m
(S=1:200)

第6図　遺構配置図

第4節 層 位

調査地は基本的に南西に向かって地形が緩傾斜する微高地上に立地する。調査地の現況は水田であり、耕作土上面の標高は37.15～37.32m、遺構検出面である地山上面は中央部で標高約37m程度である。水田を造る際に水平に整地されることから、下位の礫層が若干露出している場所も見られる。また、円形に巡る掘立柱を伴う住居も柱以外の施設が見られないことから、調査地周辺の削平規模および程度が大きいことがうかがえる。

土層観察より、北部は第Ⅰ層の分布が大半で、南部にかけてようやく第Ⅱ層が分布するなど、全体を概観すれば耕作土直下に地山相当層であり、この基盤層の上位に堆積した層序の残存は少ない。これは来住台地上ではよく見られる状況で、調査地においても後世の幾度かの開発によって大きく遺構は削平されていることが分かる。

基本土層の観察結果は、以下の通りである。

Ⅰ層：耕作土　褐灰色土（10YR5/1）現在の水田耕作土層。調査地全域に分布するが、北部から南部にかけて徐々に薄くなり、層厚は10～26cmを測る。

Ⅱ層：旧耕作土　層序の主体はにぶい黄褐色土（10YR5/3）で南西部の一部で若干層序に変化が見られる。層厚は12～20cmである。

Ⅱ－1層：橙色土（7.5YR6/5）　主に調査区南西部に分布。層厚は2～6cmと極薄く分布する。

Ⅱ－2層：にぶい黄褐色土（10YR5/3）　本層位の主な土色である。北部から南部にかけて徐々に厚く分布するが南西部では途切れる。層厚は7～12cmである。

Ⅱ－3層：褐灰色土（7.5YR5/1）　主に調査区南西部に分布。層厚は3cm前後で疎らに分布する。

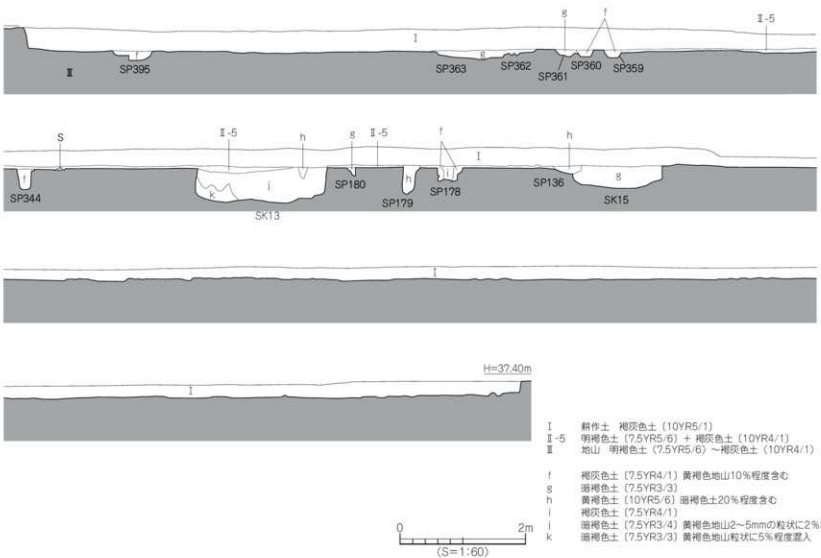
Ⅱ－4層：にぶい黄橙色土（10YR6/4）　主に調査区南西部に分布。層厚は2～10cmである。

Ⅱ－5層：明褐色土（7.5YR5/6）＋褐灰色土（10YR4/1）　北部から南部にかけて分布するが、層厚は2～10cmで、北部は6cm程度の疎らで、南部では層として地山直上に分布する。

Ⅲ層：地山　明褐色土（7.5YR5/6）～褐灰色土（10YR4/1）、調査区の全域に分布する。

壁面遺構等埋土

a：暗褐色土〔10YR3/3〕
b：明黄褐色土〔7.5YR5/6〕褐灰色土が5%程度混入
c：明黄褐色土〔7.5YR5/6〕褐灰色土が5%程度混入＋明褐色土〔7.5YR5/6〕
d：暗褐色土〔7.5YR3/3〕＋褐灰色土〔7.5YR4/1〕
e：褐灰色土〔7.5YR4/1〕＋褐灰色土〔10YR4/1〕
f：褐灰色土〔7.5YR4/1〕黄褐色地山10%程度含む
g：暗褐色土〔7.5YR3/3〕
h：黄褐色土〔10YR5/6〕暗褐色土20%程度含む
i：褐灰色土〔7.5YR4/1〕
j：暗褐色土〔7.5YR3/4〕黄褐色地山２～5mmの粒状に2%程度混入
k：暗褐色土〔7.5YR3/3〕黄褐色地山粒状に5%程度混入
l：灰褐色土〔7.5YR4/2〕黄褐色地山粒状に少量混入
m：褐色土〔10YR4/4〕黄褐色地山粒状に少量混入
n：明褐色土〔7.5YR5/6〕＋褐灰色土〔10YR4/1〕
o：暗褐色土〔10YR3/3〕褐灰色土〔10YR5/1〕60%程度含む

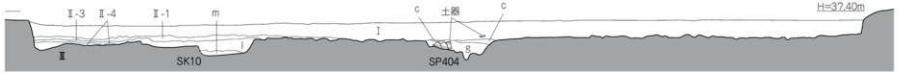


Ⅰ　耕作土　褐灰色土（10YR5/1）
Ⅱ-5　明褐色土（7.5YR5/6）＋褐灰色土（10YR4/1）
Ⅱ　地山　明褐色土（7.5YR5/6）～褐灰色土（10YR4/1）

f　褐灰色土（7.5YR4/1）黄褐色地山10％程度含む
g　暗褐色土（7.5YR3/3）
h　黄褐色土（10YR5/6）暗褐色土20％程度含む
i　褐灰色土（7.5YR4/1）
j　暗褐色土（7.5YR3/4）黄褐色地山2～5mmの粒状に2％程度混入
k　暗褐色土（7.5YR3/3）黄褐色地山粒状に5％程度混入

第7図　北壁土層図

東壁

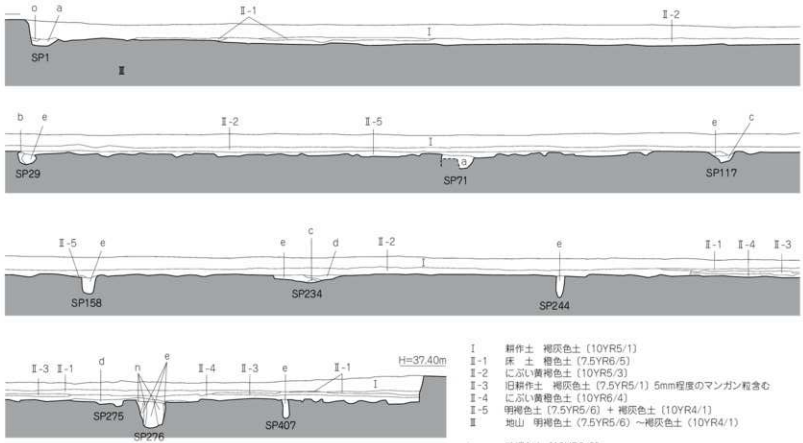


西壁

Ⅰ	耕作土　褐灰色土（10YR5/1）
Ⅱ-1	床　土　橙色土（7.5YR6/5）
Ⅱ-3	旧耕作土　褐灰色土（7.5YR5/1）5mm程度のマンガン粒含む
Ⅱ-4	にぶい黄橙色土（10YR6/4）
Ⅱ	地山　明褐色土（7.5YR5/6）～褐灰色土（10YR4/1）
a	暗褐色土（10YR3/3）
c	明黄褐色土（7.5YR5/6）褐灰色土が5％程度混入＋明褐色土（7.5YR5/6）
g	暗褐色土（7.5YR3/3）
h	黄褐色土（10YR5/6）暗褐色土20％程度含む
l	灰褐色土（7.5YR4/2）黄褐色地山粒状に少量混入
m	褐色土（10YR4/4）黄褐色地山粒状に少量混入
o	暗褐色土（10YR3/3）褐灰色土（10YR5/1）60％程度含む

0　2m
（S=1:60）

第8図　東壁・西壁土層図



Ⅰ　耕作土　褐灰色土（10YR5/1）
Ⅱ-1　床　土　橙色土（7.5YR6/5）
Ⅱ-2　にぶい黄褐色土（10YR5/3）
Ⅱ-3　旧耕作土　褐灰色土（7.5YR5/1）5mm程度のマンガン粒含む
Ⅱ-4　にぶい黄橙色土（10YR6/4）
Ⅱ-5　明褐色土（7.5YR5/6）＋褐灰色土（10YR4/1）
Ⅲ　地山　明褐色土（7.5YR5/6）～褐灰色土（10YR4/1）

a　暗褐色土（10YR3/3）
b　明黄褐色土（7.5YR5/6）褐灰色土が5％程度混入
c　明黄褐色土（7.5YR5/6）褐灰色土が5％程度混入＋明褐色土（7.5YR5/6）
d　暗褐色土（7.5YR3/3）＋褐灰色土（7.5YR4/1）
e　褐灰色土（7.5YR4/1）＋褐灰色土（10YR4/1）
n　明褐色土（7.5YR5/6）＋褐灰色土（10YR4/1）
o　暗褐色土（10YR3/3）褐灰色土（10YR5/1）60％程度含む

0　2m
（S＝1:60）

第9図　南壁土層図

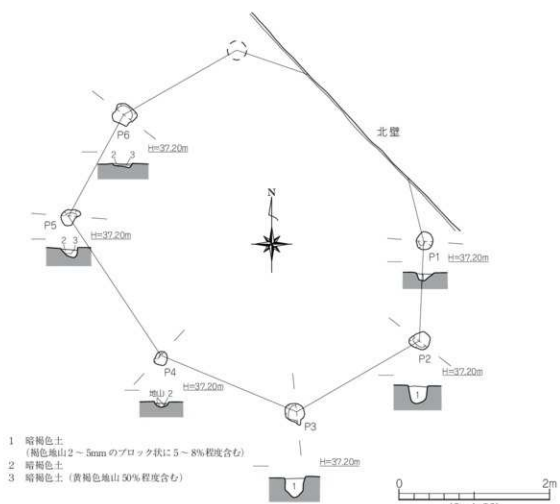
第５節　遺構と遺物

本調査で検出した遺構は、掘立柱建物（掘立）7棟、竪穴住居（SB）4棟、溝（SD）1条、土坑（SK）18基、性格不明遺構（SX）2基である。遺構の検出は第Ⅲ層上面（地山直上）で確認した。調査地および周辺の遺跡では、包含層はほとんどなく、もしくはかろうじて数センチの残存であり、これらは後世の削平を受け、すでに遺物と共に多くが失われている。遺物は、弥生土器、須恵器、土師器、瓦、砥石、石鏃、磁器などで、時期は弥生時代前期前半から中世まで幅広く出土している。

１）竪穴住居（SB）

ＳＢ１（第10図）

柱穴は推定8本。北壁外に展開する。柱穴は径15～35cmの円形。深さは最大25cmを測り、北部は削平を受け消失している。直径5mの円形竪穴住居。柱穴の遺存状況からも、全体は大きく削平を受けて柱穴以外の施設は消失していると考えられる。また位置関係から掘立3はSB1の主柱穴の可能性もある。遺構からは遺物の出土はない。遺構はすべて半截で、完掘はしていない。



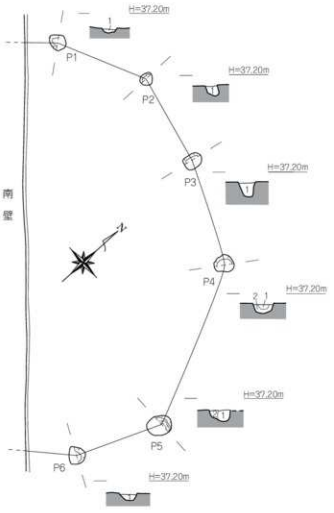
第10図　SB1測量図

時　期　出土した遺物もなく時期特定は出来ない。ここでは周辺の状況および埋土から弥生時代とする。

ＳＢ２（第11図）

調査区ほぼ中央部に位置する。建物の検出規模は6.80m×3.11mを測り、検出した柱穴は6本である。柱穴の規模は、径20cm～40cmで、埋土は、暗褐色土を主体にP4、P5などは赤褐色土がブロック状に50％程度混入する。深さは最大25cm程度で、北東部は浅くなる。竪穴住居復元推定規模は、径6.80m以上の円形住居となり、本遺跡内でも大きい部類である。状況から柱穴以外の施設は消失していると考えられる。遺構からは遺物の出土はない。

時　期　出土した遺物もなく時期特定は出来ない。ここでは周辺遺跡の状況および埋土から弥生時代とする。



第11図　SB2測量図

ＳＢ３（第12図、写真図版3）

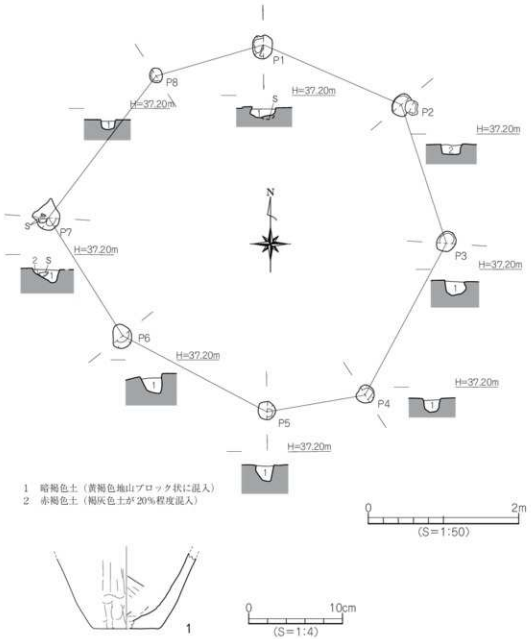
調査区南東部に位置する。建物の規模は径5.05～4.80mで、柱穴は8本の円形竪穴住居である。柱穴の規模は、径20～42cmの円形で、深さ11～21cmを測り、北部がやや強く削平されている。埋土は暗褐色土で、P2のみ赤褐色土である。主柱穴以外の施設は検出されなかった。遺物1は、P5より出土した弥生時代の甕形土器底部片である。

時　期　時期を比定できる遺物の出土が少ないが、ここでは、出土遺物と周辺遺跡の状況から、弥生時代前期以降とする。

ＳＢ４（第13図、写真図版3）

調査区南東部に位置する。建物の規模は径4.83～5.14mの円形竪穴住居である。柱穴以外の施設は検出されなかった。柱穴は、推定8本の内7本を検出した。竪穴住居の南部の一部は調査区外に展開する。柱穴は25～35cmのほぼ円形を呈し、深さ2～32cmである。埋土は、暗褐色土である。遺物はP6より、2の内黒瓦器塊底部片と弥生時代甕形土器胴部片が出土している。瓦器塊については、おそらく上部からの流れ込みと考えられる。甕形土器胴部片は小片のため、実測図は掲載していない。

時　期　出土遺物が少なく比定しがたいが、ここでは、周辺遺跡の遺構状況および埋土から、弥生時代前期以降とする。



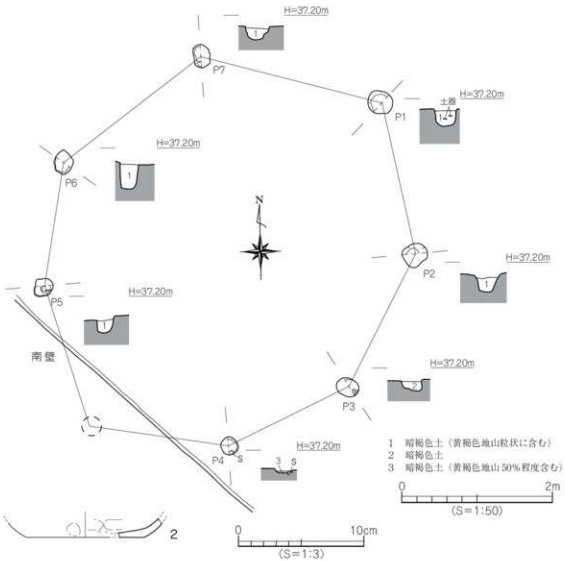
第12図　SB3測量図・出土遺物実測図

2）掘立柱建物（掘立）

掘立1（第14図）

調査区北東部に位置する。掘立建物の西半は調査区外に展開する。建物は南北棟で、規模は桁行4間、梁行2間以上で床面積11.85㎡以上である。柱間寸法は桁行0.82～1.40m、梁行1.60・1.70mを測る。柱穴の規模は長径18～53cmの円形を呈し、深さ4～29cmを測る。埋土は暗褐色土、灰褐色土である。遺構から遺物の出土はない。

時　期　出土する遺物もなく、時期は特定できないが、周辺の状況・埋土からここでは弥生時代とする。



第13図　SB4測量図・出土遺物実測図

掘立2（第15図）

調査区北東部に位置する。建物は北東－南西方向を向き、規模は桁行1間、梁行1間、床面積5.06㎡である。柱間寸法は桁行2.50・2.58m、梁行約2mを測る。柱穴の規模は長径27～44cmの円形を呈し、深さ3～13cmを測る。埋土は灰褐色土で、柱痕部は褐灰色土を呈する。断面状況から、北部から南東部にかけて強く後世の削平を受けている。遺物はP4より弥生土器胴部小片が出土している。遺物は小片のため実測図は掲載していない。

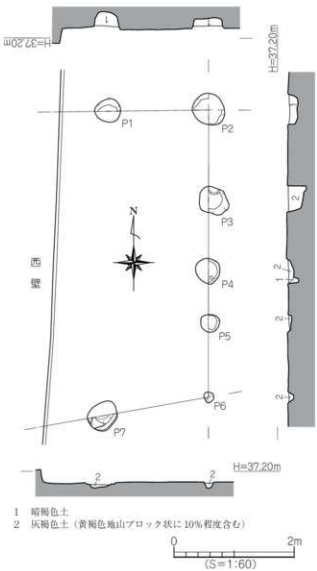
時　期　出土した遺物から弥生時代とするが、それ以上の時期特定は出来ない。

掘立3（第15図）

調査区中央SB1内に位置する。建物は北西－南東棟で、規模は桁行1間、梁行1間、床面積2.52㎡を測る。柱間寸法は桁行1.68m、梁行1.5mを測る。検出した柱穴は3基であるが、周辺の遺構の状況とP1の断面観察より、後世の削平を受け消失したものと考えられる。柱穴の規模は長径22～32cmの円形～楕円形を呈し、深さはP1が15cm、P2・P3が33～36cmを測る。埋土は黒褐色土で、遺構内から遺物の

出土はない。SB1内ほぼ中央に位置することから、SB1に付属する可能性もある。

時　期　出土する遺物もなく、時期は特定できないが、周辺の状況および埋土からここでは弥生時代とする。



第14図　掘立1測量図

掘立4（第16図、写真図版1・6）

調査区中央部やや北東に位置し、SK7・12・16を切る。検出した掘立柱建物の中でも、唯一ほぼ正方位に配置された建物で、東半は調査区外に展開する（真北から5°程度東に振れる）。建物は東西棟で、規模は桁行3間以上、梁行2間、床面積（検出面積）28.99㎡以上を測る。柱間寸法は桁行2.56～2.74m、梁行1.80～1.85mを測る。柱穴の規模は長径26～84cmの円形～やや隅丸の方形を呈し、深さ25～39cmを測る。埋土は褐灰色土で、一部黒褐色土が混ざる。遺物は弥生時代前期末～中期初頭の土器片が多く出土するが、P3・4・5からは須恵器胴部片が出土している。3は甕形土器口縁部片で、端部に刻目、口縁下に多条沈線。

時　期　明確な時期を比定できる遺物の出土はなく、ここでは出土遺物と埋土、周辺状況から古代とする。

掘立5（第17図、写真図版6）

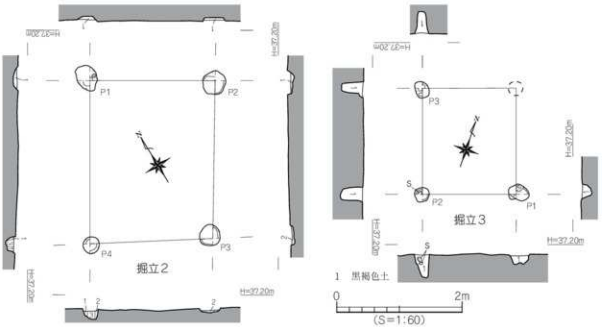
調査区北部南端に位置し、南半は調査区外に展開する。建物は南北棟で、検出規模は桁行2間以上、梁行1間、床面積8.82㎡以上である。柱間寸法は桁行2.84m、梁行3.16以上となる。柱穴の規模は長径50～55cmの楕円形で、深さ19～27cmを測る。埋土は褐灰色土である。遺物はP1より弥生土器胴部片、P3より4の瓦器塊が出土している。

時　期　出土遺物より12世紀以降とする。

掘立6（第18図、写真図版3・6）

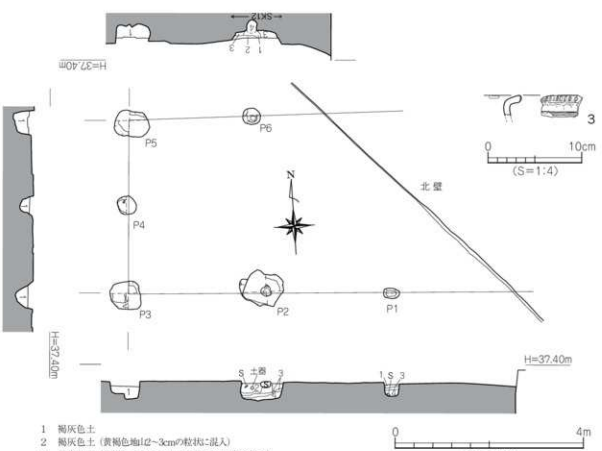
調査区中央やや南東部、SB3・4内に位置し、SK2を切る。建物は南北棟で、規模は桁行1間、梁行1間、床面積2.91㎡である。柱間寸法は桁行1.84・1.92m、梁行1.50・1.60mを測る。柱穴の規模は長径22～27cmの円形～楕円形を呈し、深さ10～27cmを測る。埋土は褐灰色土主体で、一部明黄色土の地山が混入する。遺物はP1より弥生土器胴部片、P2より5の弥生時代甕形土器口縁部片、および6のサヌカイト製の石鏃、その他弥生土器胴部片が出土している。位置関係からSB3・4の付属施設ではないと考えられる。

時　期　出土遺物から弥生時代前期末～中期初頭である。



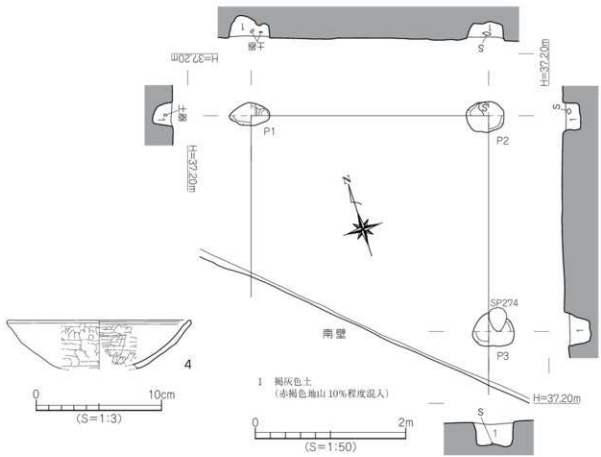
1 灰褐色土（黄褐色地山が粒状に少量混入） 2 灰褐色土（赤褐色地山が粒状に少量混入） 3 褐灰色土

第15図 掘立2・3測量図

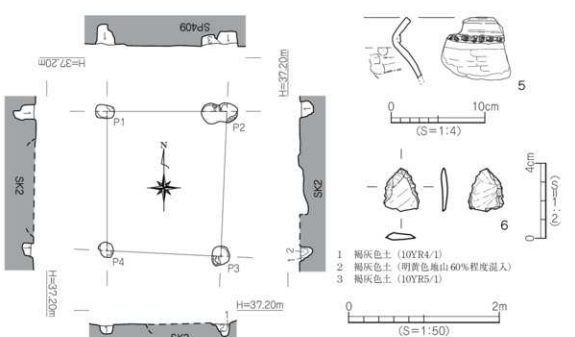


1 褐灰色土
2 褐灰色土（黄褐色地山φ2～3cmの粒状に混入）
3 黒褐色土（黄褐色地山φ0.5～3cmの粒状に30%程度混入）
4 黒褐色土

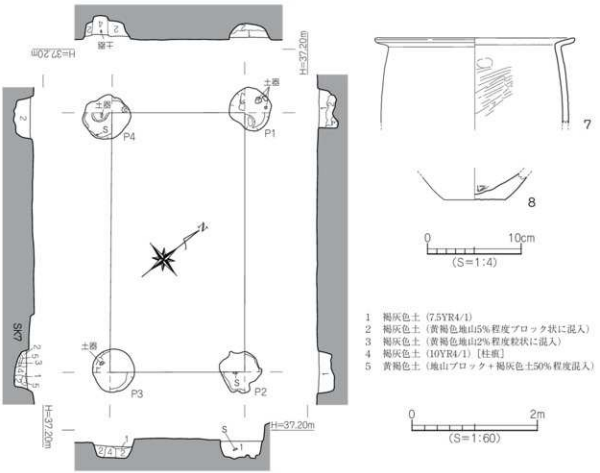
第16図 掘立4測量図・出土遺物実測図



第17図　掘立5測量図・出土遺物実測図



第18図　掘立6測量図・出土遺物実測図



第19図　掘立7測量図・出土遺物実測図

掘立7（第19図．写真図版2・6）

調査区北西部に位置し、SK7を切る。建物は北西－南東方向で、規模は桁行1間、梁行1間、床面積8.66㎡である。柱間寸法は桁行4.08・4.09m、梁行2.10・2.13mを測る。柱穴の規模は長径65～71cmのほぼ円形を呈し、深さ16～30cmを測る。埋土は褐灰色土を主体とし、一部黄褐色土の地山がブロック状に混入する。遺物はP1・2・4から弥生土器の胴部片、底部、口縁部片が出土している。7は甕形土器、8は壺形土器の底部である。

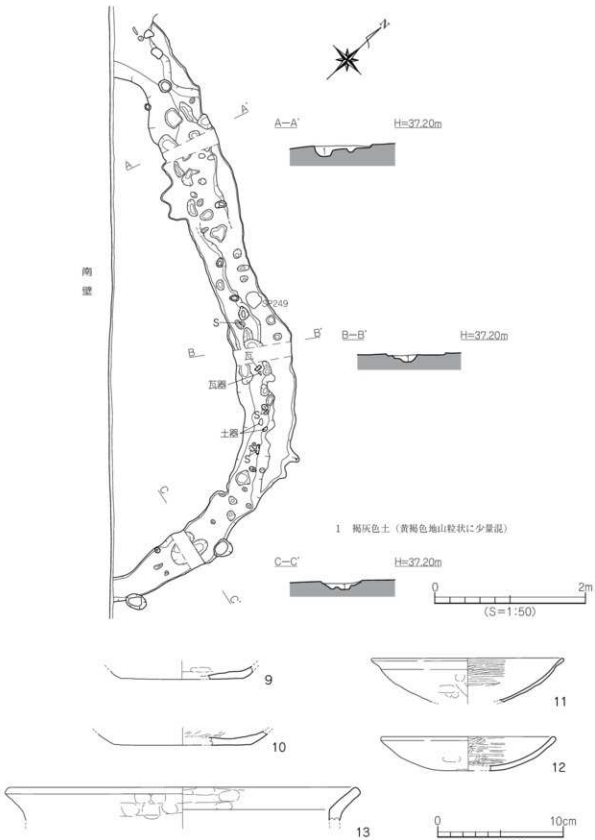
時　期　出土遺物から弥生時代前期末以降とする。

3）溝（SD）

SD1（第20図．写真図版3・7）

調査区中央南西部端に位置し、西－東－南へ折れ曲がるように走る浅い溝である。検出規模は、全長8.86m、幅0.57～0.80m、深さ2～14cmを測る。断面形態は皿状で、床面は多数の小穴が見られ、窪みが多い。埋土は褐灰色土の単一層である。断面観察からは、常時流水があった溝とは思われない。小穴の埋土も同様であるため、同時期もしくは溝に伴う可能性もある。遺物9・10は土師器の坏。11・12は瓦器塊。13の土師器の甕のほか、弥生土器、須恵器、土師器および古代の縄目平瓦、瓦器の小片が出土している。

時　期　出土遺物から、13世紀以降とする。



第20図　SD1測量図・出土遺物実測図

4）土坑（SK）

ＳＫ１（第21図、写真図版3）

調査区南東部に位置し、遺構南東隅部は調査区外に展開し、SP4・6・8に切られる。平面形態は長方形で、規模は長軸3.18m、短軸1.84m、深さ16cmを測る。断面形態はゆるやかな逆台形状で、底面は平坦であるが一部落ち込みが見られる。埋土は褐灰色土で、落ち込み部分は褐色土である。遺物は、14の弥生土器底部片のほか、弥生土器胴部片多数、須恵器口縁部片1点が出土している。この須恵器は出土状況から、上層からの流れ込みと思われる。

時　期　出土した遺物から弥生時代とするが、それ以上の時期の特定はできない。

ＳＫ２（第22図、写真図版3・4）

調査区中央や南東部に位置し、掘立6、SP62に切られる。平面形態は長方形で、規模は長軸2.19m、短軸1.28m、深さ16cmを測る。断面形態は、逆台形状で、底面は、中央部がやや落ち込んでいる。埋土は暗褐色土である。15の木葉文が施された弥生時代壺形土器胴部片のほか、弥生時代前期後半～末の土器小片が出土している。遺物は小片が多く、実測図は15のみとした。

時　期　出土した遺物から、弥生時代前期後半～末とする。

ＳＫ３（第23図）

調査区中央部に位置する。平面形態は長方形で、規模は長軸1.65m、短軸1.12m、深さ6cmを測る。断面形態は遺構の削平度合が大きく、残りが悪いが、逆台形状である。底面はほぼ平坦である。埋土は、灰褐色土の単一層である。遺構の両短辺ほぼ中央には小穴があり、規模は径18～20cm深さは22cmを測り、埋土は土坑と同じである。小穴の断面は、土坑壁面側が垂直に立ち上がる。この小穴をともなう土坑は、来住周辺では時折見かける土坑で、両端の小穴は土坑にともなう屋根の柱の跡の可能性が指摘されている。図示できる遺物の出土はなく、弥生土器胴部片が出土している。

時　期　出土した遺物、土坑と小穴の構成、周辺の遺構状況から、弥生時代前期末～中期初頭とする。

ＳＫ４（第24図）

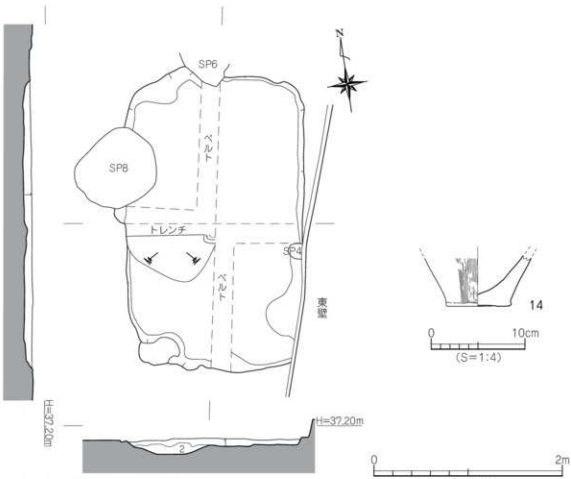
調査区中央に位置し、SK5、SP164に切られる。平面形態はやや不定形な方形である。規模は、長軸2.15m、短軸1.01m、深さ17cmを測る。断面形態は逆台形状で、底面には小穴が数基と、浅い落ち込みが見られる。埋土は灰褐色土の単一層である。遺物は、胴部に木葉文が施される弥生土器の16や列点文の上下2段の多条の沈線が施される弥生時代甕形土器片や、胴部小片が出土している。

時　期　出土した遺物から、弥生時代前期末～中期初頭とする。

ＳＫ５（第25図）

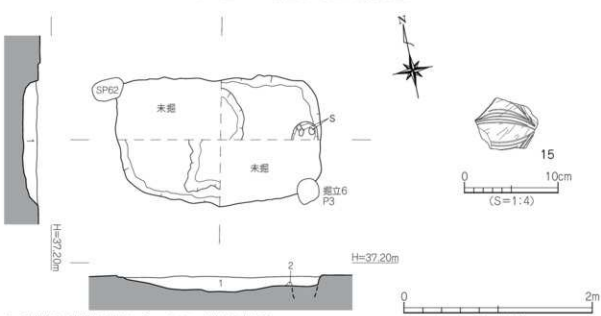
調査区中央に位置し、SK4を切り、SK3に切られる。規模は、長軸1.30m、短軸0.95m、深さ16cmを測る。平面形態は、やや不定形な円形で、断面形態は、ほぼ船底形で、底面は平坦ではなく凹凸が多い。遺物は、図示できるものはないが、弥生時代の断面三角形の貼付け口縁部に刻目が巡る甕形土器口縁部小片や、胴部小片が出土している。

時　期　出土した遺物から、弥生時代前期末～中期初頭とする。



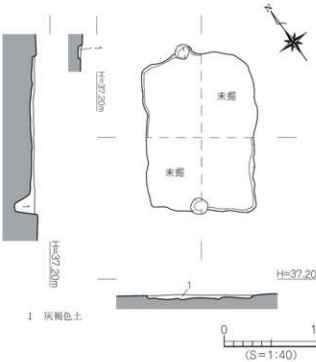
1　褐灰色土（黄褐色地山粒状に10%程度混入）
2　褐色土（黄色地山ブロック状に混入、黒褐色土10%程度混入）

第21図　SK1測量図・出土遺物実測図

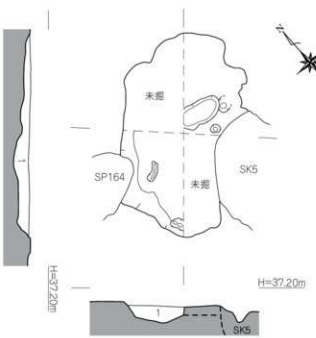


1　暗褐色土（黄褐色地山が2~5mmのブロック状に含まれる）
2　1層より黄褐色地山の割合多い

第22図　SK2測量図・出土遺物実測図



第23図　SK3測量図



第24図　SK4測量図・出土遺物実測図

ＳＫ６（第25図）

調査区中央やや北西に位置し、SP203～205・207・211・212に切られる。平面形態はやや不定形な長方形で、規模は、長軸1.94m、短軸0.74m、深さ7cmを測る。断面形態は逆台形状で、底面は窪みが多くみられる。埋土は褐灰色土の単一層である。遺物の出土はない。

時　期　遺物の出土もなく不明。

ＳＫ７（第26図）

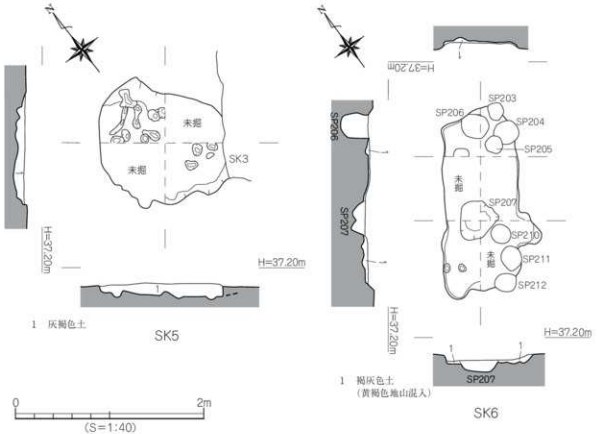
調査区北西部に位置し、掘立4・7に切られる。平面形態は方形で、規模は、1.46×1.22m、深さ23cmを測る。断面形態は逆台形状で、底面はほぼ平坦である。埋土は、暗褐色土で一部褐灰色土が混じる。また、遺構内から遺物の出土はなく、小穴を数基確認したが、断面状況から土坑にはともなわない。

時　期　掘立7との切り合い関係から、弥生時代前期末以前とする。

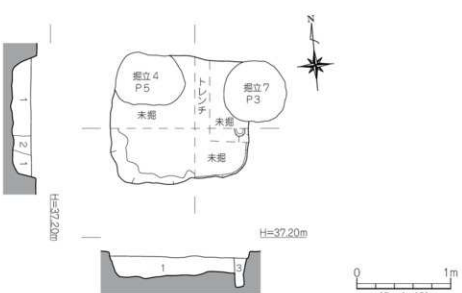
ＳＫ８（第27図．写真図版2・4・6）

調査区北西部SK7に隣接し、SK18を切る。平面形態は長方形で、規模は、長軸1.68m、短軸1.10m、深さ28cmを測る。断面形態は逆台形状で、底面はほぼ平坦である。埋土は上層より灰褐色土、黒褐色土の2層で、上層の灰褐色土中には、明黄褐色土、灰白色土、明黄褐色土が小ブロック状に混入する。遺物は弥生土器胴部片が多数出土している。17は甕形土器で口縁端部および頸部下には段を有し、段部には縦方向の刻目が巡る。18は荒割段階の方形石庖丁未製品である。短辺中央は穿ち途中で、隅角部が欠損している。

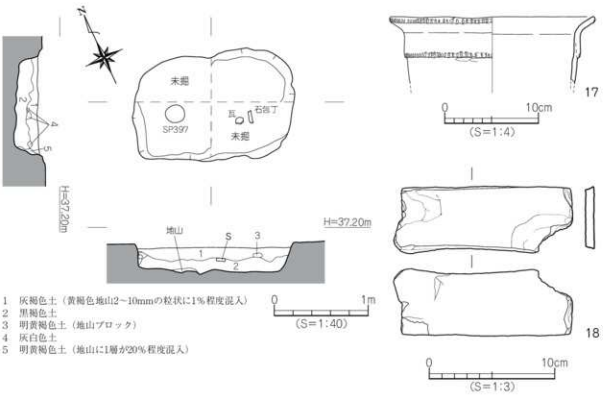
時　期　出土した遺物から弥生時代前半とする。



第25図　SK5・6測量図



第26図　SK7測量図



第27図　SK8測量図・出土遺物実測図

ＳＫ９（第28図、写真図版4・6）

調査区北西部に位置する。平面形態は長方形で、規模は、長軸1.45m、短軸0.95m、深さ19cmを測る。断面形態は逆台形状で底面は浅い窪みが見られる。埋土は上層より灰褐色土、褐灰色土の2層で、遺構の小穴は埋土が同じことから、付属する可能性が高い。遺物19・20は底面回転糸切り痕を残す土師皿が出土。そのほか図示していないが、瓦器椀口縁部片、須恵器胴部片、弥生土器胴部片が出土している。

時　期　出土遺物から中世とする。

ＳＫ10（第29図）

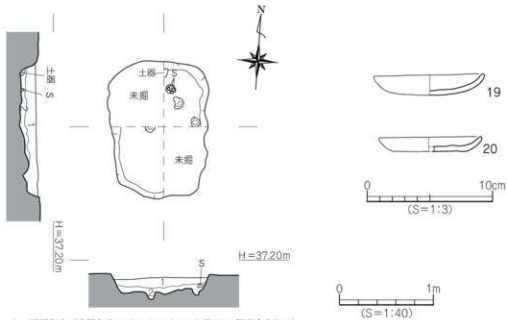
調査区北西部に位置し、西半は調査区外に展開する。平面形態は方形と思われる。検出規模は、南北1.43m、東西0.46m、深さ25cmを測る。断面形態は逆台形状で、底面はゆるい窪みが見られる。埋土は上層より灰褐色土、褐色土の2層である。遺物の出土はない。

時　期　時期を特定できる遺物の出土はなく、不明。

ＳＫ11（第29図）

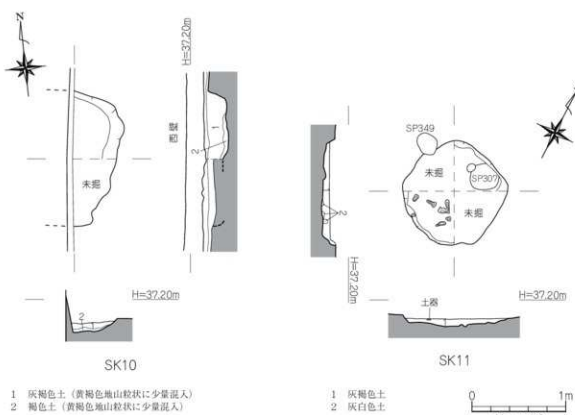
調査区中央やや北西部に位置し、掘立7と空間的に重複し、SP349に切られる。平面形態はやや角ばった径1.10m～1.10mの円形で、断面形態は皿状、底面は平坦である。埋土は、灰褐色土である。遺物は弥生土器胴部片が出土している。

時　期　明確に時期を特定できる遺物の出土はないが、出土遺物の状況から、弥生時代前期末～中期初頭とする。



1　灰褐色土（赤褐色土5～20mmのブロック状に3%程度含まれる）
2　褐灰色土

第28図　SK9測量図・出土遺物実測図



1　灰褐色土（黄褐色地山粒状に少量混入）
2　褐色土（黄褐色地山粒状に少量混入）

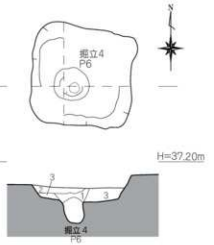
1　灰褐色土
2　灰白色土

第29図　SK10・11測量図

ＳＫ12（第30図、写真図版2）

調査区中央北部に位置し、掘立4に切られる。平面形態は隅丸の方形で、東西1.04m、南北1.08m、深さ15cmを測る。断面形態は逆台形状で、底面は平坦である。埋土は、上層より褐灰色土、暗褐色土であるが、上層の褐灰色土は後世の混入土と考える。検出時は、掘立4の掘方とも考えたが、他の柱穴の埋土が主に褐灰色土で一部暗褐色土が混じる程度であったため、単独の土坑とした。遺物は21のサヌカイト製の剥片のほか、弥生土器胴部小片が出土している。

時　期　出土遺物から、弥生時代としか言えない。



第30図　SK12測量図・出土遺物実測図

ＳＫ13（第31図、写真図版6）

調査区北西部に位置し、SP181に切られ、掘立4に空間的に重複する。平面形態は不定形で、断面形態は袋状である。検出規模は、長軸1.72m、短軸0.49m、深さ48cmを測る。埋土は、上層より褐灰色土、暗褐色土である。遺物は、22の頸部に多条沈線、口縁端部に刻目後沈線を巡らす弥生土器のほか、23の緑色片岩製石庖丁刃部片が出土している。

時　期　出土遺物から、弥生時代前期末～中期初頭とする。

ＳＫ14（第32図）

調査区中央やや北部に位置し、掘立4と空間的に重複する。平面形態は、角がゆるい方形で、規模は、長軸1.04m、短軸0.82m、深さ5～15cmを測る。断面形態は皿状で、床面は一部深くなり、段状を呈する。埋土は、暗褐色土の単一層である。遺物は図示できるものはなく、弥生時代前期の甕胴部小片が出土している。

時　期　出土遺物から、弥生時代前期とする。

ＳＫ15（第33図、写真図版7）

調査区中央北端に位置し、SP16を切り、SP136に切られ、掘立4に空間的に重複する。東半は調査区外に展開する。平面形態は楕円形で、検出規模は推定、長軸1.15m、短軸0.96m、深さ18cmを測る。断面形態は逆台形状である。床面はほぼ平坦で、埋土は暗褐色土の単一層である。遺物は、縄目文様の平瓦24・25の2点が出土している。

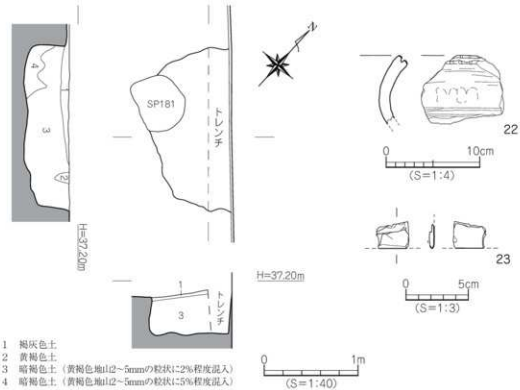
時　期　出土遺物から古代とする。

ＳＫ16（第34図、写真図版6）

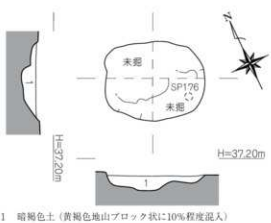
調査区中央北部に位置し、掘立4、SK15、SP137～141・406に切られ、SX1を切る。平面形態は楕円形で、推定規模は、長軸2.19m、短軸1.17m、深さ25cmを測る。断面形態は他遺構に切られ不明瞭であるが、逆台形状と思われる。床面はやや東部から西部に緩く傾斜する。埋土は、暗褐色土である。

遺物26は、弥生土器の甕の口縁部で、端部は半円形で幅広の刻みが施され、胴部に多条沈線の下部に刺突文をセットとして描かれる。その他弥生土器胴部小片が出土している。

時　期　出土遺物から、弥生時代前期末～中期初頭とする。



第31図　SK13測量図・出土遺物実測図



第32図　SK14測量図

ＳＫ17（第35図）

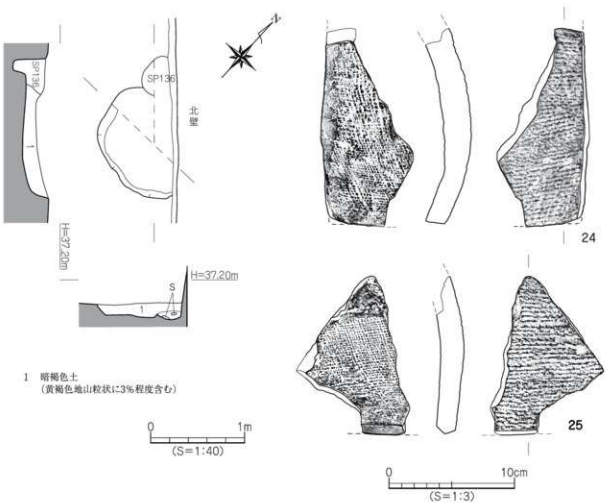
調査区中央南東に位置し、SP99に切られる。平面形態は不整形で、検出規模は、長軸1.04m、短軸0.86m、深さ8cmを測る。断面形態は逆台形状で、床面は一部窪みや小穴が見られるが、それ以外は平坦である。埋土は褐灰色土で窪み部分は暗褐色土である。遺物の出土はない。

時　期　出土遺物もなく、不明である。

ＳＫ18（第35図）

調査区北西部SK7に隣接し、SK8、SP328に切られ、全容は不明である。平面形態は残存する形状から方形と考えられ、検出規模は、長軸1.13m、短軸0.65m、深さ23cmを測る。埋土は、明黄褐色土で一部褐灰色土が見られる。遺物の出土はない。

時　期　遺物の出土はないが、SK8との切り合い関係から、SK8（弥生時代前半）よりも先行する時期とする。



第33図　SK15測量図・出土遺物実測図

5）性格不明遺構（SX）

ＳＸ１（第36図）

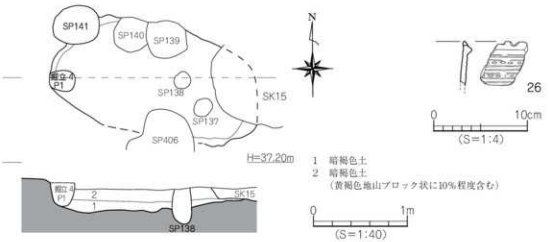
調査区中央に位置し、SK16、SP406・142～145に切られる。平面形態は不整形で、検出規模は、南北2.03m、東西1.89m、深さ4cmを測る。断面形態は遺構自体の残りが悪く、浅い皿状である。埋土は、褐灰色土である。遺物は、弥生土器胴部小片が多数出土しているが、弥生時代後半以降の口縁部小破片も出土している。27・28は甕形土器の底部。

時　期　出土遺物とSK16との切り合い関係から、弥生時代前期後半以降とする。

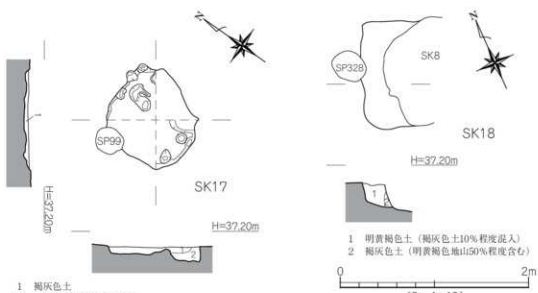
ＳＸ２（第37図、写真図版3）

調査区南東部に位置し、SB3・4と空間的に重複する。平面形態は北東－南西に長い不整形で、小穴が多数重複した遺構である。規模は、長軸2.60m、短軸0.27m、深さ2～18cmを測る。床面は、多数の小穴が見られ、窪みが多い。埋土は褐灰色土、明黄褐色土である。遺物は、弥生土器胴部小片が出土している。

時　期　出土遺物から、弥生時代とする。



第34図　SK16測量図・出土遺物実測図



第35図　SK17・18測量図

6）柱穴（SP）

ＳＰ67（第38図）

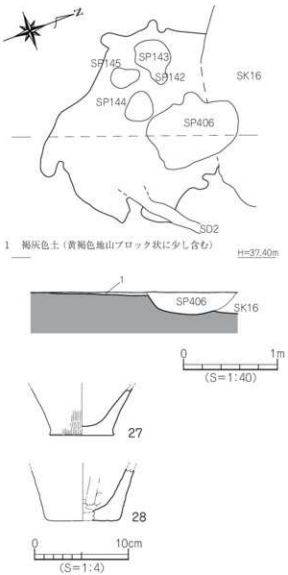
調査区南東部SK17南に位置する。平面形態はやや角ばった円形で、掘り方は2段掘が見られる。埋土は黄褐色土で、柱痕部は褐灰色土である。遺物29・30は、土師器の皿または埦の底部、31は土師器小片、32は13世紀前半の瓦器小皿である。

時　期　出土遺物から13世紀前半とする。

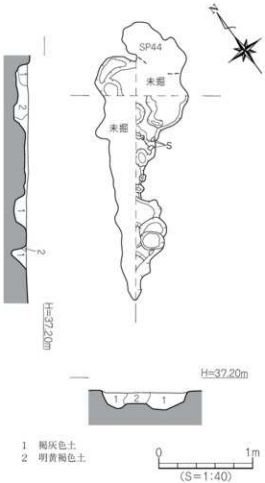
ＳＰ75（第39図）

調査区中央南部に位置する小穴である。平面形態は円形で、深さ9～11cmを測る。断面形態は逆台形状で、底面は東部がやや深いがほぼ平坦。埋土は褐灰色土である。遺物は、33の土師器の坏が出土している。底部は回転糸切り痕が残る。

時　期　出土遺物から14 世紀代とする。



第36図　SX1測量図・出土遺物実測図



第37図　SX2測量図

ＳＰ164（第39図）

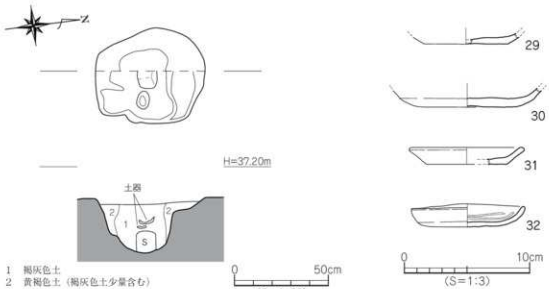
調査区中央に位置し、SK4を切る。平面形態は楕円形で、規模は、径62～88cm、深さ9cmを測る。断面形態は逆台形状で、底面は平坦である。埋土は黒褐色土で、赤褐色の粘土小ブロックが混入する。遺物は、34の土師器坏口縁部片が出土している。

時　期　出土遺物から古代とする。

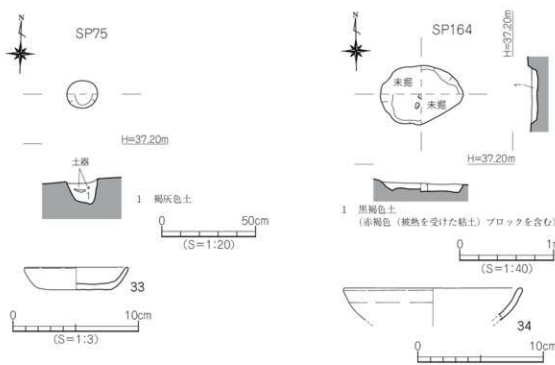
ＳＰ228・229（第40図，写真図版7）

調査区中央に位置するSP228・229は、SP229の大半をSP228が切る。SP228は平面形態が円形で、断面形態は筒状である。埋土は暗褐色土である。遺物は、埋土中より、35の黒曜石の剥片が出土している。長さ3.65cm、幅0.3cm、重さ2.31gを計る。

時　期　時代を特定できる遺物もなく不明。



第38図　SP67測量図・出土遺物実測図

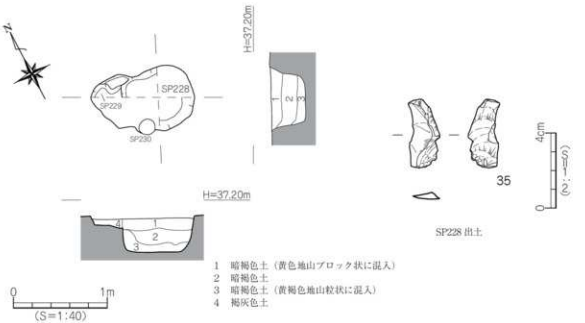


第39図　SP75・164測量図・出土遺物実測図

ＳＰ310（第41図）

調査区北西部、掘立5と掘立2の間に位置する。平面形態は円形で、規模は、径25～29cmを測る。埋土は暗褐色土で、一部褐灰色土、赤褐色土が入る。遺物は、36の口縁部に刻目、頸部下から胴部にかけて多条の沈線に刺突文が施される、弥生時代前期末～中期初頭の土器片が出土している。

時　期　出土遺物から、弥生時代前期末～中期初頭とする。



第40図　SP228・229測量図・出土遺物実測図

ＳＰ334（第42図）

調査区北西部端に位置し、掘立1に空間的に重複する。平面形態は不整形で、規模は、長軸45cm、短軸26cmを測る。断面形態は段落ちが見られる逆台形状で、土底が9cm、下底が28cmを測る。埋土は褐灰色土の単一層である。遺物は、37の土師器皿が出土している。底部に回転糸切り痕が残る。

時　期　出土遺物から、14世紀代とする。

ＳＰ350（第42図）

調査区北西部に位置し、掘立7と空間的に重複する。平面形態はやや不整形な円形である。埋土は暗褐色土に赤褐色土（ブロック状）混じりで、柱痕部は暗褐色土である。遺物は埋土から、38の弥生時代前期末～中期初頭の甕形土器口縁部片が出土している。口縁部は水平に伸び、端部は刻目を施す。頸部下には刻目を施す突帯が巡る。そのほか、39の石器剝片が出土している。

時　期　出土遺物から、弥生時代前期末～中期初頭とする。

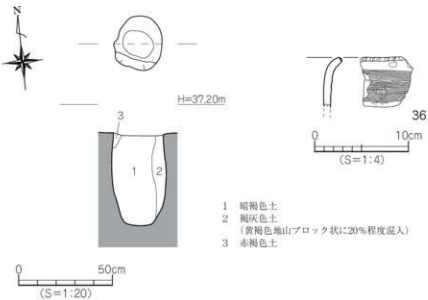
ＳＰ379（第43図）

調査区北西部に位置する。平面形態は円形で、規模は、径68～73cm、深さ21cmを測る。断面形態は逆台形状で、底面は平坦である。埋土は褐灰色土で一部焼土塊が混入する。遺物は、40の土師器坏が出土している。

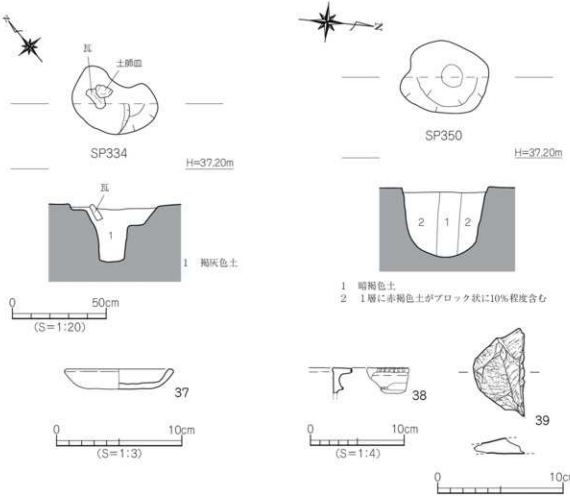
時　期　出土遺物から、13世紀代とする。

その他の遺物（第44・45図、写真図版7）

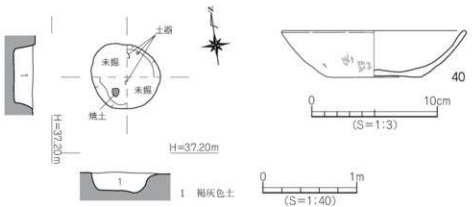
そのほか、包含層など位置不明のものとして、41～48の遺物が出土している。また、柱穴9基（SP19・59・68・77・92・107・116・123・404）からは49～60の弥生時代の壺・甕の口縁部片のほか坏、高坏、土師皿片や古代平瓦片が出土している。



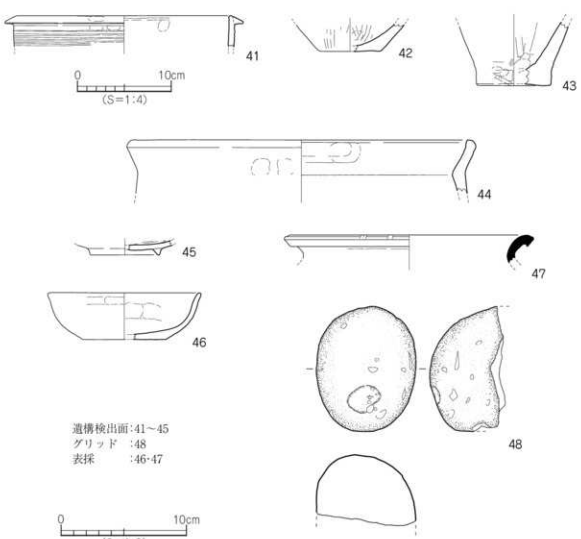
第 41 図　SP310 測量図・出土遺物実測図



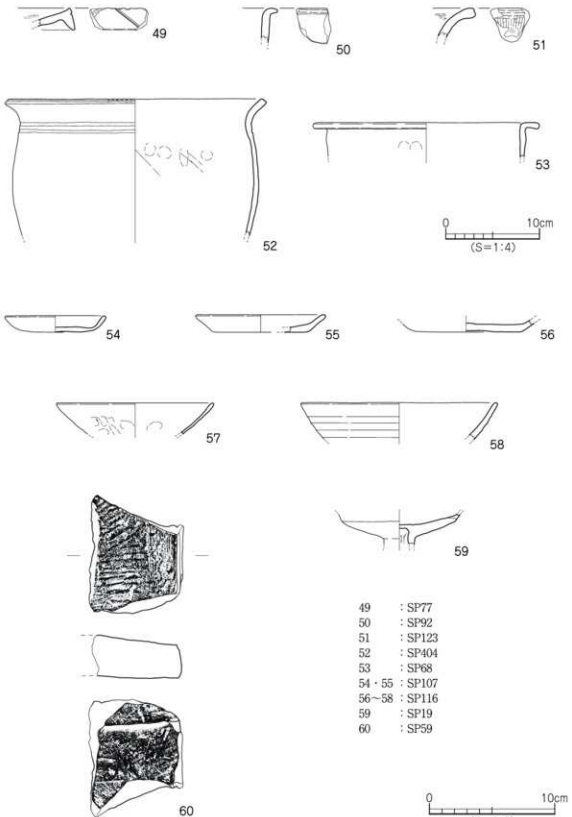
第42図　SP334・350測量図・出土遺物実測図



第43図　SP379測量図・出土遺物実測図



第44図　包含層・その他出土遺物実測図



第45図　SP出土遺物実測図

第6節　小　結

今回の調査は、久米官衙遺跡群の中でも主要な遺構である回廊状遺構西方において、官衙関連施設が存在していたかどうかを確認することを主目的に行った。見つかった遺構は、弥生時代、古代、中世と幅広く、掘立柱建物7棟、竪穴住居4棟、土坑18基、溝1条、その他建物を構成できなかった柱穴400基以上、性格不明遺構2基が検出された。以下、主な遺構ごとにまとめを行う。

掘立柱建物：掘立柱建物は7棟検出された。掘立1・2・3および掘立6・7は出土遺物から弥生時代と考えられ、弥生時代前期には来住台地上で本調査地も含め集落が展開していたことが分かる。

また、古代の建物として東西に長い掘立柱建物の掘立4がある。建物規模や柱穴について検討を加えたが、位置関係や柱穴の形状から、掘立4は東西棟で調査区外東に展開すると考えられ、おそらくは桁行3間または4間程度ではないかと推定される。以下、掘立4の特徴をまとめる。

1. 建物は南北2間、東西3間以上の東西棟である。ただし、規模は主要官衙施設の政庁や正倉院関連の建物と比較しても小ぶりの側柱建物である。
2. 柱掘方の平面形状はほぼ方形で、しっかりとした掘方をもつ。
3. 埋土は褐色土から黒褐色土である。
4. 建物の方位がほぼ真北（正方位）である。正確には5度程度東に振る。

これら建物の特徴は、従来より考えられてきた官衙関連施設の条件にほぼ合致するものであるが、調査でこの外に官衙関連施設の可能性がある建物が見られないことや官衙関連の特徴的な遺物の出土もなく、主要官衙施設としては積極的に評価はできない。おそらくは掘立4は雑舎的な建物で、役所の実務的な部署を担っていたのではないかと考えられる。その他、中世では掘立5がある。

土坑（SK）：土坑は18基見つかっている。土坑の時期は大半が弥生時代前期末から中期初頭である。ただし、SK8については弥生時代前期でもやや古手の土器が出土している。SK3では土坑の長軸方向に小穴が二つ伴って検出した。これは以前よりこの来住台地上で弥生時代前期末～中期初頭の土坑によく見られるもので、土坑の上に屋根を伴う貯蔵施設ではないかと考えられている。

柱穴（SP）：SP116からは、13世紀代の土師皿が柱穴内で垂直に立てられた状態で見つかっている。おそらく地鎮など柱穴内祭祀を行ったものと考えられる。こういった事例は県内でも200例を超える報告があり、中予地域でも120件ほどの報告がある。また、このような柱穴内祭祀を行う付近では中核的な中世集落が見つかる例があり、当地でも中世有力者の大型建物や中心的な集落が存在する可能性も考えられる。

最後に今回の大きな調査目的である、回廊状遺構の西方での有力な官衙関連施設の有無については、結果的には有力官衙施設に匹敵する遺構は確認できず、現時点では本調査地を含め台地の南西域において有力な官衙施設を確認するには至らなかった。ただし、官衙関連施設としては雑舎的な建物とする掘立4の確認によって、本調査地まで官衙関連の施設が展開する可能性を示す資料が得られた。このことは周辺調査地と本調査地を総合的に検討すれば、当地周辺は官衙関連施設が展開する南西端部に当たると言える。

遺物観察表　－ 凡例 －

（1） 以下の表は、本調査地検出の遺構・遺物の計測値及び観察一覧である。

（2） 遺物観察表の各掲載について

法量欄　（ ）：推定復元値

調整欄　土製品の各部名称を略記した。
例）口→口縁部、底→底部。

胎土欄　胎土欄では混和剤を略記した。
例）石→石英、長→長石、砂→砂粒、金→金ウンモ、密→精製土。
（ ）の中の数値は混和剤粒子の大きさを示す。
例）石・長（1～4）→「1～4mm 大の石英・長石を含む」である。

焼成欄　焼成欄の略記について。◎→良好、○→良。

表2　竪穴住居一覧

竪穴(SB)	時期	平面形	規模（m）長さ(長径)×幅(短径)	埋土	床面積(㎡)	主柱穴(本)	内部施設				備考
							高床	土坑	炉	カマド	
1	弥生	円形	4.95 × 3.98 以上	暗褐色土	15.37 以上	推定 8 本	－	－	－	－	
2	弥生	円形	6.80 × 3.11 以上	暗褐色土	15.66 以上	推定 12 本	－	－	－	－	
3	弥生	円形	5.05 × 4.80	暗褐色土 赤褐色土	17.6	8 本	－	－	－	－	
4	弥生	円形	5.14 以上× 4.83	暗褐色土	18.61 以上	推定 8 本	－	－	－	－	

表3　掘立柱建物一覧

掘立	規模（間）	方向	桁行		梁行		床面積(㎡)	時期	備考
			実長(m)	柱間寸法(m)	実長(m)	柱間寸法(m)			
1	4 ×(2)	南北	4.52	0.82 ～ 1.40	2.60以上	1.60・1.70	11.85以上	弥生時代	
2	1 × 1	北東－南西	2.58	2.50・2.58	2	1.96・2.00	5.06	弥生時代	
3	1 × 1	北西－南東	1.68	1.68	1.5	1.5	2.52	弥生時代	
4	(3) × 2	東西	8.16 以上	2.56 ～ 2.74	3.65	1.80 ～ 1.85	28.99以上	古代	正方位を向く SK7・12・16を切る
5	(2) × 1	南北	3.5 以上	2.84	3.16	3.16	8.82以上	12世紀以降	
6	1 × 1	南北	1.92	1.84・1.92	1.6	1.50・1.60	2.91	弥生前期末～中期初頭	SK2を切る
7	1 × 1	北西－南東	4.09	4.08・4.09	2.13	2.10・2.13	8.66	弥生前期末以降	SK7を切る

表4　溝一覧

溝(SD)	地区	断面形	規模（m）長さ(長径)×幅(短径)×深さ	方向	埋土	出土遺物	時期	備考
1	B ～ D・5 ～ 7	皿状	8.86 × 0.57 ～ 0.80 × 0.02 ～ 0.14	西-東-南	褐灰色土	弥生・須恵土師・瓦器	13世紀以降	

表5　土坑一覧

土坑(SK)	地　区	平面形	断面形	規　模　(m) 長さ(長径)×幅(短径)×深さ	床面積(㎡)	埋　土	出土遺物	時　期	備　考
1	I～J・10～11	長方形	逆台形	3.18 × 1.84 × 0.16	5.44	褐灰色土 褐色土	弥生 須恵	弥生時代	SP4・6・8に切られる
2	G～H・8～9	長方形	逆台形	2.19 × 1.28 × 0.16	2.62	暗褐色土	弥生	弥生前期後半～末	掘立6，SP62に切られる
3	E・6～7	長方形	逆台形	1.65 × 1.12 × 0.06	1.89	灰褐色土	弥生	弥生前期末～中期初頭	SK5を切る
4	D～E・5～6	不定方形	逆台形	2.15 × 1.01 × 0.17	2.04	灰褐色土	弥生	弥生前期末～中期初頭	SK5，SP164に切られる
5	D～E・6	不定円形	船底形	1.30 × 0.95 × 0.16	1.45	灰褐色土	弥生	弥生前期末～中期初頭	SK3に切られ，SK4を切る
6	C～D・4	不定 長方形	逆台形	1.94 × 0.74 × 0.07	1.51	褐灰色土		不明	SP203～205・207・211・212に切られる
7	C・3～4	方形	逆台形	1.46 × 1.22 × 0.23	1.89	暗褐色土 褐灰色土		弥生前期末以前	掘立4・7に切られる
8	B～C・3～4	長方形	逆台形	1.68 × 1.10 × 0.28	1.75	灰褐色土 黒褐色土	弥生 石器	弥生時代前半	SK18を切る
9	B・2	長方形	逆台形	1.45 × 0.95 × 0.19	1.34	灰褐色土 褐灰色土	弥生・土師 須恵	中世	
10	A・3～4	方形	逆台形	1.43 × 0.46 × 0.25	0.64	灰褐色土 褐色土		不明	
11	C・3	円形	皿状	1.10 × 1.10 × 0.15	0.89	灰褐色土	弥生	弥生前期末～中期初頭	SP349に切られる
12	D・3～4	隅丸方形	逆台形	1.08 × 1.04 × 0.15	1.06	褐灰色土 暗褐色土	弥生 石器	弥生時代	掘立4に切られる
13	D～E・3～4	不定形	袋状	1.72 × 0.49 × 0.48	1.08	褐灰色土 暗褐色土	弥生 石器	弥生前期末～中期初頭	SP181に切られる
14	D～E・4	隅丸方形	皿状	1.04 × 0.82 × 0.15	0.79	暗褐色土	弥生	弥生前期	
15	E～F・5	楕円形	逆台形	(1.15 × 0.96 × 0.18)	0.79	暗褐色土	瓦	古代	SK16を切り，SP136に切られる
16	E・5	楕円形	逆台形	(2.19 × 1.17 × 0.25)	1.37	暗褐色土	弥生	弥生前期末～中期初頭	掘立4，SK15に切られ，SX1を切る
17	F～G・7～8	不整形	逆台形	1.04 × 0.86 × 0.08	0.71	褐灰色土 暗褐色土		不明	SP99に切られる
18	B・3～4	方形	逆台形	1.13 × 0.65 × 0.23	0.37	明黄褐色土 褐灰色土		弥生前期末～中期初頭	SK8，SP328に切られる

表6　性格不明遺構一覧

性格不明遺構(SX)	地　区	平面形	断面形	規　模　(m) 長さ(長径)×幅(短径)×深さ	床面積(㎡)	埋　土	出土遺物	時　期	備　考
1	E・5～6	不整形	皿状	2.03 × 1.89 × 0.04	2.65	褐灰色土	弥生	弥生前期後半以降	SK16，SP406・142～145に切られる
2	G～H 9～10	不整形	逆台形	2.60 × 0.27 × 0.18	1.51	褐灰色土 明黄褐色土	弥生	弥生時代	

表7　柱穴一覧　(1)

柱穴(SP)	地　区	平面形	規　模　(m) 長さ(長径)×幅(短径)×深さ	埋　土	出土遺物	時　期	備　考
67	F・8	円形	0.58 × 0.39 × 0.26	黄褐色土 褐灰色土	土師	13世紀前半	
75	F・8	円形	0.16 × 0.14 × 0.11	褐灰色土	土師	14世紀代	
164	D・6	楕円形	0.88 × 0.62 × 0.09	黒褐色土	土師	古代	SK4を切る
228	C～D・5	円形	0.78 × 0.68 × 0.36	暗褐色土	石器	不明	SP229を切る

柱穴一覧 (2)

柱穴(SP)	地区	平面形	規模 (m) 長さ(長径)×幅(短径)×深さ	埋土	出土遺物	時期	備考
310	B・4	円形	0.29 × 0.25 × 0.48	暗褐色土	弥生	弥生前期末～中期初頭	
334	A・3	不整形	0.45 × 0.26 × 0.28	褐灰色土	土師	14世紀代	
350	C・3	不整円形	0.46 × 0.38 × 0.34	暗褐色土	弥生 石器	弥生前期末～中期初頭	
379	A・2	円形	0.73 × 0.68 × 0.21	褐灰色土	土師	13世紀代	

表8 SB3出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
1	甕	底径 (6.8) 残高 7.9	平底の底部。	ナデ→ミガキ ㊧ナデ	ナデ	黒色 灰色・褐灰色	石・長(1～3) ◎	P5 黒斑	

表9 SB4出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
2	壺	底径 (9.3) 残高 1.5	底部。	ナデ? ㊧回転糸切り	マメツ 一部ヨコナデ	淡灰白色 黒褐色	密 ◎	P6	

表10 掘立4出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
3	甕	残高 2.3	折り曲げによる口縁部。端部に頸部に2条以上の沈線。	ナデ	ナデ ヨコナデ	乳灰褐色 乳褐色	石・長(1～3) ◎	P5 黒斑	6

表11 掘立5出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
4	壺	口径 (14.3) 残高 3.7	瓦質・和泉型。口縁部は内湾して立ち上がる。	㊧ヨコナデ ミガキ・ナデ	㊧ヨコナデ ミガキ	灰色・黒灰色 白灰色・黒灰色	石・長(1～2) ◎	P3	6

表12 掘立6出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
5	甕	残高 6.4	緩やかに折れ曲がる口縁部。端部は平坦に仕上げ、頸部に布目押圧突帯。	ナデ	ヨコナデ ハケ→ナデ	橙褐色 乳褐色	石・長(1～4) ◎	P2	6

表13 掘立6出土遺物観察表 石製品

番号	器種	残存	材質	法量 長さ(cm)	法量 幅(cm)	法量 厚さ(cm)	法量 重さ(g)	備考	図版
6	石鏃	ほぼ完形	サヌカイト	2.3	1.9	0.4	1.4	P2	6

表14 掘立7出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
7	甕	口径 (20.9) 残高 9.0	折り曲げによる口縁部。端部は丸く仕上げる。	㊧ヨコナデ マメツ	㊧ヨコナデ ナデ・ミガキ	乳灰褐色・黒褐色 茶褐色	石・長(1～4) ○	P1 黒斑	6
8	壺	底径 (6.4) 残高 2.8	平底。	マメツ	マメツ (木口痕)	にぶい黄橙色 灰黄色	石・長(1～4) ◎	P1	

表15　SD1出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
9	坏	底径（98） 残高　10	土師質。底部。	マメツ ㊗板状痕	ヨコナデ	乳橙褐色・淡灰色 乳橙褐色	長(1) ◎		
10	坏	底径（110） 残高　11	土師質。底部。	マメツ ㊗回転糸切り	ミガキ？	褐灰色・淡灰色 淡黄橙色	石(1～2) ◎	黒斑	
11	埦	口径（151） 残高　35	瓦質・和泉型。口縁部は内湾して立ち上がる。	ヨコナデ ナデ	ミガキ マメツ	黒灰色・灰白色 灰色・灰黒色	密 ◎		7
12	埦	口径（137） 残高　27	瓦質・和泉型。口縁部は内湾して立ち上がる。	ヨコナデ ナデ	ミガキ	黒灰色・白灰色 灰黒色	石(1～3) ◎		7
13	甕	口径（273） 残高　27	土師器の口縁部。	ナデ ヨコナデ	ヨコナデ	暗褐色 茶褐色	石・長(1～4) 金 ◎		7

表16　SK1出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
14	壺	底径　68 残高　53	平底。	ハケ(8～9本/cm) ヨコナデ ㊗ナデ	ナデ	にぶい黄橙色 褐灰色	石・長(1～5) 金 ○		

表17　SK2出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
15	壺	残高　5.5	無軸多条の木葉文を施す。	ミガキ	ナデ	にぶい黄橙色 黄橙色	石・長(1～2) 金 ○	黒斑	

表18　SK4出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
16	壺	残高　4.6	有軸多条の木葉文を施す。	マメツ	ナデ	にぶい橙色 橙色	石・長(1～3) 金 ○		

表19　SK8出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
17	甕	口径（21.5） 残高　7.1	緩やかに折れ曲がる口縁部。端部および頸部下に段を有し、段部に刻目。	ヨコナデ ミガキ→ナデ	ヨコナデ ナデ	にぶい黄橙色 灰黄褐色	石・長(1～3) 砂 ○		6

表20　SK8出土遺物観察表　石製品

番号	器種	残存	材質	法量 長さ(cm)	法量 幅(cm)	法量 厚さ(cm)	法量 重さ(g)	備考	図版
18	石庖丁	未製品 隅角部一部欠損	緑色片岩	14.2	5.3	0.7	115.2		6

表21　SK9出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
19	皿	口径　8.6 器高　1.7	土師質。やや丸みを帯びた底部。口縁部は内湾気味に立ち上がり、端部は丸く仕上げる。	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ ナデ	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	石・長(1) ○		6
20	皿	口径　8.0 器高　1.2 底径　5.8	土師質。平坦な底部。口縁部はやや内湾気味に立ち上がり、端部は丸く仕上げる。	マメツ (一部ヨコナデ) ㊗回転糸切り	ナデ マメツ	浅橙色 浅橙色	石・長(1) ○		

表22　SK12出土遺物観察表　石製品

番号	器種	残存	材質	法量 長さ(cm)	法量 幅(cm)	法量 厚さ(cm)	法量 重さ(g)	備考	図版
21	剥片		サヌカイト	3.3	2.4	0.6	3.29		

表23　SK13出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
22	壺	残高　7.3	緩く外反する口縁部。端部は平坦に仕上げ、刻目の後、沈線を施す。頸部には沈線２条以上。	ミガキ→ナデ ヨコナデ(指頭痕)	ミガキ→ヨコナデ ナデ	にぶい黄橙色 灰黄褐色	石・長（1～3） ○		6

表24　SK13出土遺物観察表　石製品

番号	器種	残存	材質	法量 長さ（cm）	法量 幅（cm）	法量 厚さ（cm）	法量 重さ（g）	備考	図版
23	石庖丁	刃部片	緑色片岩	2.5	2.0	0.4	3.93		

表25　SK15出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
24	瓦	残長　15.7 幅　7.1 厚さ　2.2	凸面細縄目、凹面布目。	細縄叩き	布目痕	灰色 灰色	密 ○		7
25	瓦	残長　12.6 幅　7.9 厚さ　1.9	凸面細縄目、凹面布目。	細縄叩き	布目痕	灰色 灰色	密 ○		7

表26　SK16出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
26	甕	残高　4.7	直立する口縁部の端部は、半円形の刻みを施す。断面三角形の貼り付け突帯直下に多条沈線＋刺突文。	ミガキ	ミガキ(マメツ)	にぶい黄褐色 黒色	石・長（1～4） 砂 ○		6

表27　SX1出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
27	甕	底径　(6.6) 残高　5.0	平底。	ハケ(6本/cm) ⑩ナデ	ナデ	褐灰色 にぶい褐色	石・長(1～3) ○		
28	甕	底径　(7.3) 残高　5.5	平底。	マメツ	ナデ	茶褐色 淡茶色・暗茶色	石・長(1～5) ○		

表28　SP出土遺物観察表　土製品　（1）

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
29	皿	底径　(7.8) 残高　0.8	土師質。小皿底部。	ナデ ⑩回転糸切り	ナデ	褐灰色・橙色 黄灰色	石・長(1) ○	SP67	
30	皿 or 埦	底径　(8.2) 残高　1.5	土師質。底部。	マメツ ⑩回転糸切り	マメツ	淡黄色 淡黄色	石・長(1) ○	SP67	
31	皿	口径　(8.6) 器高　1.3 底径　(6.4)	土師質。小皿底部。	①ヨコナデ ⑩ナデ	①ヨコナデ ⑩ナデ	灰黄褐色 黄灰色	石・長(1) ○	SP67	
32	皿	口径　(8.9) 器高　1.8 底径　(6.5)	瓦質の手捏ね小皿。内外黒色。	①ヨコナデ ⑩マメツ (回転糸切り?)	ナデ→ミガキ	黒色 黒色	密 ○	SP67	
33	坏	口径　8.0 器高　1.8 底径　5.7	土師質。口縁部は内湾気味に立ち上がり、底部は平坦。	①ヨコナデ ⑩回転糸切り 板状痕	①ヨコナデ ナデ	黄灰色 黄灰色	石・長(1) ○	SP75	
34	坏	口径　(14.0) 残高　2.6	土師質。内湾する口縁部。	ヨコナデ	ヨコナデ	灰白色 灰白色	密 ○	SP164	
36	甕	残高　5.3	口縁部は直立し、端部は強く外反する。端面に刻目、頸部下に多条沈線3段を施す。	①ヨコナデ ハケ(7本/cm) →ヨコナデ	①ヨコナデ マメツ	灰褐色 にぶい褐色	石・長(1～3) ○	SP310	
37	皿	口径　(8.4) 器高　1.6 底径　(5.6)	土師質。口縁部は外方に開き、端部は丸くおさめる。	ヨコナデ ⑩回転糸切り	ナデ	淡黄橙色 淡黄橙色	石・長(1) ○	SP334	
38	甕	残高　2.7	水平に伸びる口縁部。端部と頸部下の突帯に刻目。	ヨコナデ	マメツ	褐灰色 黒褐色	石・長(1～3) ○	SP350	
40	坏	口径　(14.2) 器高　3.7 底径　(7.6)	土師質。口縁部は緩やかに立ち上がり、端部は丸くおさめる。	マメツ ハケ(9本/cm) ⑩板状痕	ヨコナデ ⑩ナデ	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	石・長(1) ○	SP379	
49	壺	残高　2.3	口縁端部は下垂し、端面にヘラ描き山形文を施す。	ヨコナデ ハケ(5本/cm) →ナデ	ヨコナデ ナデ	橙色 橙色	石・長(1～2) ○	SP77	

SP出土遺物観察表　土製品　(2)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調(外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
50	甕	残高 3.8	口縁部は直立して立ち上がり、端部は強く屈曲する。	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ ナデ	灰褐色 にぶい黄橙色	石・長(1～4) ○	SP92	
51	甕	残高 3.6	緩やかに外反する口縁部。端部は面をなし、端面には浅い沈線が巡る。	ヨコナデ ハケ(5本/cm)	ハケ(5本/cm)	灰褐色 灰黄褐色	石・長(1～3) ○	SP123	
52	甕	口径 26.6 残高 14.5	緩やかに外反して立ち上がる口縁部に端部は面をなし、短目の後、沈線が巡る。頸部に2条の沈線。	◎ヨコナデ ナデ	◎ヨコナデ ナデ	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	石・長(1～3) 黒色粒多 ○	SP404 黒斑	
53	甕	口径 (20.0) 残高 3.7	口縁部は強く折り曲げられ、水平をなす。	マメツ	ヨコナデ ナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長(1～3) ○	SP68	
54	皿	口径 7.8 器高 1.3 底径 4.8	土師質。底部はやや丸みを帯び、口縁端部は丸くおさめる。	◎ヨコナデ マメツ	◎ヨコナデ ナデ	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	石・長(1) ○	SP107	
55	皿	口径 (10.0) 器高 1.4 底径 (7.6)	土師質。緩やかに立ち上がる口縁部に端部は丸くおさめる。	◎ヨコナデ ㊙マメツ	マメツ	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長(1～2) ○	SP107	
56	坏	底径 8.5 残高 1.0	土師質。坏底部。	マメツ	ヨコナデ ナデ	暗灰黄色 灰黄褐色	石・長(1) ○	SP116	
57	坏	口径 (12.2) 残高 2.5	瓦質。和泉型。	◎ヨコナデ ナデ	ナデ	にぶい黄橙色 灰色	密 ◎	SP116	7
58	坏	口径 (15.4) 残高 2.9	土師質。坏口縁部。	ヨコナデ	ナデ	灰白色 灰白色	石・長(1) ○	SP116	7
59	高坏	残高 2.4	坏底部。	マメツ(ナデ)	マメツ(ミガキ) 絞り痕	黄橙色 にぶい橙色	石・長(細粒) ○	SP19	
60	瓦	残長 9.2 幅 7.4 厚さ 3.2	平瓦。	縄文叩き	布目痕	灰黄色 にぶい黄橙色	密 ○	SP59	

表29　SP出土遺物観察表　石製品

番号	器種	残存	材質	法量 長さ(cm)	法量 幅(cm)	法量 厚さ(cm)	法量 重さ(g)	備考	図版
35	剥片	—	黒耀石	3.65	1.7	0.35	2.31	SP228	7
39	剥片	—	不明	7.0	4.0	1.3	32.7	SP350	

表30　遺構検出面出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調(外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
41	甕	口径 (22.4) 残高 3.3	断面三角形の貼付突帯。口縁部下に沈線5条以上。	ヨコナデ	ヨコナデ ナデ	暗灰茶色・乳茶色 暗茶色	石・長(1～5) ○		7
42	壺	底径 (6.0) 残高 2.8	平底。	ミガキ?	ミガキ?	橙褐色 橙褐色	石・長(1～2) ◎		
43	甕	底径 (7.6) 残高 6.7	平底。	ナデ・ハケ? ㊙ナデ	ナデ	茶褐色 暗灰色	石・長(1～4) 密 ◎		
44	甕	口径 (26.3) 残高 4.2	土師器。緩く内湾気味に立ち上がる口縁部。	ナデ マメツ	ヨコナデ マメツ	橙褐色 褐色	石・長(1～5) ◎		
45	坏	底径 (5.5) 残高 1.1	土師質。貼付高台の底部。	ヨコナデ	ミガキ?	乳褐色 乳灰色	石(1～2) ◎		

表31　表採出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調(外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
46	坏	口径 (11.8) 器高 3.7 底径 (6.2)	土師質。口縁部は内湾気味に立ち上がり、端部はやや外反する。	◎ヨコナデ ㊙回転糸切り	マメツ ヨコナデ	乳白色 乳白色	石(1～2) ◎		7
47	甕	口径 (18.9) 残高 2.3	須恵器。口縁部は強く外反し、端部は面をなす。端部上面に1条の沈線が巡る。	◎回転ナデ ナデ	回転ナデ	灰色 黒灰色	密 ◎		7

表32　グリッド出土遺物観察表　石製品

番号	器種	残存	材質	法量 長さ(cm)	法量 幅(cm)	法量 厚さ(cm)	法量 重さ(g)	備考	図版
48	敲石		砂岩	9.9	7.9	5.1	565.24		7

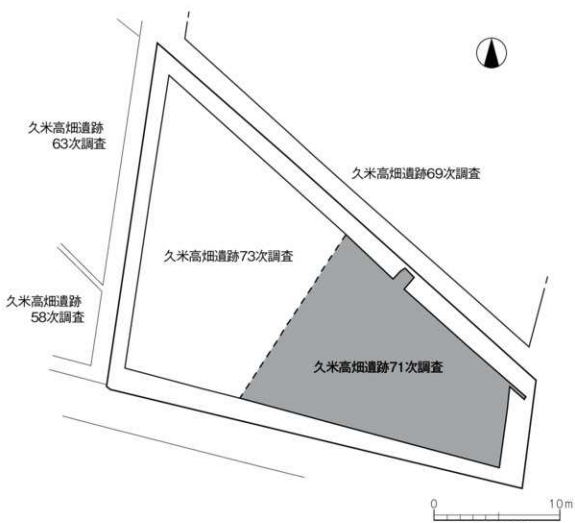
第Ⅲ章　久米高畑遺跡71次調査

第１節　調査の経過

（１）調査に至る経緯

本調査は、『史跡久米官衙遺跡群　久米官衙遺跡　来住廃寺跡』の性格解明を目的に実施した。松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地「№127 来住廃寺跡」内における重要遺跡確認調査（国庫補助事業）である。調査は特に、「回廊状遺構」の西方に古代の官衙関連施設が存在していたか否かを確認することを主目的とし、松山市教育委員会より業務を委託された財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センターが実施した。

今回の調査は国庫補助事業として、調査対象地の東半部を久米高畑遺跡71次調査、西半部を翌年度調査予定の同73次調査として平成20年11月より調査を行った。



第46図　調査地位置図

(2)調査の経緯

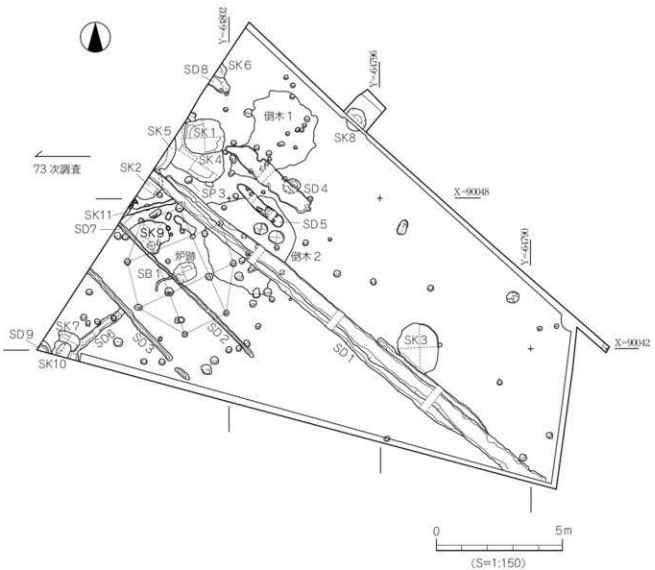
今回の調査対象地は、松山市来住町910番の一部で現況は田圃である。本調査は、この対象地東半部、約270㎡を発掘範囲として調査を行った。

平成20年11月17日、発掘調査機材や資材を搬入する。11月18日～19日、調査地の草刈りを行う。11月20日～27日、重機（バックホー、不整地走行車）により表土層である耕作土や床土を層毎に掘削し、27日に掘削を終了する。同日、現場保全の杭打ちロープ張りを行う。11月29日～12月1日、調査区壁面に排水トレンチを設ける。12月2日～3日、遺構検出作業を行う。12月3日、業者により基準点を打設する。12月4日、遺構検出写真撮影を行う。12月10日～16日、詳細な遺構検出作業を行う。12月17日、遺構図測量を開始する。12月18日から遺構の掘り下げを開始する。12月25日、SK4からガラス小玉が出土した為、土壌のふるいを行う。平成21年1月8日、各遺構の半裁作業を開始する。1月16日、6m四方のグリッドを設定し、測量用杭を打設する。2月6日、本調査において遺跡の検討会を行い、埋蔵文化財センター調査員から調査指導を受ける。2月10日、調査区外の北側と東側に地山面確認のサブトレンチを設ける。2月17日、全体清掃を行う。2月18日、遺構掘り下げ後の全体写真撮影を行う。2月21日、市民対象の現地説明会を開催し、市民約45名の参加をみた。2月23日～28日、重機（バックホー、不整地走行車）により埋め戻し作業を行い、埋め戻し作業終了後、田圃の復旧作業を行い、2月28日、発掘調査を終了する。

第47図　区割図

(3)調査組織

所　在　地：松山市来住町910番の一部
調 査 期 間：平成20年（2008）11月17日～平成21年（2009）2月28日
調 査 面 積：約270㎡
土地所有者：三好鐵己
調 査 目 的：重要遺跡確認調査
調 査 主 体：松山市教育委員会、[委託] 財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター
調 査 担 当：文化財課　楠　寛輝、埋蔵文化財センター　吉岡和哉



第48図　遺構配置図

第2節　層　位

(1)基本層位

調査地は、「回廊状遺構」西方、標高36.9mに位置し、調査以前は田圃であった。

調査地の基本層位は、以下のとおりである。

Ⅰ　耕作土　灰色（7.5Y4/1）粘質土・オリーブ黒色（7.5Y3/1）粘質土で、調査区全域に堆積し、厚さ14～25cmを測る。

Ⅱ　旧耕作土　－1　灰色（7.5Y6/1）粘質土に褐色（7.5YR4/4）土が疎らに混入し、北西部に堆積し、厚さ２～８cmを測る。

－2　灰色（7.5Y6/1）粘質土・灰白色（7.5Y7/1）粘質土に、明黄褐色（10YR6/6～6/8）粘質土が混入し、東端を除くほぼ全域に堆積し、厚さ3～10cmを測る。

－3　Ⅱ-2より明黄褐色（10YR6/6～6/8）粘質土が多く混入し、北東部に堆積し、厚さ２～７cmを測る。

Ⅲ　旧耕作土　灰色（7.5Y6/1）粘質土に灰白色（7.5Y7/1）粘質土や明黄褐色（10YR6/6）粘質土が多く混入する。

Ⅳ　旧耕作土　にぶい黄褐色（10YR5/3）粘質土に、Ⅲが混入し、主に南西部に堆積し、厚さ２～10cmを測る。

Ⅴ　褐灰色　（10YR6/1～5/1）土に、黒褐色（10YR3/1）と黒色（10YR2/1）マンガン粒（1～1.5cm大）及び、褐色（7.5YR4/4）粘質土が混入し、主に南西隅部に堆積し、厚さ１～13cmを測る。

Ⅵ　地山

－1　淡黄色（2.5Y8/4）粘土・黄色（2.5Y8/8）粘土に、黄橙色（10YR7/8）粘土が混入する。中に、砂岩礫（5～25cm）・河原礫を多く混入し、その周りに灰白色（10YR8/1～7/1）粘土、及び褐灰色（10YR4/1）粘土をマーブル状に含む。主に調査区南半部に堆積し、厚さ2～18cmを測る。

－2　淡黄色（2.5Y8/4）粘土・黄色（2.5Y8/6）粘土に、明褐色（7.5YR5/6）土と褐色（7.5YR4/6）土を斑状に混入し、主に調査区北半部に堆積し、厚さ2～28cmを測る。

北・南・西壁遺構等埋土

a：褐灰色（7.5YR5/1～4/1）土…〔SD9〕

b：灰黄色（2.5Y6/2）土～暗灰黄色（2.5Y4/2）微粒土…〔SD1・2〕

c：褐灰色（10YR6/1～5/1）土…〔SK5・8・11〕

d：褐灰色（10YR6/1～5/1）粘質土～暗褐色（10YR3/3）粘質土…〔SD6〕

e：褐灰色（5YR6/1～5/1）微粒土…〔SK2〕

f：褐灰色（7.5YR4/1）土…〔SK4〕

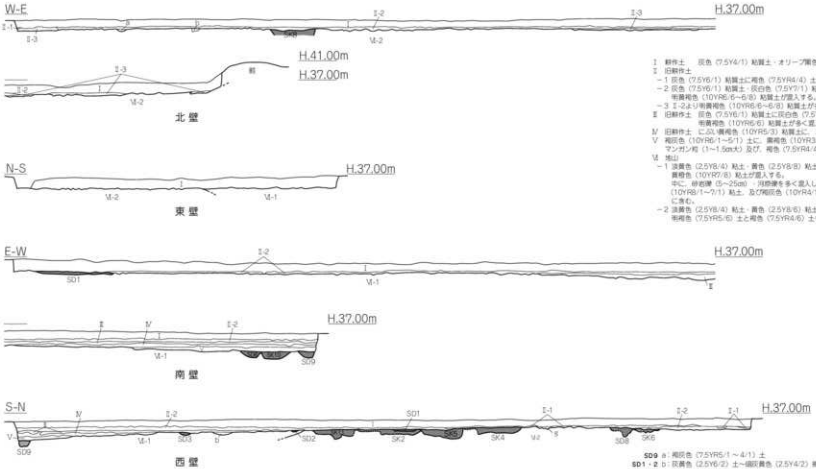
g：ｆとほぼ同じ。

h：褐灰色（10YR6/1）粘質土…〔SK6〕

i：褐灰色（10YR6/1～5/1）土に、地山土（0.5～1cm大）を疎らに少量混入する。…〔SD8〕

j：灰褐色（7.5YR4/2）土～褐灰色（7.5YR4/1）土…〔SK10〕

k：にぶい黄橙色（10YR6/3）土に灰黄褐色（10YR6/2）微粒土が混入する。…〔SD3〕



Ⅰ 耕作土　灰色（7.5Y4/1）粘質土・オリーブ黒色（7.5Y3/1）粘質土
Ⅱ 旧耕作土
－1 灰色（7.5Y6/1）粘質土に褐色（7.5YR4/4）土が微小に混入する。
－2 灰色（7.5Y6/1）粘質土・灰白色（7.5Y7/1）粘質土に、
　明黄褐色（10YR6/6～6/8）粘質土が混入する。
－3 Ⅱ-2よりも明黄褐色（10YR6/6～6/8）粘質土が多く混入する。
Ⅲ 旧耕作土　灰色（7.5Y6/1）粘質土に灰白色（7.5Y7/1）粘質土や
　明黄褐色（10YR6/6）粘質土が多く混入する。
Ⅳ 旧耕作土　に.ぶい黄褐色（10YR5/3）粘質土に、Ⅱ が混入する。
Ⅴ 褐灰色（10YR6/1～5/1）土に、黒褐色（10YR3/1）と黄色（10YR2/1）
　マンガン粒（1～1.5cm大）及び、褐色（7.5YR4/4）粘質土が混入する。
Ⅵ 地山
－1 淡黄色（2.5Y8/4）粘土・黄色（2.5Y8/8）粘土に、
　黄褐色（10YR7/8）粘土が混入する。
　中に、砂粒礫（5～25cm）・河原礫を多く混入し、その周りに灰白色
　（10YR8/1～7/1）粘土、及び褐灰色（10YR4/1）粘土をマーブル状
　に含む。
－2 淡黄色（2.5Y8/4）粘土・黄色（2.5Y8/6）粘土に、
　明褐色（7.5YR5/6）土と褐色（7.5YR4/6）土を現状に混入する。

SD9 a：褐灰色（7.5YR5/1～4/1）土
SD1・2 b：灰黄色（2.5Y6/2）土～細灰黄色（2.5Y4/2）微粒土
SK5・8・11 c：褐灰色（10YR6/1～5/1）土
SD6 d：褐灰色（10YR6/1～5/1）粘質土～細褐色（10YR3/3）粘質土
SK2 e：褐灰色（5YR6/1～5/1）微粒土
SK4 f：褐灰色（7.5YR4/1）土
　g：f と炭部同じ。
SK6 h：褐灰色（10YR6/1）粘質土
SD8 i：褐灰色（10YR6/1～5/1）土に、地山土（0.5～1cm大）を
　微小に少量混入する。
SK10 j：灰褐色（7.5YR4/2）土～褐灰色（7.5YR4/1）土
SD3 k：に.ぶい黄褐色（10YR6/3）土に灰黄褐色（10YR6/2）
　微粒土が混入する。

第49図　土層図

第3節　遺構と遺物

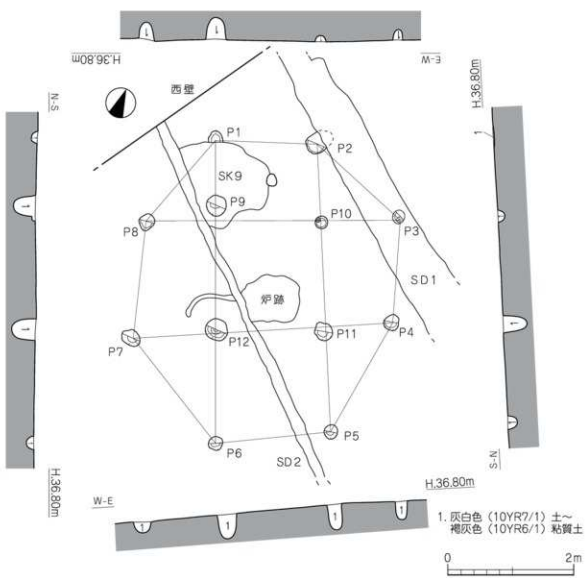
(1)弥生時代

弥生時代の遺構は、竪穴住居1棟、溝3条、土坑5基を検出した。

1）竪穴住居

SB1（第50・51図、写真図版11）

調査区南西部B・2～3区に位置し、SD1・2に切られる。住居床面での検出で住居プランは未確認であったが、主柱穴と炉跡を検出した。主柱穴は、内側4本（P9～12）と外側8本（P1～8）が巡る構造であり、内側の柱穴は直径20～36cm、深さ12～40cm、柱間1.72～1.94mを測り、外側の柱穴は直径19～42cm、深さ10～38cm、柱間1.6～2.15m、外側の柱穴で囲まれた床面積15.28㎡を測る。埋土は灰白色土～褐灰色粘質土で、P3・10・12には柱痕が見られる。遺物は弥生土器の小片が少量出土す



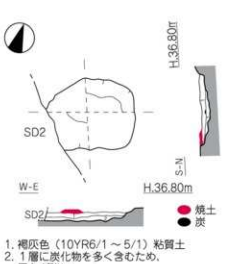
第50図　SB1測量図

る。住居内側の主柱穴P11とP12の内側にて炉跡を検出した。炉跡は、SB1内側の主柱穴に軸方向が沿うように検出した。平面形態は不整長方形、断面形態は皿状を呈する。規模は長径0.87m、短径0.76m、深さ12cmを測る。埋土は褐灰色粘質土で、下部には炭化物が多く含まれ、上面からは焼土を検出した。遺物は弥生土器の甕・壺の小片が少量出土する。

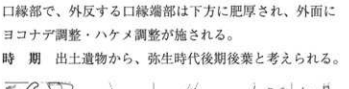
出土遺物（第52図、写真図版13）

1～3は甕である。1は口縁部で、外反する口縁端部はやや外方に肥厚され丸味をもつ。2は底部で、平底の底部からやや内湾気味に立ち上がる。3は緩やかに内湾する上胴部で内外面にハケメ調整が施される。4は高坏の口縁部で、外反する口縁端部は下方に肥厚され、外面にヨコナデ調整・ハケメ調整が施される。

時　期　出土遺物から、弥生時代後期後葉と考えられる。



第51図　SB1・炉跡測量図



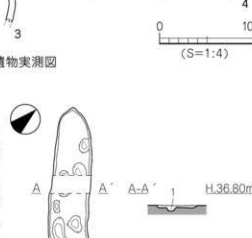
第52図　SB1出土遺物実測図

2）溝

SD5（第53図）

調査区北西部のB～C・3区に位置し、倒木2を切る。主軸は南東から北西方向にN－46°－Wを指向し、規模は検出長約2.42m、検出幅0.42mを計り、深さ2～6cm、北西から南東に比高差4cmを測る。断面形態は皿状を呈し、埋土は褐灰色微粒土である。遺物は弥生土器の小片が僅かにとサヌカイト製チップ1点が出土する。

時　期　時期決定しうる遺物が小片であり、弥生時代としか判らない。



第53図　SD5測量図

SD6（第54図）

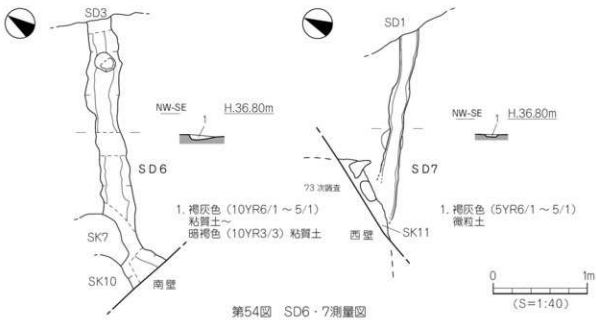
調査区南西隅のA～B・1～2区に位置し、SD3、SK7・10に切られ南西端は調査区外に延びる。主軸は南西から北東方向にN－49°－Wを指向する。規模は検出長約2.67m、検出幅0.25～0.36mを計り、深さ5～11cm、北東から南西に比高差8cmを測る。断面形態はレンズ状を呈し、埋土は褐灰色粘質土～暗褐色粘質土である。遺物は弥生土器の小片が僅かにとサヌカイト製チップ1点が出土する。

時　期　時期決定しうる遺物が小片であり、弥生時代としか判らない。

ＳＤ７（第54図）

調査区西端のB・2区に位置し、SD1、SK11に切られる。主軸は東西方向でN－75°－Wを指向する。規模は検出長約2.03m、検出幅0.12～0.21mを計り、深さ1～3cm、東から西に比高差3cmを測る。断面形態は皿状を呈し、埋土は褐灰色微粒土である。遺物は弥生土器の小片が僅かに出土する。

時　期　時期決定しうる遺物が小片であり、弥生時代としか判らない。



第54図　SD6・7測量図

3）土坑

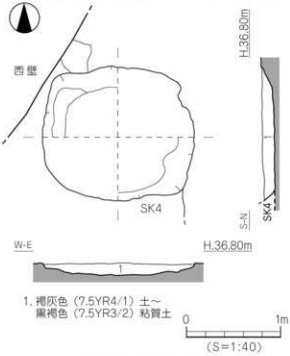
ＳＫ１（第55図，写真図版10）

調査区西端C・2区に位置し、SK4を切る。平面形態は隅丸方形、断面形態は皿状を呈する。規模は長径1.61m、短径1.41m、深さ13cmを測る。埋土は褐灰色土～黒褐色粘質土で、遺物は埋土上位から中位にかけ、弥生土器の甕・壺の破片が出土している。

出土遺物（第56図，写真図版13）

5～8は甕の底部である。5・6・8はやや上げ底の底部で括れがあり、5・6は外面にヨコナデ調整、8は外面にヨコナデ調整・ハケメ調整が施される。7は平底の底部である。9～13は壺であり、9は口縁端部が上方向に肥厚され端面が凹み内外面にヨコナデ調整が施される。10は口縁端部が内傾し、拡張される。11は内傾する肩部付近である。12・13は底部で、12は平底の底部内面はナデ調整が施される。13は突出する底部は貼付けられる。

時　期　出土した弥生土器の特徴から、弥生時代後期前葉とする。



第55図　SK1測量図

第56図　SK1出土遺物実測図

ＳＫ２（第57図）

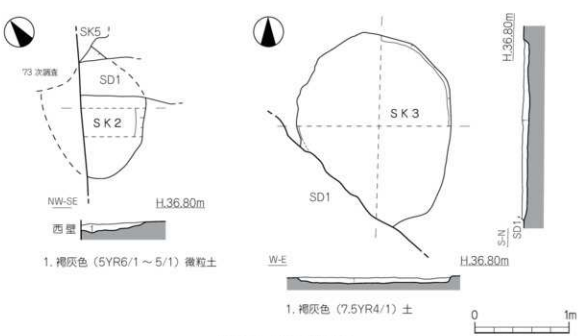
調査区中央部西端B～C・2区に位置し、SD1・SK5に切られ、西端は73次調査に延びる。平面形態は不整楕円方形、断面形態はレンズ状を呈する。規模は長径1.34m以上、短径0.69m以上、深さ9cmを測る。埋土は褐灰色微粒土であり、遺物は弥生土器の小片が僅かに出土する。

時　期　時期決定しうる遺物が小片であり、弥生時代としか判らない。

ＳＫ３（第57図）

調査区東側A～B・4区に位置し、SD1に切られる。平面形態はやや不定形な楕円形、断面形態は皿状を呈する。規模は長径1.97m以上、短径1.64m、深さ7cmを測る。埋土は褐灰色土であり、弥生土器の細片とサヌカイト製のチップ片が僅かに出土する。

時　期　時期決定しうる遺物に乏しく、埋土がSK4と同一なことから、弥生時代前期末～中期初頭とする。



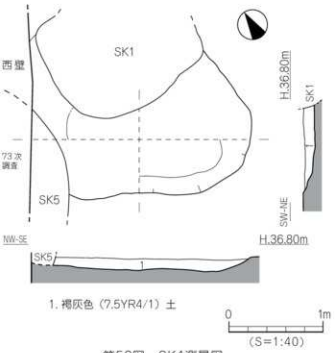
第57図　SK2・3測量図

ＳＫ４（第58図、写真図版10）

調査区西端C・2区に位置し、SK1・5に切られ、西端は73次調査に延びる。平面形態はやや不整形な楕円形、断面形態は皿状を呈する。規模は長径2.34m以上、短径1.34m以上、深さ11cmを測る。埋土は褐灰色土であり、遺物は埋土上位から中位にかけ、弥生土器に混じりガラス小玉1点や混入品の須恵器、石製品が出土した。

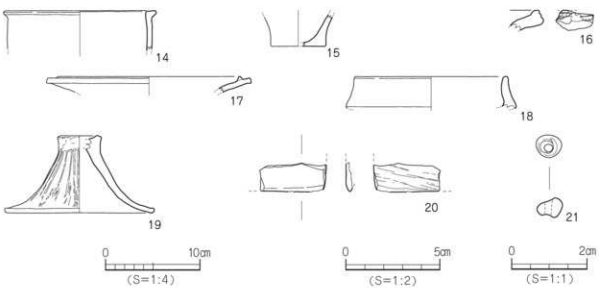
出土遺物（第59図、写真図版14）

14・15は甕である。14は口縁端部が「L」字形、15は平底の底部である。16～18は壺であり、16は口縁端部に2条の凹線文をもつ。17は口縁内面に断面三角形状の貼付凸帯をもつ。18は複合口縁の内傾する口縁拡張部で、内外面にヨコナデ調整が施される。19は蓋で、外面はハケメ調整後、ヘラ状工具による沈線文が放射線状に残る。20は石庖丁の刃部で両刃の緑色片岩製である。21はガラス小玉で、直径6.5mm、高さ4.9mm、孔径1.5～2.0mm、重さ0.29ｇを測り、色調は濃青色を呈した完存品である。



第58図　SK4測量図

時　期　出土した弥生土器の特徴から、弥生時代前期末～中期初頭とする。



第59図　SK4出土遺物実測図

ＳＫ９（第60図）

調査区北西部B・2区に位置し、SD2に切られる。平面形態は不整形、断面形態はレンズ状を呈する。規模は長径1.42m、短径1.25m以上、深さ5cmを測る。埋土は褐灰色微粒土であり、遺物は弥生土器の小片が僅かに出土する。

時　期　時期決定しうる遺物が小片であり、弥生時代としか判らない。

(2)古墳時代

古墳時代の遺構は、溝1条、土坑2基を検出した。

1) 溝

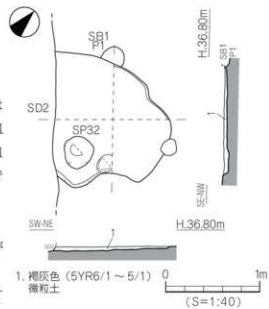
SD8（第61図、写真図版11・14）

調査区東側C・2～3区に位置し、SK6を切り、西端は73次調査SD8につながる。溝の東端部で、断面形態は皿状を呈する。規模は検出長0.87m以上、検出幅0.44～0.61m、深さ16cmを測る。埋土は褐灰色土（地山土混入）であり、弥生土器・土師器・須恵器片が僅かに出土する。

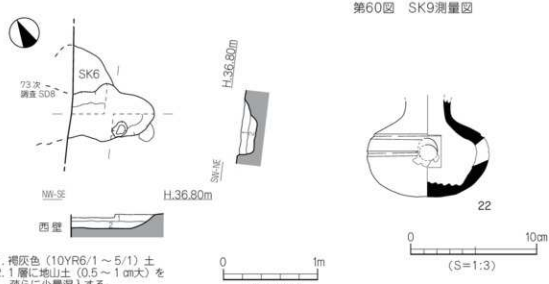
出土遺物（第61図、写真図版10・14）

22は須恵器の蓋で、穿孔された上胴部に2条の沈線が巡る。底部外面はヘラ削り、内面には渦巻き痕が残る。

時　期：出土した須恵器の特徴から、古墳時代後期とする。



第60図　SK9測量図



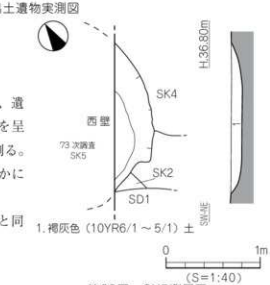
第61図　SD8測量図・出土遺物実測図

2) 土坑

SK5（第62図）

調査区西端中央部C・2区に位置し、SK2・4を切り、遺構の大半は73次調査SK5につながる。断面形態は皿状を呈する。規模は長径1.6m、短径0.42m以上、深さ12cmを測る。埋土は褐灰色土であり、遺物は土師器・須恵器片が僅かに出土する。

時　期　時期決定しうる遺物に乏しく、73次調査SK5と同じ遺構であることから、古墳時代終末とする。

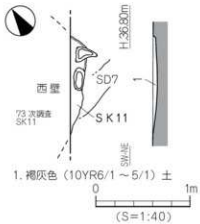


第62図　SK5測量図

ＳＫ11（第63図）

調査区中央部西端B～C・2区に位置し、SD7を切り、西端は73次調査SK11につながる。平面形態は不整長方形、断面形態はレンズ状を呈する。規模は長径1.05m、短径0.16m以上、深さ5cmを測る。埋土は褐灰色土であり、遺物は弥生土器の小片が僅かに出土する。

時　期　時期決定しうる遺物に乏しく、73次調査ＳＫ11の一部であることから、古墳時代終末以前とする。



第63図　SK11測量図

（3）古代

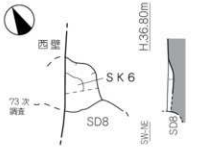
1）土坑

古代の遺構は、土坑2基、溝1条、柱穴1基を検出した。

ＳＫ６（第64図）

調査区北西部C・2区に位置し、SD8に切られ、西端は73次調査に延びる。残存する平面形態は不整楕円形、断面形態はレンズ状を呈する。規模は長径0.43m以上、短径0.37m以上、深さ6cmを測る。埋土は褐灰色粘質土であり、遺物は土師器・須恵器片が僅かに出土する。

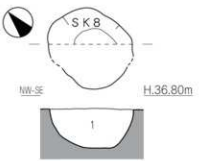
時　期　時期決定しうる遺物に乏しく、埋土がSP3と同一なことから、古代とする。



ＳＫ８（第64図、写真図版11）

調査区北西部C・3区に位置する。平面形態は楕円形、断面形態は逆台形状を呈する。規模は長径0.89m、短径0.76m、深さ42cmを測る。埋土は褐灰色土であり、出土遺物はない。

時　期　時期決定しうる遺物に乏しく、埋土がSP3と相似なことから古代とする。



第64図　SK6・8測量図

ＳＤ９（第48図）

調査区南西隅A～B・1区に位置し、南西端は調査区外に延び、遺構の大半は73次調査SD9に続く。断面形態は皿状を呈し、規模は東西40cm以上、南北20cm以上深さ6～9cmを測る。埋土は褐灰色土で、出土遺物はない。

時　期　時期決定しうる遺物に乏しく、73次調査SD9と同一な遺構であることから、8世紀代とする。

2）柱穴

ＳＰ３（第65図、写真図版10）

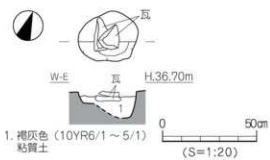
調査区西端中央部C・2区に位置し、SK5の東側約1mで検出した。平面形態は円形を呈し、規模は

直径24～32cm、深さ13.5cmを測る。埋土は褐灰色粘質土であり、埋土上位から重なった状態で軒平瓦の破片2点が出土する。

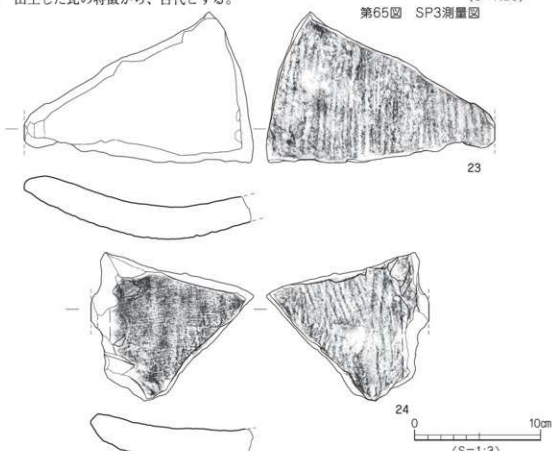
出土遺物（第66図、写真図版10・14）

23・24は軒平瓦である。23は凹面に布目痕、凸面にカキメ痕が残り灰白色を呈し、厚み2.6cmを測る。24は凹面に布目痕、凸面にタタキ痕が残り灰白色を呈し、厚み2.3cmを測る。

時　期　出土した瓦の特徴から、古代とする。



第65図　SP3測量図



第66図　SP3出土遺物実測図

（4）中世

中世の遺構は、土坑2基を検出した。

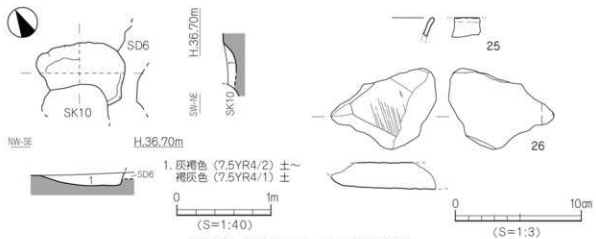
ＳＫ７（第67図）

調査区南西部A～B・1区に位置し、SD6を切りSK10に切られる。平面形態は不整長方形、断面形態はレンズ状を呈する。規模は長径0.94m、短径0.62m以上、深さ13cmを測る。埋土は灰褐色土～褐灰色土である。

出土遺物（第67図）

25は瓦器椀の口縁部で、やや外反気味の口縁端部は丸くおさまる。26は軒平瓦で、凹面にカキメ痕が残り灰色を呈し、厚み2.1cmを測る。

時　期　出土した瓦器の特徴から、13世紀代とする。

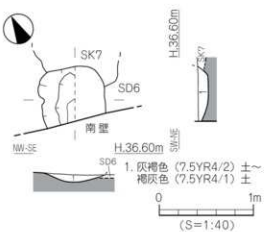


第67図　SK7測量図・出土遺物実測図

ＳＫ10（第68図）

調査区南西部A～B・1区に位置し、SK7・SD6を切り、南端は調査区外に延びる。平面形態は不整長方形、断面形態はレンズ状を呈する。規模は長径0.7m、短径0.59m以上、深さ11cmを測る。埋土は灰褐色土～褐灰色土である。遺物は土師器の小片が僅かに出土する。

時　期　時期決定しうる遺物に乏しく、SK7を切ることから13世紀以降とする。



第68図　SK10測量図

(5)近世

近世の遺構は、溝4条を検出した。

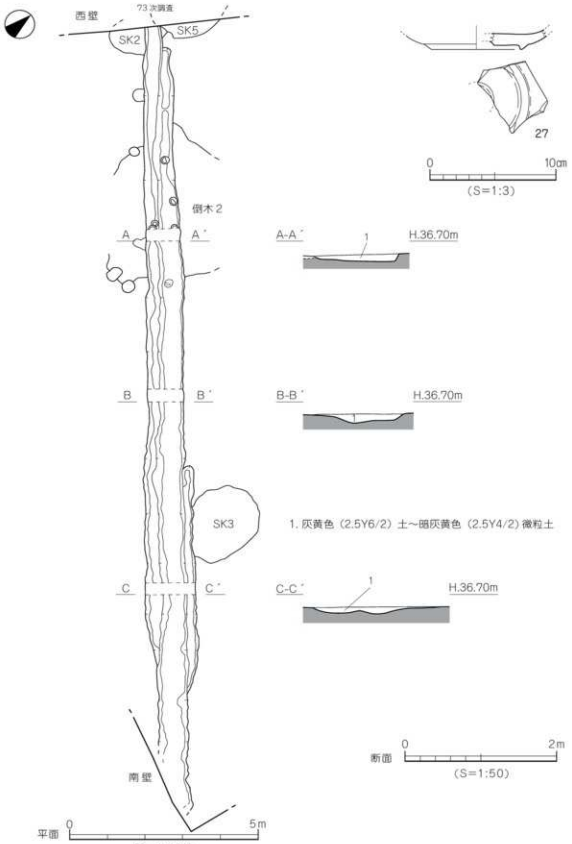
ＳＤ１（第69図）

A～C・2～5区に位置し、SB1、SK2・3、倒木2を切り南東端は調査区外に延びる。南東方向から北西方向に主軸はN－51°－Wを指向し、一直線に延びる。規模は検出長19.95m、検出幅0.45～1.2m、深さ4～9cm、南東から北西に比高差5cmを測る。断面形態はレンズ状を呈し、埋土は灰黄色土～暗灰黄色微粒土である。遺物は土師器・須恵器・瓦器・磁器の小片が僅かに出土する。

出土遺物（第69図．写真図版14）

27は白磁碗の底部である。断面三角形状の高台をもち、底部外面の中央部に凹みをもつ。

時　期　時期決定しうる遺物に乏しく、出土した磁器から、近世としか判らない。

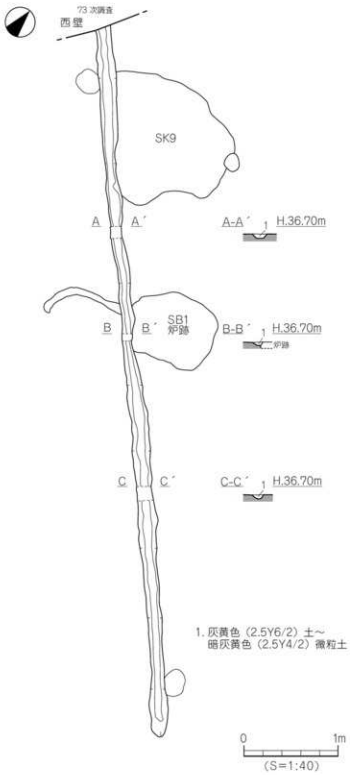


第69図　SD1測量図・出土遺物実測図

ＳＤ２（第70図）

調査区南西部A～B・2～3区に位置し、SK9、炉跡を切り北西端は73次調査に延びる。南東方向から北西方向に主軸はN－45°－Wを指向し、SD1とほぼ並行し、一直線に延びる。規模は検出長7.56m、検出幅0.09～0.21mを計り、深さ3～6cm、南東から北西に比高差4cmを測る。断面形態は逆台形状を呈し、埋土は灰黄色土～暗灰黄色微粒土である。遺物は土師器・陶器の小片が僅かに出土する。

時　期　時期決定しうる遺物に乏しく、出土した磁器から、近世としか判らない。



第70図　SD2測量図

ＳＤ３（第71図）

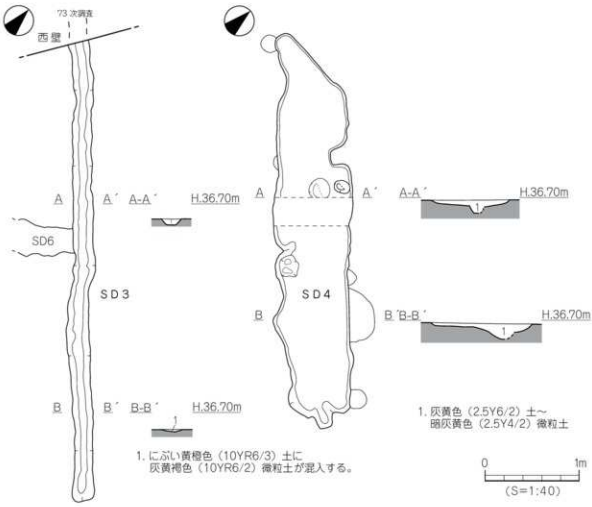
調査区南西部A～B・2区に位置し、南東方向から北西方向に延びる溝で、SD6を切り、北西端は73次調査に延びる。主軸は南東から北西方向にN－42°－Wを指向し、SD2とほぼ並行し、一直線に延びる。規模は検出長4.85m、検出幅0.18～0.24m、深さ2～6cm、南東から北西に比高差3cmを測る。断面形態は逆台形状を呈し、埋土ははにぶい黄橙色土に灰黄褐色微粒土が混入するものである。遺物は弥生土器片が僅かに出土する。

時　期　時期決定しうる遺物に乏しく、埋土がSD1と相似なことから、近世とする。

ＳＤ４（第71図）

調査区北西部のB～C・2～3区に位置し、倒木1を切る。主軸は南東から北西方向にN－50°－Wを指向し、SD1とほぼ並行し、一直線に延びる。規模は検出長約4.21m、検出幅0.57～0.85m、深さ3～15cm、南東から北西に比高差4cmを測る。断面形態は皿状を呈し、埋土は灰黄色土～暗灰黄色微粒土である。遺物は土師器・瓦の小片が僅かに出土する。

時　期　時期決定しうる遺物に乏しく、埋土がSD1と同一なことから、近世とする。



第71図　SD3・4測量図

（6）その他の遺構や遺物

1）柱穴

調査区西側を主体に93基を検出した。平面形態は円形・楕円形を呈し、規模は直径13～108cm、深さ2～25cmを測る。埋土は褐灰色粘質土～褐灰色微粒土である。出土遺物は、弥生土器・土師器・須恵器の小片が出土する。

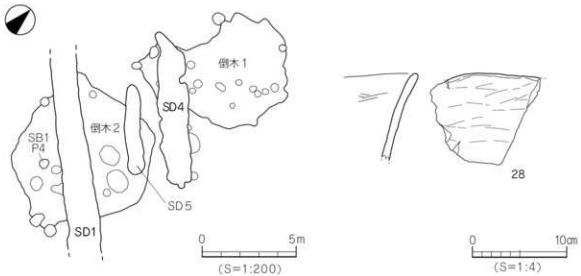
時　期　出土遺物から、弥生時代から古代までの間とする。

2）倒木痕

倒木1（第72図）

調査区北西部のC･3区に位置し、SD4に切られる。平面形態は不整楕円形を呈し、規模は長径8.0m、短径5.7mを測るが、倒木内は未調査であり全容は不明である。埋土は西端が褐灰色粘質微粒土～黒褐色粘質微粒土、中央部がにぶい橙色土～にぶい赤褐色粘質微粒土、東側がにぶい黄橙色土～明黄褐色粘土である。

時　期　出土遺物がなく、埋土が倒木2に類似していることから、縄文時代晩期の可能性をもつ。



第72図　倒木1・2測量図，倒木2出土遺物実測図

倒木2（第72図）

調査区西部のB・2～3区に位置し、SB1・SD1・5に切られる。平面形態は不整楕円形を呈し、規模は長径8.5m、短径7.25mを測るが、遺構内は未調査であり全容は不明である。埋土はにぶい黄橙色土～明黄褐色粘土である。上面にて縄文土器片が1点出土する。

出土遺物（第72図，写真図版14）

28は縄文土器で深鉢の口縁部である。外傾する口縁端部は緩やかに波状を呈し、煤が付着する。内面にミガキ調整、外面にナデ調整が施され、黒斑がみられる。

時　期　出土した縄文土器の特徴から、縄文時代晩期の可能性をもつ。

3）第Ⅱ～Ⅴ層出土遺物（第73図，写真図版14）

29は弥生土器で壺の口縁部である。大きく外反する口縁部の端面に山形文が施される。30は円盤状の土製品で上面は凹み、底面は平らで縁部は丸味をもつ。直径4.85cm、厚み1.22cmを測る。31は須恵器の坏蓋である。口縁端部は丸味をもち、天井部から2/3まで回転ヘラケズリが施される。32は須恵器で捏ね鉢の口縁部である。口縁端部は三角形状を呈し、内外面にヨコナデ調整が施される。

第73図　第Ⅱ～Ⅴ層出土遺物実測図

第4節　小　結

本調査では、弥生時代から近世までの遺構や遺物を確認した。以下、時代別にまとめを行う。

縄文時代では、倒木痕を2基検出した。埋土中から縄文時代晩期の遺物が1点出土しており、調査地周辺に当該期の遺跡が展開していたことが窺える。

弥生時代では、後期後葉の竪穴住居SB1を検出した。後世の削平を受け、床面での検出であったが、外側に8本、内側に4本の主柱穴や炉をもっており、主柱穴の配置状況から円形または八角形の竪穴住居であることが想定される。この環状に巡る主柱穴の特徴をもつ建物は、周辺の調査でも確認されており後期頃に桑原地区で数多く確認された竪穴住居と同様の特徴をもつ建物が当地にも展開していたことが窺えるものである。このほか前期末から中期初頭と考えられるSK4からガラス小玉が出土しており、これが混入品でないとすると松山平野で出土したガラス玉では、最古の資料となる。

古墳時代では、調査区西端から溝・土坑の一部を検出しただけで遺構が希薄であり、73次調査で掘立柱建物や溝・土坑などを検出していることから、集落の中心は当調査地より西側に展開していたことが想定される。

古代では、「回廊状遺構」の西方に官衙関連の施設を確認することは出来なかった。北隣の69次調査は官衙に関連する掘立柱建物を1棟確認したことより、周辺が官衙関連施設の展開する南西端にあたることが推定されていたが、当調査の結果、その推定が継承されたことになる。

中世においては、調査区南西隅で土坑2基だけの検出であり、古墳時代と同様に当調査地より西側に集落が展開していたことが想定される。

近世頃には、南東から北西方向にかけ直線的に延びる溝4条を検出したが、いずれも平行な位置関係でほぼ等間隔で延びている。また、現代の畦畔にも並行していることから、農耕に関連する溝が考えられ、近世頃から当地において農耕が継続的に行われていたことが窺える。

遺構・遺物　－凡例－

(1) 以下の表は遺構・遺物の計測値及び観察一覧である。

(2) 遺物観察表の各記載について。

法量欄（）　：復元推定値。

調整欄　：土器の各部位名称を略記。

例）底→底部、天→天井部

胎土・焼成欄　：胎土欄では混和剤を略記した。

例）石→石英、長→長石、砂→砂粒、金→金ウンモ、密→精製土。

（）内の数値は混和剤粒子の大きさを示す。（単位：㎜）

焼成の略記について。◎→良好、○→良。

表33　竪穴住居一覧

竪穴（SB）	時　期	平面形	規　模　(m) （内側）柱間×深さ （外側）柱間×深さ	埋　土	床面積（㎡）	主柱穴（本）	内部施設				備　考
							高床	土坑	炉	カマド	
1	弥生後期後葉	円形 or 八角形	1.72～1.94×0.12～0.4 1.6～2.15×0.1～0.38	灰白色土～暗灰色粘質土	15.28	（内）4 （外）8			○		SD1・2に切られる。

表 34　溝一覧

溝 (SD)	地　区	断面形	規　模　(m) 長さ(長径)×幅(短径)×深さ	方　向	埋　土	出土遺物	時　期	備　考
1	A～C・2～5	レンズ状	19.95 × 0.45 ～ 1.2 × 0.04 ～ 0.09	南東～北西	灰黄色土～暗灰黄色微粒土	土師・須恵 瓦器・磁器	近世	SB1、SK2・3、倒木2を切り、南東端は調査区外に延びる。
2	A～B・2～3	逆台形状	7.56 × 0.69 ～ 0.21 × 0.03 ～ 0.06	南東～北西	灰黄色土～暗灰黄色微粒土	土師 陶器	近世	SK9・炉跡を切り、北西端は73次調査に延びる。
3	A～B・2	逆台形状	4.85 × 0.18 ～ 0.24 × 0.02 ～ 0.06	南東～北西	にぶい黄橙色土 (灰黄褐色微粒土混入)	弥生	近世	SD6を切り、北西端は73次調査に延びる。
4	B～C・2～3	皿状	4.21 × 0.57 ～ 0.85 × 0.03 ～ 0.15	南東～北西	灰黄色土～暗灰黄色微粒土	土師 瓦	近世	倒木1を切る。
5	B～C・3	皿状	2.42 × 0.42 × 0.02 ～ 0.06	南東～北西	褐灰色微粒土	弥生 石	弥生	倒木2を切る。
6	A～B・1～2	レンズ状	2.67 × 0.25 ～ 0.36 × 0.05 ～ 0.11	南西～北東	暗灰色粘質土～暗褐色粘質土	弥生 石	弥生	SD3、SK7・10に切られ、南西端は調査区外に延びる。
7	B・2	皿状	2.03 × 0.12 ～ 0.21 × 0.01 ～ 0.03	東西	褐灰色微粒土	弥生	弥生	SD1・SK11に切られる。
8	C・2～3	皿状	(0.87) × 0.44 ～ 0.61 × 0.16	南東～北西	褐灰色土	弥生・土師 須恵	古墳後期	SK6を切り、西端は73次調査SD81につながる。
9	A～B・1	皿状	(0.40) × (0.20) × 0.06 ～ 0.09	南東～北西	褐灰色土	－	8世紀代	大半は73次調査SD9に続く。

表 35　土坑一覧

土坑 (SK)	地　区	平面形	断面形	規　模　(m) 長さ(長径)×幅(短径)×深さ	床面積 (㎡)	埋　土	出土遺物	時　期	備　考
1	C・2	隅丸方形	皿状	1.61 × 1.41 × 0.13	1.92	褐灰色土～黒褐色粘質土	弥生	弥生後期前葉	SK4を切る。
2	B～C・2	不整楕円方形	レンズ状	(1.34) × (0.69) × 0.09	0.69 以上	褐灰色微粒土	弥生	弥生	SD1・SK5に切られ、西端は73次調査に延びる。
3	A～B・4	不定楕円形	皿状	(1.97) × 1.64 × 0.07	2.31 以上	褐灰色土	弥生 石	弥生前期末～中期初頭	SD1に切られる。
4	C・2	不整楕円形	皿状	(2.34) × (1.34) × 0.11	2.11 以上	褐灰色土	弥生・須恵 ガラス・石	弥生前期末～中期初頭	SK1・5に切られ、西端は73次調査に延びる。
5	C・2	円形	皿状	1.6 × (0.42) × 0.12	0.43 以上	褐灰色土	土師 須恵	古墳終末	SK2・4を切り、大半は73次調査SK5につながる。
6	C・2	不整楕円形	レンズ状	(0.43) × (0.37) × 0.06	0.11 以上	褐灰色粘質土	土師 須恵	古代	SD8に切られ、西端は73次調査に延びる。
7	A～B・1	不整長方形	レンズ状	0.94 × (0.62) × 0.13	0.38 以上	灰褐色土～褐灰色土	瓦器 瓦	13世紀	SD6を切り、SK10に切られる。
8	C・3	楕円形	逆台形状	0.89 × 0.76 × 0.42	0.58	褐灰色土	－	古代	
9	B・2	不整形	レンズ状	1.42 × (1.25) × 0.05	1.34 以上	褐灰色微粒土	弥生	弥生	SD2に切られる。
10	A～B・1	不整長方形	レンズ状	0.7 × (0.59) × 0.11	0.37 以上	灰褐色土～褐灰色土	土師	13世紀以降	SK7・SD6を切り、南端は調査区外に延びる。
11	B～C・2	不整長方形	レンズ状	1.05 × (0.16) × 0.05	0.12 以上	褐灰色土	弥生	古墳終末以前	SD7を切り、西端は73次調査SK11につながる。

表36　SB1出土遺物観察表（土製品）　（1）

番号	器種	法量 (cm)	形　態・施　文	調　整 外　面	調　整 内　面	色調 (外面)(内面)	胎　土 焼　成	備考	図版
1	甕	残高　2.8	外反する口縁端部は、やや外方に肥厚され丸味をもつ。	ヨコナデ	ハケ	浅黄橙色 にぶい橙色	石・長 (1～3) ○		
2	甕	底径 (4.6) 残高　3.8	平底の底部から内湾気味に立ち上がる。	ハケリ・マメツ	ナデ	淡赤橙色 浅黄橙色	石・長 (1～4) ○	黒斑	

SB1出土遺物観察表（土製品）　（2）

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
3	甕	残高 5.9	緩やかに内湾する上胴部。	ハケ	ハケ・ナデ	浅黄橙色 灰白色	石（1～2）・長（1） ◎		13
4	高坏	口径（22.4） 残高 3.2	外反する口縁部の端部は、下方に肥厚される。	ヨコナデ・ハケ	ハクリ	橙色 橙色	石・長（1～2） 金 ○		13

表37　SK1出土遺物観察表（土製品）

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
5	甕	底径（4.9） 残高 4.5	底部はやや上げ底で、括れをもつ。	マメツ ヨコナデ・ナデ	ナデ	にぶい黄橙色 灰白色	石（1～3）・長（1） 金 ○		
6	甕	底径 5.0 残高 5.55	底部はやや上げ底で、括れをもつ。	ヨコナデ マメツ	ナデ	灰白色 灰白色	石（1～3）・長（1） 金 ○	黒斑	13
7	甕	底径（5.6） 残高 3.8	平底の底部。	マメツ ヨコナデ	ナデ	浅黄橙色 褐灰色	石（1～3）・長（1） ○		
8	甕	底径（4.9） 残高 2.8	底部はやや上げ底で、括れをもつ。	ハケ・ヨコナデ ナデ	ナデ	橙色 黒褐色	石（1～3） ◎		
9	壺	口径（19.0） 残高 1.0	口縁端部が上方向に肥厚され、端面が明む。	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	石（1～25）・長（1） ◎		
10	壺	口径（17.0） 残高 3.3	口縁端部が内傾し拡張される。	マメツ・ハクリ	ハケ	淡橙色 橙色	石（1～3）・長（1） ○		
11	壺	残高 4.4	内傾する肩部。	マメツ	マメツ	橙色 淡橙色	石（1～3）・長（1） ◎		
12	壺	底径（8.7） 残高 3.4	平底の底部。	マメツ	ナデ	にぶい橙色 黒色	石（1～4）・長（1） ○	赤粒	
13	壺	底径 5.1 残高 1.7	突出する底部は貼付けられる。	マメツ ◎ ハケ	ナデ	浅黄橙色 褐灰色	石・長（1～2） 金 ◎	黒斑	

表38　SK4出土遺物観察表（土製品）

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
14	甕	口径（16.2） 残高 4.2	口縁端部が「L」字形。	マメツ	マメツ	灰白色・にぶい橙色 浅黄橙色	石（1～3）・長（1） ○		
15	甕	底径（5.5） 残高 3.4	平底の底部。	マメツ・ナデ	マメツ	暗黄灰色 黄灰色	石・長（1～15） ○	黒斑	
16	壺	残高 2.1	口縁端部に2条の凹線文をもつ。	マメツ	マメツ	にぶい橙色 にぶい橙色	石（1～2） ○		
17	壺	口径（21.5） 残高 1.65	口縁内面に断面三角形状の貼付凸帯をもつ。	マメツ	マメツ	浅黄橙色 浅黄橙色	石・長（1～3） ○		
18	壺	口径（16.0） 残高 3.4	内傾する口縁拡張部。（複合口縁）	ヨコナデ	ヨコナデ	橙色 灰白色	石（1～3）・長（1） ◎		
19	蓋	器高 8.15 口径（15.4）	天井部から口縁にかけ大きく外反し、沈線文が放射状に残る。	ヨコナデ・ハケ	ヨコナデ マメツ	にぶい橙色 灰白色	石（1～3）・長（1） ○		14

表39　SK4出土遺物観察表（石製品）

番号	器種	残存	材質	法量 長さ（cm）	法量 幅（cm）	法量 厚さ（cm）	法量 重さ（g）	備考	図版
20	石庖丁	刃部一部	緑色片岩	3.5	1.5	0.31	2.93		14

表40　SK4出土遺物観察表（装身具）

番号	器種	残存	材質	色調	法量 直径(cm)	法量 孔径(cm)	法量 高さ(cm)	法量 重さ(g)	備考	図版
21	小玉	完形	ガラス	濃青色	0.65	0.15～0.2	0.49	0.29		14

表41　SD8出土遺物観察表（土製品）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調(外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
22	鉢	残高 7.8	穿孔された上胴部に2条の沈線が巡る。	回転ナデ ④ヘラケズリ	ナデ ④ 渦巻き痕	灰色 灰色	石・長(1) ○	白然釉	14

表42　SP3出土遺物観察表（瓦製品）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 凹面	調整 凸面	色調(外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
23	軒平瓦	残長 18.15 厚み 2.6	緩やかに凹む。	布目痕	カキメ	灰白色 灰白色	石・長(1～2) ○		14
24	軒平瓦	残長 11.8 厚み 2.3	緩やかに凹む。	布目痕	タタキ	灰白色・灰色灰白色・灰色	石・長(1～2) ○		14

表43　SK7出土遺物観察表（土製品）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調(外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
25	椀	残高 1.55	やや外反気味の口縁端部は丸くおさまる。	ヨコナデ	ヨコナデ	緑灰色 暗緑灰色	密 ○		

表44　SK7出土遺物観察表（瓦製品）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 凹面	調整 凸面	色調(凹面)(凸面)	胎土 焼成	備考	図版
26	軒平瓦	残長 6.4 厚み 2.1	僅かに凹む。	カキメ痕	マメツ	灰色 灰白色	石・長(1～2) ○		

表45　SD1出土遺物観察表（土製品）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調(外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
27	碗	底径 (7.1) 残高 1.6	断面三角形状の高台をもち、底部中央部が凹む。	施釉 ④ 回転ナデ	施釉	灰白色 灰白色	密 ○		14

表46　倒木2出土遺物観察表（土製品）

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調(外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
28	鉢	残高 9.75	外傾する口縁端部は緩やかに波状する。	ヨコナデ ナデ	マメツ・ハケリ（ミガキ一部）	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	石（1～4）・長（1） 金 ◎	煤付着 黒斑	14

表47　第Ⅱ～Ⅴ層出土遺物観察表（土製品）

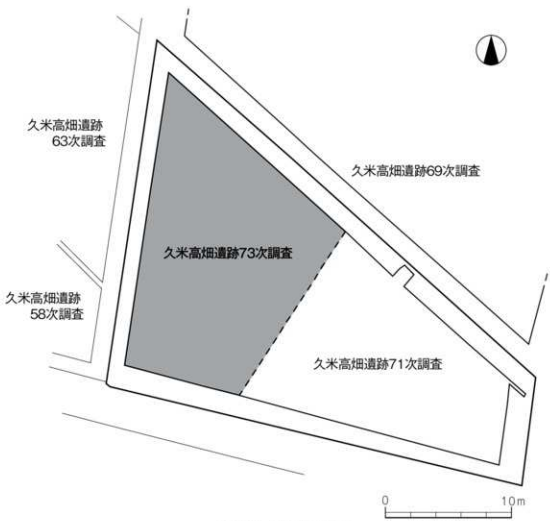
番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調(外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
29	壺	口径(14.4) 残高 1.75	口縁端面に山形文が施される。	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	石・長(1～2) ○		
30	不明	直径 4.85 厚み 1.22	底面は平らで上面に凹みをもつ。	ナデ・ヨコナデ		淡赤橙色	石（1～4）・長（1） ◎		14
31	坏蓋	口径(12.2) 残高 3.8	口縁端部は丸味をもつ。	⑧回転ヘラケズリ 回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	長（1～3） ◎		
32	捏ね鉢	残高 2.15	口縁端部は三角形状を呈する。	ヨコナデ	ヨコナデ	灰白色・暗青灰色 灰白色・暗青灰色	石・長（1） ◎		

第Ⅳ章　久米高畑遺跡73次調査

第１節　調査の経緯

（１）調査に至る経緯（第74図、写真図版15）

本調査は、松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地「No.127 来住廃寺跡」内における重要遺跡確認調査（国庫補助事業）である。調査地である松山市来住町910番地内では、過去に2回の調査が行われている。平成19年度に久米高畑遺跡69次調査、平成20年度には同71次調査が実施され、今回の73次調査が最終となる。調査地北側には69次調査地があり、弥生時代の土坑と弥生時代から古代の掘立柱建物を検出した。また、東側には71次調査地があり、弥生時代の竪穴住居、弥生時代から古墳時代の土坑、中世の溝を検出した。調査は「回廊状遺構」西方域における古代官衙関連施設の広がりや土地占有状況を確認することを主目的とし、財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財埋文センターが主体となり、2009（平成21）年11月2日より本格調査を実施した。



第74図　調査地位置図

（2）調査の経緯

発掘調査は申請者の協力のもと、調査地東側（久米高畑遺跡71次調査と松山市が買収した土地）を廃土置き場として使用した。

2009（平成21）年11月2日、現場の安全対策と発掘用具の搬入及び調査地の草刈りをする。11月19日、調査区を設定した後、重機で第Ⅴ層及び第Ⅵ層上面までの掘削を開始する。11月24日、第Ⅴ層上面の精査を行った後、11月26日、重機で第Ⅴ層を除去し、第Ⅵ層上面にて遺構の検出を開始する。12月1日、測量業者に基準点測量業務を委託し、基準杭を設定する。12月9日より、中近世段階の遺構の掘り下げ及び測量作業を行う。12月16日より、古代遺構の掘り下げ及び測量作業を行う。12月25日、年内の調査を終了する。

2010（平成22）年1月5日より、調査を再開する。1月8日より弥生時代から古墳時代の遺構検出作業を行い、その後、検出した竪穴住居、溝、柱穴、倒木址の掘り下げ及び測量作業を行う。1月13日、現場にて埋文センター職員による検討会を実施する。2月4日、下條信行、前園美智雄両氏より、現場にて調査指導を乞う。2月27日、一般市民対象の現地説明会を開催し、参加者35名を得る（写真図版15）。3月1日、重機による埋め戻し作業を開始する。調査地は発掘調査後も水田耕作を行うため、竪穴住居、溝、土坑、柱穴、倒木址は真砂土で保護をした後、包含層、表土層の順に埋め戻し作業を行い、3月3日、屋外調査を終了する。

（3）調査組織

所　在　地：松山市来住町910番の一部
調 査 期 間：平成21年（2009）11月2日～平成22年（2010）3月3日
調 査 面 積：約270㎡
土地所有者：三好鐵己
調 査 目 的：重要遺跡確認調査
調 査 主 体：松山市教育委員会、［委託］財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター
調 査 担 当：文化財課　楠　寛輝、埋蔵文化財センター　水本完児・栗田茂敏

第2節　層　位

（1）基本層位（第76・77図）

調査地は「回廊状遺構」西方、標高36.90mに位置し、調査以前は水田であった。調査地の基本層位は、以下のとおりである。

第Ⅰ層：水田耕作に伴う耕土で、灰色（7.5Y4/1）粘質土とオリーブ黒色（7.5Y3/1）粘質土の混合である。調査区全域にみられ、層厚2～23cmを測る。

第Ⅱ層：水田耕作に伴う旧耕土で、土色・土質の違いにより四種類に分けられる。

第Ⅱ－1層：灰色（7.5Y6/1）粘質土に褐色（7.5YR4/4）土が疎らに混入するもので、調査区南東部と南西部にみられ、層厚2～12cmを測る。

第Ⅱ－2層：灰色（7.5Y6/1）粘質土に灰白色（7.5Y7/1）粘質土や明黄褐色（10YR6/6）粘質

土が混入するもので、調査区北西部と南半部にみられ、層厚2～11cmを測る。

第Ⅱ－3層：第Ⅱ－2層より明黄褐色（10YR6/6）粘質土が多く混入するもので、調査区北部と南東部にみられ、層厚2～13cmを測る。

第Ⅱ－4層：黄色（2.5Y8/8）土と黒色（10YR2/1）土の混合土で、調査区北西部にみられ、層厚4～20cmを測る。

第Ⅲ層：褐灰色（10YR5/1）粘質土に灰黄色（10YR5/2）粘質土が混入するもので、調査区南西部にみられ、層厚2～23cmを測る。

第Ⅳ層：にぶい黄褐色（10YR5/3）粘質土に褐灰色（10YR5/1）粘質土や灰黄色（10YR5/2）粘質土が混入するもので、調査区南半部にみられ、層厚2～12cmを測る。

第Ⅴ層：褐灰色（10YR6/1）土に褐色（7.5YR4/4）粘質土と黒褐色（10YR3/1）マンガン粒が混入するもので、調査区南半部にみられ、層厚5～20cmを測る。本層中からは、主に古墳時代から古代に時期比定される遺物が出土した。

第Ⅵ層：淡黄色（2/5Y8/4）粘土に明黄褐色（7.5YR5/6）土と褐色（7.5YR4/6）土が斑点状に混入するもので、本層上面が調査での最終遺構検出面である。なお、本層は久米高畑遺跡71次調査で検出した第Ⅵ－2層に相当する。

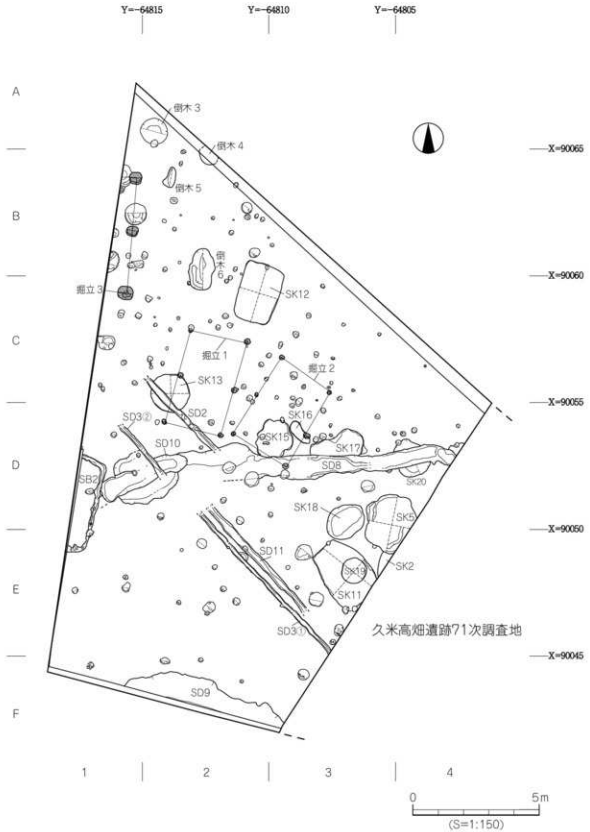
調査では6m四方のグリッドを設定し、北から南へA・B・C・・・F、西から東へ1・2・3・4とし、A1・A2・・・F4といった呼称名を付けた。なお、第Ⅵ層上面の標高を測量すると、調査区北東部が最も高く、南西部にかけて緩傾斜する（比高差50cm）。

（2）検出遺構と遺物（第75図、表48）

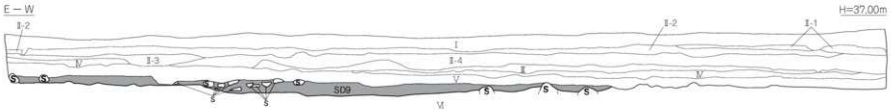
検出した遺構は竪穴住居1棟（古墳時代）、掘立柱建物3棟（古墳時代：1棟、中世：2棟）、土坑10基（弥生時代：4基、古墳時代：6基）、溝7条（古墳時代：2条、古代：1条、近世：4条）、柱穴175基、倒木址4基である。出土遺物は、弥生土器、土師器、須恵器、瓦器、陶磁器、瓦、石器、鉄製品、鉄滓である。なお、遺物の出土量は遺物収納箱（44×66×14cm）約10箱分である。

表48　検出遺構一覧

弥生時代前期	弥生時代中期	古墳時代	古　代	中　世	近　世
		ＳＢ２			
		掘立３		掘立１ 掘立２	
		ＳＤ８ ＳＤ10	ＳＤ９		ＳＤ２ ＳＤ３① ＳＤ３② ＳＤ11
ＳＫ12 ＳＫ13	ＳＫ15 ＳＫ17	ＳＫ５ ＳＫ11 ＳＫ16 ＳＫ18 ＳＫ19 ＳＫ20			


Y=-64815
Y=-64810
Y=-64805
X=-90065
X=-90060
X=-90055
X=-90050
X=-90045
A
B
C
D
E
F
1
2
3
4
倒木3
倒木4
倒木5
倒木6
掘立1
掘立2
掘立3
SK12
SK13
SK16
SK15
SK17
SK18
SK19
SK20
SK2
SK11
SD2
SD3①
SD3②
SD8
SD10
SD11
SD9
SB2
久米高畑遺跡71次調査地
0
5m
(S=1:150)

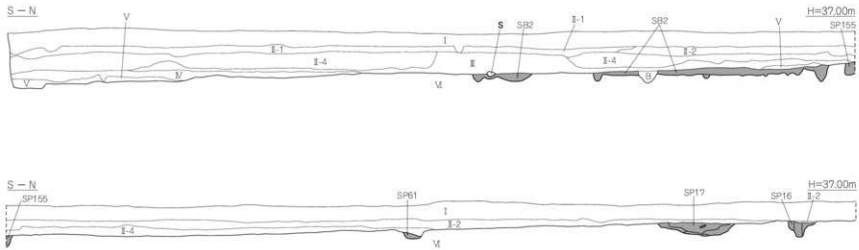
第75図　遺構配置図



Ⅰ　灰色(7.5Y4/1)粘質土とオリーブ黒色(7.5Y3/1)粘質土の混合
Ⅱ-1　灰色(7.5Y6/1)粘質土に褐色(7.5YR4/4)土が疎うに混入
Ⅱ-2　灰色(7.5Y6/1)粘質土に灰白色(7.5Y7/1)粘質土や明黄褐色(10YR6/6)粘質土が混入
Ⅱ-3　Ⅱ-2層より明黄褐色(10YR6/6)粘質土が多く混入
Ⅱ-4　黄色(2.5Y8/8)と黒色(10YR2/1)土の混合
Ⅲ　褐灰色(10YR5/1)粘質土に灰黄色(10YR5/2)粘質土が混入
Ⅳ　にぶい黄褐色(10Y5/3)粘質土に褐灰色(10YR5/1)粘質土や灰黄色(10YR5/2)粘質土が混入
Ⅴ　褐灰色(10YR6/1)土に褐色(7.5YR4/4)粘質土と黒褐色(10YR3/1)マンガン粒が混入
Ⅵ　淡黄色(2.5Y8/4)粘土に明黄褐色(7.5YR5/6)土と褐色(7.5YR4/6)土が斑点状に混入
A　黒褐色(10YR3/1)シルト

0　1　2m
(S=1:40)

第76図　南壁・北壁土層図



I　灰色(7.5Y4/1)粘質土とオリーブ黒色(7.5Y3/1)粘質土の混合
Ⅱ-1　灰色(7.5Y6/1)粘質土に褐色(7.5YR4/4)土が疎うに混入
Ⅱ-2　灰色(7.5Y6/1)粘質土に灰白色(7.5Y7/1)粘質土や明黄褐色(10YR6/6)粘質土が混入
Ⅱ-4　黄色(2.5Y8/8)と黒色(10YR2/1)土の混合
Ⅱ　褐灰色(10YR5/1)粘質土に灰黄色(10YR5/2)粘質土が混入
Ⅳ　に忌い黄褐色(10Y5/3)粘質土に褐灰色(10YR5/1)粘質土や灰黄色(10YR5/2)粘質土が混入
Ⅴ　褐灰色(10YR6/1)土に褐色(7.5YR4/4)粘質土と黒褐色(10YR3/1)マンガン粒が混入
Ⅵ　淡黄色(2.5Y8/4)粘土に明黄褐色(7.5YR5/6)土と褐色(7.5YR4/6)土が斑点状に混入
B　褐灰色(10YR6/1)土にに忌い褐色(7.5YR4/4)土がブロック状に混入

第77図　西壁土層図

第3節　遺構と遺物

（1）弥生時代の遺構と遺物

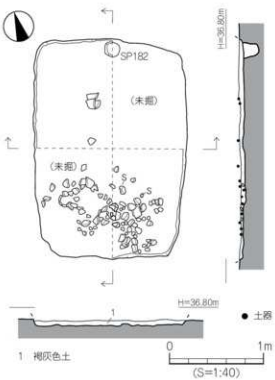
弥生時代の遺構は、土坑4基を検出した。

ＳＫ12（第78図．写真図版16）

調査区中央部北寄りB2～C3区に位置する。平面形態は長方形を呈し、規模は長さ2.34m、幅1.58m、深さ2.0～4.0cmを測る。断面形態は浅い逆台形状を呈し、埋土は褐灰色土（10YR5/1）単層である。遺物は土坑南側の基底面付近から、甕形土器や壺形土器の破片が比較的まとまって出土した。これらの土器を接合すると、甕形土器2点（1・3）と壺形土器2点（4・5）になった。

出土遺物（第79図、写真図版20）

1～3は甕形土器。1・2は口径40cmを超える大型品で、口縁部は粘土紐の貼付けにより成形されている。胴部には多重のヘラ描き沈線文と刺突文が施され、1の口縁端部には刻目を施す。3は中型品で胴部にヘラ描き沈線文、口縁端部には刻目を施す。4～6は太頸壺で口縁部は短く外反し、頸部にヘラ描き沈線文を施す。5の胴部外面には、ヘラミガキがみられる。7・8は広口壺で頸部にはハケメ調整後、ヘラ描き沈線文を施す。9は太頸壺の頸胴部片、10は底部でわずかに上げ底を呈する。



第78図　SK12測量図

時　期：出土遺物の特徴から、弥生時代前期末とする。

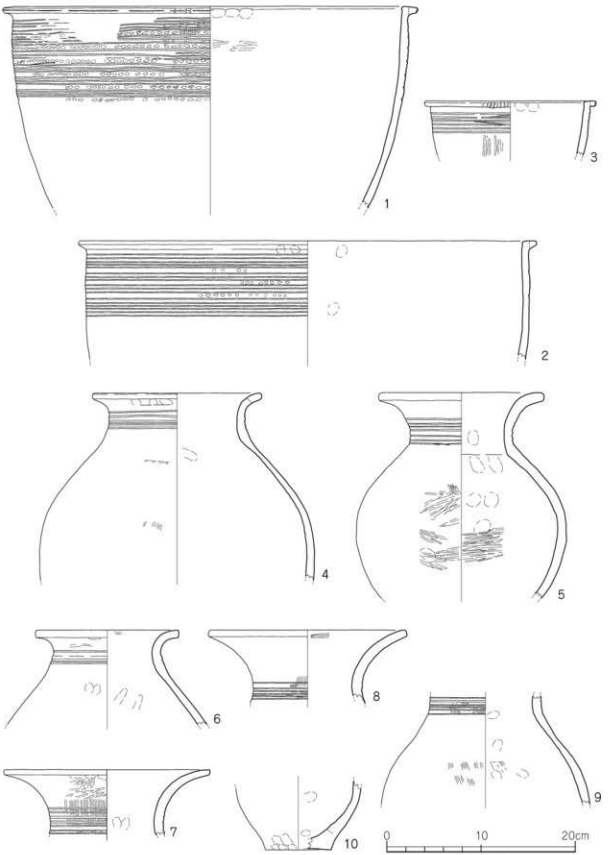
ＳＫ13（第80図．写真図版16）

調査区中央部西寄りC・D2区に位置し、土坑南西部は溝SD2、北東部は掘立1（SP65）に切られている。平面形態は円形を呈し、規模は径1.50m、深さ2.0～6.0cmを測る。断面形態は浅い逆台形状を呈し、埋土は褐灰色土（10YR5/1）単層である。土坑基底面には凸凹がみられ、土坑北東部から南西部に向けてわずかに傾斜をなす。遺物は土坑北東部の基底面付近から、土器の破片がまとまって出土した。

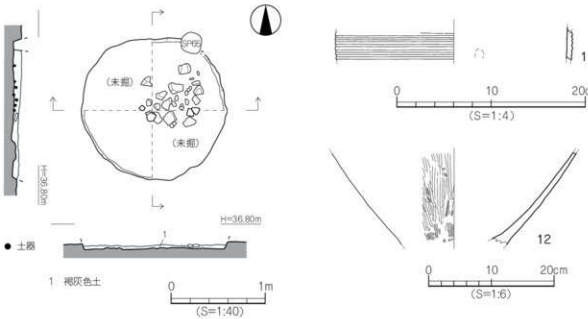
出土遺物

11は甕形土器の胴部小片で、ヘラ描き沈線文を施す。12は壺形土器の胴部で、外面にはタテ方向のヘラミガキを施す。

時　期：出土遺物の特徴から、弥生時代前期末とする。



第79図　SK12出土遺物実測図



第80図　SK13測量図・出土遺物実測図

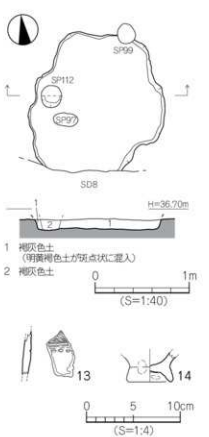
SK15（第81図）

調査区中央部D2・3区に位置し、土坑南側は溝SD8、北東部は柱穴SP99、西部は2基の柱穴（SP97・112）に切られている。平面形態は不整の円形を呈し、規模は径1.47m、深さ3.5～11.0cmを測る。断面形態は逆台形状を呈し、埋土は褐灰色土（10YR5/1）に明黄褐色土が斑点状に混入するものである。遺物は埋土中より、弥生土器片やサヌカイトの石核が出土した。

出土遺物

13・14は甕形土器。13は胴部片で、ヘラ描き沈線文と刺突文を施す。弥生時代前期末。14は上げ底の底部で、外面に工具痕を看取する。

時　期：出土した甕形土器の特徴より、弥生時代中期後半とする。



第81図　SK15測量図・出土遺物実測図

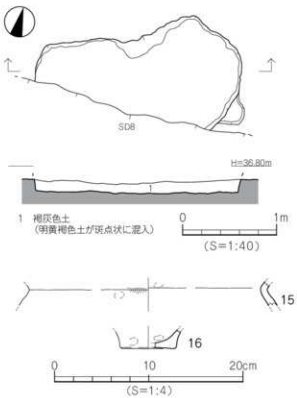
ＳＫ17（第82図）

調査区中央部東寄りD3区に位置し、土坑南側は溝SD8に切られる。平面形態は不整楕円形を呈し、規模は東西検出長2.18m、南北検出長0.84m、深さ3.0～13.0cmを測る。断面形態は逆台形状を呈し、埋土は褐灰色土（10YR5/1）に明黄褐色土が斑点状に混入するものである。土坑基底面にはわずかに凹凸がみられるが、ほぼ平坦である。遺物は、埋土中より弥生土器の小片が数点出土した。

出土遺物

15・16は甕形土器。15は頸胴部片で、内面に不明瞭な稜をもつ。16は底部片で、わずかに上げ底をなす。

時　期：出土遺物の特徴から、弥生時代中期後半とする。



第82図　SK17測量図・出土遺物実測図

（2）古墳時代の遺構と遺物

古墳時代の遺構は竪穴住居1棟、掘立柱建物1棟、溝2条、土坑3基を検出した。

1）竪穴住居

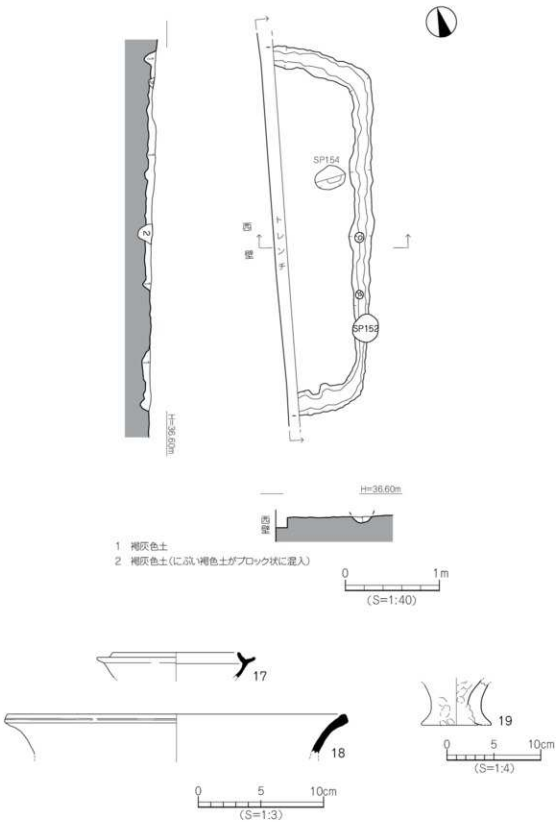
ＳＢ２（第83図、写真図版16）

調査区南西部D1・2区に位置し、住居東側は溝SD10と重複する。また、南東部は柱穴SP152に切られ、住居西側は調査区外に続く。第Ⅵ層上面での検出であり、第Ⅴ層が覆う。平面形態は隅丸方形を呈するものと考えられ、規模は南北長3.90m、東西検出長1.00m、壁高は6～8cmを測る。住居埋土は、褐灰色土（7.5YR4/1）の単層である。内部施設は、周壁溝と柱穴1基（SP154）を検出した。周壁溝は住居壁体に沿って全周し、規模は幅0.15～0.25m、深さ15～17cmを測る。周壁溝埋土は、住居埋土と同様の褐灰色土（7.5YR4/1）である。周壁溝内からは、須恵器片と石器片とが出土した。SP154は、住居床面北東部寄りで検出した。平面形態は楕円形を呈し、規模は長径34cm、短径25cm、深さ15cmを測る。柱穴掘り方埋土は、褐灰色土（7.5YR6/1）である。遺物は住居埋土中より、須恵器坏身や甕の破片のほか土師器片や弥生土器片が少量出土した。

出土遺物

17は須恵器坏身片で、たちあがりは内傾し、端部は丸く仕上げる。18は須恵器甕の口縁部で、口縁端面には沈線状の凹みが巡る。19は弥生土器。甕形土器の底部で、突出部をもつ上げ底をなす。弥生時代後期初頭。

時　期：出土した須恵器の特徴から、SB2の廃棄・埋没時期は古墳時代終末とする。



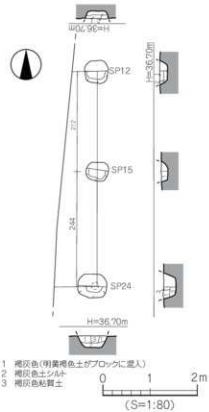
第83図　SB2測量図・出土遺物実測図

2）掘立柱建物

掘立3（第84図）

調査区北西部B・C1区に位置し、建物西側は調査区外に続く。建物上面は第Ⅱ－4層が覆う。南北2間の建物址で、3基の柱穴（SP12・15・24）を検出した。建物規模は南北長4.56m、柱穴間隔は2.12m、2.44mである。建物を構成する各柱穴の平面形態は円形を呈し、柱穴掘り方規模は径42～55cm、深さ5～22cmを測る。柱穴掘り方埋土は二種類あり、埋土上位は褐灰色シルト（7.5YR4/1）に明黄褐色土がブロック状に混入（1層）、埋土下位は褐灰色土（7.5YR4/1）（2層）である。なお、柱痕はSP24で検出され、柱痕径15cm、柱痕埋土は褐灰色（7.5YR4/1）粘質土である。柱穴内から、遺物は出土していない。

時　期：出土遺物がなく時期決定は困難であるが、柱穴埋土が後出するSK18やSK20に酷似することから、概ね古墳時代終末以降とする。



第84図　掘立3測量図

3）溝

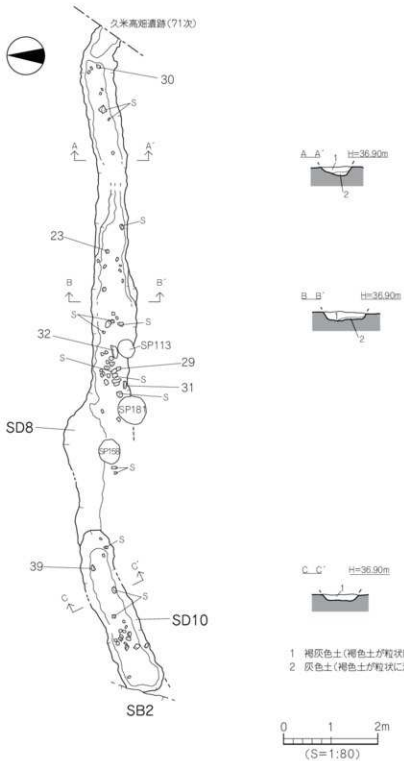
ＳＤ８（第85図、写真図版17）

調査区中央部D1～D4区で検出した東西方向の溝で、溝西端はSB2と重複し、溝西側は近世の溝SD2・3②に一部削平され、溝中央部は3基の柱穴（SP113・158・181）に切られている。また、溝東側は71次調査へ続く。第Ⅵ層上面での検出であり、第Ⅱ－3層が覆う。規模は検出長8.40m、幅0.6m～0.8m、深さ7.0～20.0cmを測る。断面形態は皿状を呈し、埋土は大半が褐灰色土（10YR6/1）に褐色土が粒状に混入するもの（1層）であるが、基底面付近には、灰色土（N 6/）に褐色土が粒状に混入（2層）が部分的に堆積している。溝基底面は東側が高く、西側に向けて漸次低くなっている。溝内からは、弥生土器や須恵器、土師器のほかに石器が出土した。

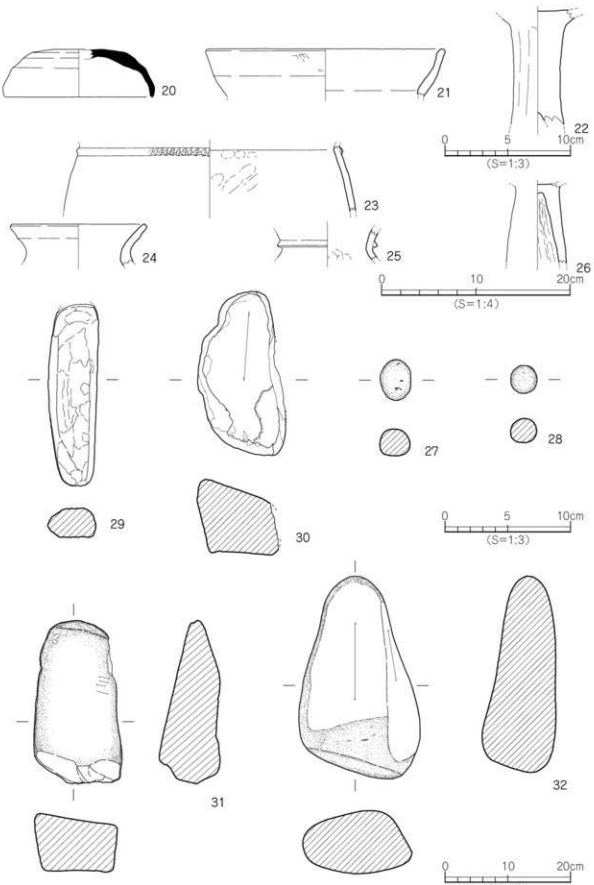
出土遺物（第86図、写真図版20・21）

20は須恵器坏蓋。扁平な天井部で口縁部は垂下し、口縁端部は丸く仕上げる。21・22は土師器。21は甕形土器の口縁部片で、口縁端部は内傾する。22は高坏の脚部で柱部は中実となり、外面は面取りされる。23～26は弥生土器。23は甕形土器の頸胴部片で、頸部に刻目凸帯文を貼付ける。24・25は壺形土器で、25の頸部には断面三角形状の凸帯を貼付ける。26は高坏形土器の脚部片で、指込技法により成形されている。27～32は石器。27・28は器種不明品で、表面にはわずかに敲打痕を残す。砂岩製。29は柱状片刃石斧で、敲打段階に破損した未成品である。緑色片岩製。30～32は砥石。いずれも1面ないし2面の砥面をもち、自然礫を使用している。石材は30が緑色片岩、31・32は砂岩である。

時　期：出土した須恵器や土師器の特徴から、溝の埋没時期は古墳時代終末とする。



第85図　SD8・SD10測量図



第86図　SD8出土遺物実測図

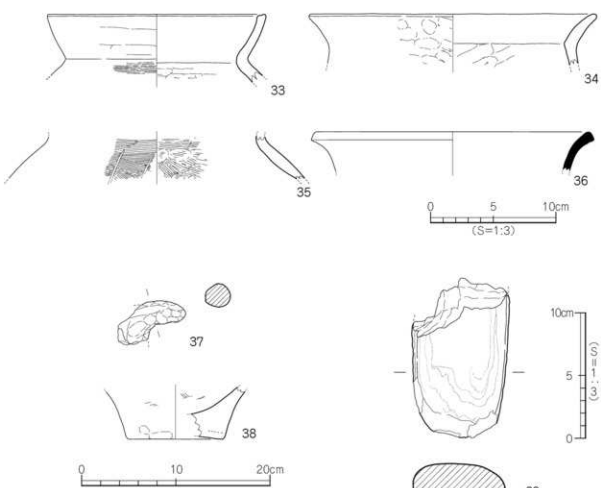
ＳＤ10（第85図．写真図版17）

調査区中央部西寄りD1・2区で検出した東西方向の溝で、溝東側はSD3②に一部削平され、溝西側はSB2と重複する。第Ⅵ層上面での検出であり、第Ⅱ－3層が覆う。規模は検出長3.60m、幅0.6m～0.8m、深さ4.0～16.0cmを測る。断面形態は皿状を呈し、埋土は褐灰色土（10YR5/1）に褐色土が粒状に混入するものである。なお、SD10は埋土や形状からSD8と同一の溝と思われる。溝基底面は、ほぼ平坦である。溝内からは弥生土器や土師器、須恵器の破片や石器が出土した。

出土遺物（第87図、写真図版21）

33～35は土師器の甕形土器。33は口縁端部が内傾し、口縁端面はナデ凹む。34は口縁部が外反し、口縁端部は丸く仕上げる。35は肩部小片で、ヘラ描き沈線文2条（記号）を施す。36は須恵器の壺で、口縁部は短く外反し、口縁端部は「コ」字状に仕上げる。37・38は弥生土器。37は支脚形土器の角状突起部分で、断面形態は円形状を呈する。38は壺形土器の底部で、上げ底をなす。39は伐採斧の破損品で、基部と刃部は欠損している。緑色片岩製。

時　期：出土した土師器や須恵器の特徴より、古墳時代終末とする。



第87図　SD10出土遺物実測図

4）土坑

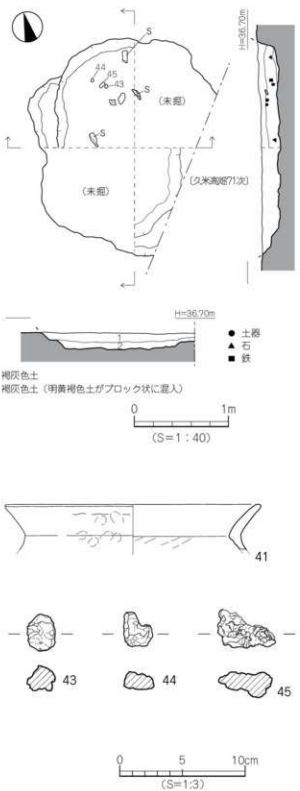
ＳＫ５（第88図、写真図版18）

調査区東側D3～E4区に位置する土坑で、土坑東側は久米高畑遺跡71次調査にて検出されている。平面形態は円形を呈し、規模は径2.30m、深さ3.0～18.0cmを測る。断面形態は逆台形状を呈し、埋土は上層が褐灰色土（10YR4/1）、下層が褐灰色土（10YR4/1）に明黄褐色土がブロック状に混入するものである。なお、断面観察や平面形態より、SK5は2基の土坑が重複している可能性がある。遺物は埋土中位付近より土師器、須恵器のほか、鉄滓が出土した。

出土遺物（写真図版21）

40・41は土師器甕の口縁部片で、頸胴部内面に稜をなす。42は須恵器甕の胴部片で、外面に平行叩き、内面には円弧叩きを施す。43～45は鉄滓である。

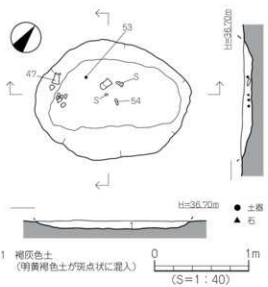
時　期：出土遺物の特徴から、古墳時代終末とする。



第88図　SK５測量図・出土遺物実測図

ＳＫ18（第89図．写真図版18）

調査区東側D・E3区に位置する。平面形態は楕円形を呈し、規模は長径1.64m、短径1.22m、深さ2.0～6.0cmを測る。断面形態は浅い逆台形状を呈し、埋土は褐灰色土（7.5YR4/1）に明黄褐色土が斑点状に混入するものである。土坑壁体は緩やかに立ち上がり、基底面は平坦である。遺物は、基底面付近より土師器高坏や甕が出土し、埋土中位からは弥生土器や石器が出土した。

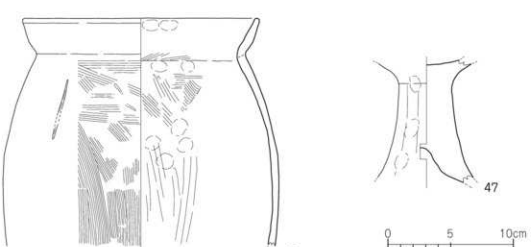


第89図　Sk18測量図

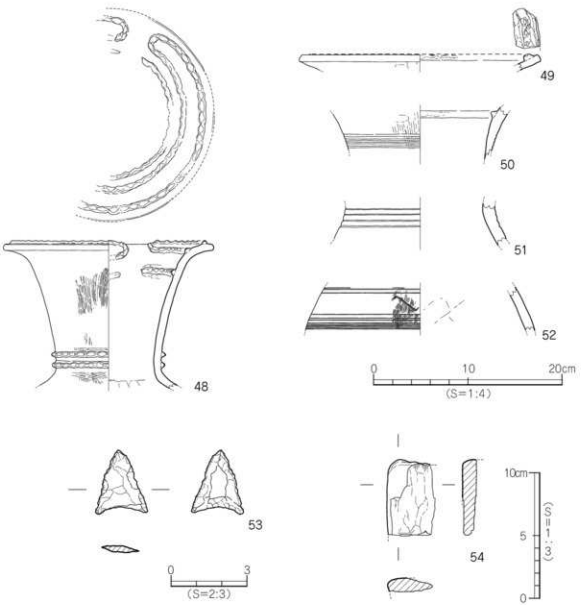
出土遺物（第90・91図、写真図版21）

46・47は土師器。46は甕で口縁部は内湾し、口縁端部は丸く仕上げる。胴部は長胴で、肩部にヘラ描き沈線文を施す（記号か）。47は高坏の脚部で、柱部外面は面取りされる。48～52は弥生土器。48～50は長頸壺で、48は頸部に押圧凸帯文2条、口縁部内面には注口状の押圧凸帯文を貼付ける。49は口縁部片で内面に押圧凸帯文を貼付け、凸帯上に刻目を施す。50は頸部小片で外面にヘラ描き沈線文、内面には押圧凸帯文を貼付ける。51は頸部片で、ヘラ描き沈線文を施す。52は肩部片で、ヘラ描き沈線文と山形文を施す。53は凹基無茎石鏃の完存品で、平面形態は二等辺三角形を呈し、自然面を残す。サヌカイト製。54は扁平片刃石斧の破損品で、刃部は欠損している。緑色片岩製。

時　期：出土した土師器の特徴から、古墳時代終末とする。



第90図　SK18出土遺物実測図（1）



第91図　SK18出土遺物実測図（2）

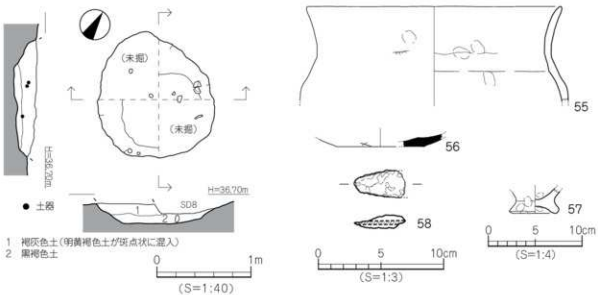
ＳＫ20（第92図、写真図版18）

調査区東側D4区に位置し、土坑中央部は溝SD8に切られている。平面形態は不整の円形を呈し、規模は径1.22m、深さ2.0～21.0cmを測る。断面形態は逆台形状を呈し、埋土は上層が褐灰色土（10YR4/1）に明黄褐色土が斑点状に混入、下層は黒褐色土（10YR2/1）である。土坑壁体は緩やかに立ち上がり、土坑基底面には凹凸がみられる。遺物は埋土中位付近より弥生土器や土師器、須恵器の破片の他、刀子が出土した。

出土遺物

55は土師器甕で口縁部は緩やかに外反し、口縁端部は丸く仕上げる。56は須恵器坏身の底部で、外面にヘラ記号を残す。57は弥生時代後期の甕形土器の底部で、上げ底をなす。58は鉄製の刀子である。

時　期：出土した土師器、須恵器の特徴から、概ね古墳時代終末とする。



第92図　SK20測量図・出土遺物実測図

SK19（第93図、写真図版18）

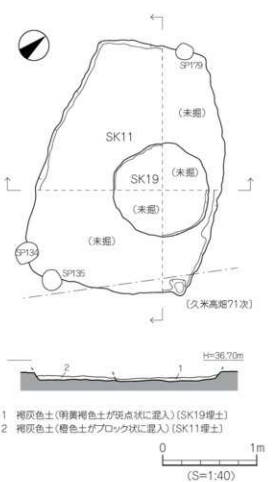
調査区東部E3区に位置し、SK11上面で検出した。平面形態は円形を呈し、規模は径0.98m、深さ2.0～4.0cmを測る。断面形態は浅い逆台形状を呈し、埋土は褐灰色土（7.5YR4/1）に明黄褐色土が斑点状に混入するものである。土坑内からは、遺物は出土していない。

時　期：出土遺物がなく時期特定は困難であるが、埋土がSK18と酷似することから、概ね古墳時代終末とする。

SK11（第93図、写真図版18）

調査区東部E3区に位置し、土坑東半部は久米高畑遺跡71次調査にて検出されている。また、土坑内部はSK19に切られている。平面形態は不整長方形を呈し、規模は長さ2.59m、幅1.97m、深さ2.0～4.0cmを測る。断面形態は逆台形状を呈し、埋土は褐灰色土（7.5YR6/1）に橙色土がブロック状に混入するものである。土坑内からは、遺物の出土はない。

時　期：出土遺物がなく時期特定は困難であるが、SK19に先行することから、概ね古墳時代終末以前とする。



第93図　SK11・SK19測量図

ＳＫ16（第94図）

調査区中央部D3区に位置し、土坑東側は掘立2柱穴（SP100）に切られている。平面形態は楕円形を呈し、規模は長径1.04m、短径0.38m、深さ3.6～7.0cmを測る。断面形態は逆台形状を呈し、埋土は褐灰色土（10YR5/1）に明黄褐色土が斑点状に混入するものである。遺物は弥生土器や土師器の細片が数点出土したが、図化しうるものはない。

時　期：時期特定しうる遺物の出土はないが、埋土がSK18やSK19と酷似することから、概ね古墳時代終末とする。

第94図　SK16測量図

（3）古代の遺構と遺物

古代の遺構は、溝1条を検出した。

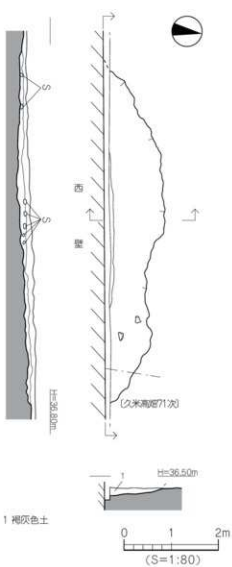
ＳＤ９（第95図、写真図版19）

調査区南側F1～3区で検出した東西方向の溝で、溝東端は久米高畑遺跡71次調査に続き、西側は調査区へ続く。第Ⅵ層上面での検出であり、溝上面は第Ⅴ層が覆う。規模は検出長7.0m、検出幅1.0m、深さ4.0～15.0cmを測る。断面形態はレンズ状を呈し、埋土は褐灰色土（10YR4/1）単層である。溝基底面には凹凸が著しく、溝壁体は緩やかに立ち上がる。溝内からは弥生土器や須恵器、土師器の小片のほか瓦や多数の河原石が出土した。

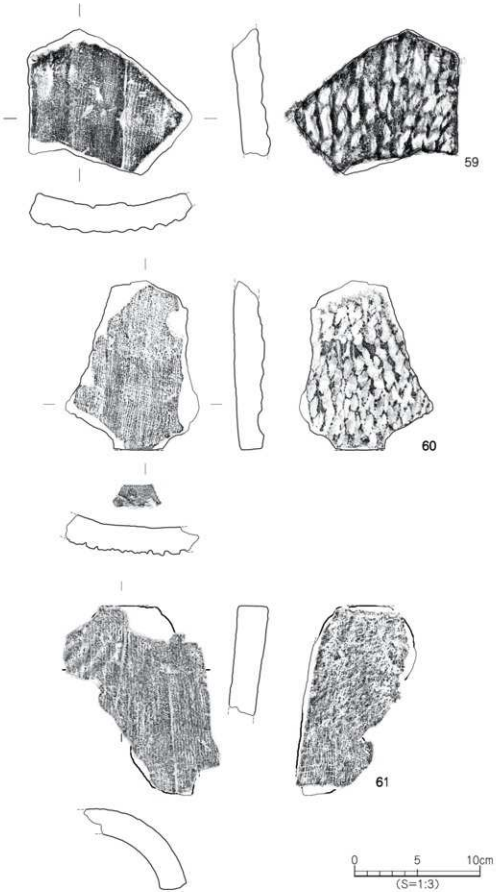
出土遺物（第96図、写真図版22）

59～61は土師質の瓦片。59・60は平瓦で凸面には太縄タタキ痕、凹面には布目痕を残す。61は丸瓦で凸面には細縄タタキ、凹面には粘土の巻上げ痕や布目痕がみられる。

時　期：出土した瓦の特徴から古代、8世紀代とする。



第95図　SD9測量図



第96図　SD9出土遺物実測図

（4）中世の遺構と遺物

中世の遺構は、掘立柱建物2棟を検出した。

掘立1（第97図）

調査区中央部西寄りC・D2区に位置する南北2間、東西1間の建物址で、6基の柱穴（SP54・65・67・89・93・174）で構成される。建物規模は桁行長3.84m、梁行長2.30m、柱穴間隔は1.88～1.96mである。建物を構成する各柱穴の平面形態は円形～楕円形を呈し、柱穴掘り方規模は径21～27cm、深さ12～20cmを測る。柱穴掘り方埋土は褐灰色土（7.5YR4/1）に、にぶい褐色土が粒状に混入するものである。SP174の底面付近からは、径10cm大の石が出土した。遺物は柱穴掘り方埋土中より、少量の土師器片や瓦器、石器が出土した。

出土遺物（写真図版22）

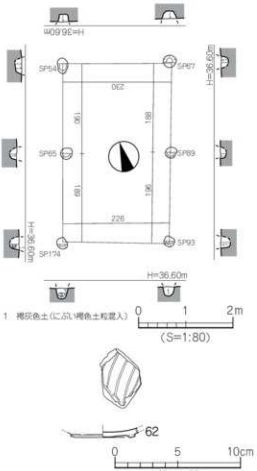
62はSP89出土の瓦器椀。底部に断面方形状の高台が付き、内面には放射状の暗文を施す。

時　期：出土遺物の特徴より中世前期、鎌倉時代とする。

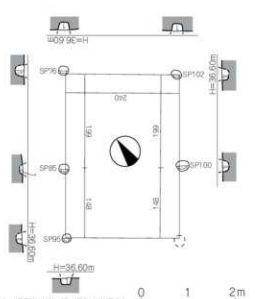
掘立2（第98図）

調査区中央部C2～D3区に位置し、建物上面は第Ⅱ－3層が覆う。南北2間、東西1間の建物址で、5基の柱穴（SP76・85・95・100・102）で構成される。建物規模は桁行長3.47m、梁行長2.40m、柱穴間隔は1.48～1.99mである。建物を構成する各柱穴の平面形態は円形～楕円形を呈し、柱穴掘り方規模は径60～98cm、深さ13～50cmを測る。柱穴掘り方埋土は褐灰色土（7.5YR4/1）に、にぶい褐色土が粒状に混入するものである。柱穴内からは、弥生土器や土師器の細片が数点出土したが、図化しうるものはない。

時　期：時期特定しうる遺物は出土していないが、柱穴埋土が掘立1と酷似していることから、概ね鎌倉時代とする。



第97図　掘立1測量図・出土遺物実測図



第98図　掘立2測量図

（5）近世の遺構と遺物

近世の遺構は、溝4条を検出した。

ＳＤ２（第75・99図）

調査区中央部C・D2区で検出した北西－南東方向の溝で、溝の形状や位置より調査地に隣接する久米高畑遺跡71次調査で検出した溝SD2の延長部と思われる。第Ⅵ層上面での検出であり、第Ⅱ－3層が覆う。規模は検出長3.70m、幅0.20m～0.28m、深さ2.0～6.0㎝を測る。断面形態は皿状を呈し、埋土は、にぶい黄橙色土（10YR7/2）に灰黄褐色微粒土（10YR6/2）が混入するものである。溝内からは、土師器片が数点出土した。

時　期：出土遺物の特徴と埋土から、概ね近世とする。

ＳＤ３①（第75・99図）

調査区南側D2～E3区で検出した北西－南東方向の溝で、久米高畑遺跡71次調査で検出した溝SD3の延長部と思われる。第Ⅵ層上面での検出であり、第Ⅱ－3層が覆う。規模は検出長12m、幅0.20m～0.24m、深さ2.0～5.0㎝を測る。断面形態は皿状を呈し、埋土はにぶい黄橙色土（10YR7/2）に灰黄褐色微粒土（10YR6/2）が混入するものである。溝内からは、土師器片が数点出土した。

時　期：出土遺物の特徴と埋土から、概ね近世とする。

ＳＤ３②（第75・99図）

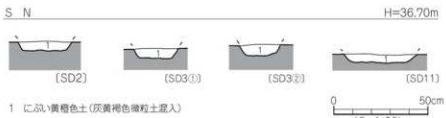
調査区西側D1・2区で検出した北西－南東方向の溝で、SD3①と同一の溝と考えられる。第Ⅵ層上面での検出であり、第Ⅱ－3層が覆う。規模は検出長3.70m、幅0.3m、深さ12.0㎝を測る。断面形態は皿状を呈し、埋土はにぶい黄橙色土（10YR7/2）に灰黄褐色微粒土（10YR6/2）が混入するものである。溝内からは、土師器片が数点出土した。

時　期：出土遺物の特徴と埋土から、概ね近世とする。

ＳＤ11（第75・99図）

調査区南側D・E2区で検出した北西－南東方向の溝で、第Ⅵ層上面での検出であり第Ⅱ－3層が覆う。規模は検出長5.13m、幅0.20m～0.38m、深さ2.0～5.0㎝を測る。断面形態は皿状を呈し、埋土はにぶい黄橙色土（10YR7/2）に灰黄褐色微粒土（10YR6/2）が混入するものである。溝内からは、須恵器片や土師器片が数点出土した。

時　期：出土遺物の特徴と埋土から、概ね近世とする。



第99図　SD2・SD3①・SD3②・SD11断面図

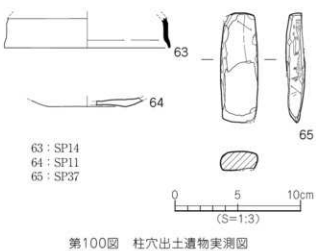
（6）その他の遺構と遺物

1）柱　穴（SP）

柱穴は175基を検出した。平面形態は円形と楕円形があり、規模は径10～80cm、深さ2.0～21.0cmを測る。柱穴埋土は二種類あり、埋土①：黒褐色シルト、埋土②：褐灰色シルトである。遺物は、埋土①柱穴より弥生土器片や土師器片、須恵器片のほか、石器が数点出土した。

出土遺物（第100図、写真図版22）

63はSP14出土の須恵器坏蓋。口縁部の小片で、口縁端部は内傾する。64はSP11出土の土師器坏で、底部外面には回転糸切り痕が残る。65はSP37出土の扁平片刃石斧で、刃部や基部の一部は使用により消耗している。



第100図　柱穴出土遺物実測図

2）包含層出土遺物

（第101図、写真図版22）

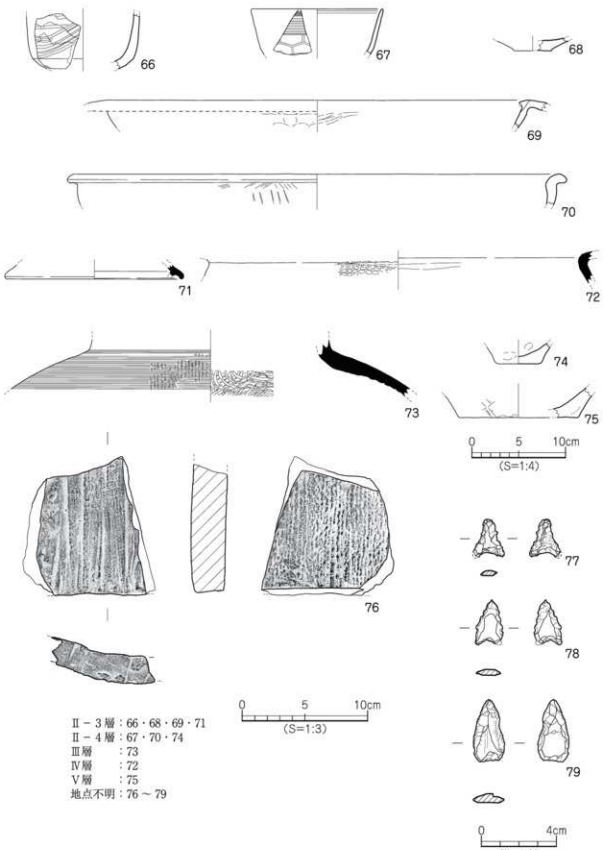
66は肥前系陶器碗で、波状の刷毛目文と鉄釉を施す。67は陶器碗で外面には多重圏線と亀甲文、口縁部内面には二重の圏線を施す。68は陶器の坏で、平底である。69は瓦質の焙烙、70は土師器鍋である。69は内面に円孔1ヶを穿つ。66～70は江戸後期。71～73は須恵器。71は坏蓋の口縁部で、口縁端部は丸い。72・73は甕。72は頸部片で、外面に格子タタキを施す。73は肩部片で、外面は平行タタキ後カキメ調整を施し、内面には円弧タタキを施す。71～73は古墳時代後期。74・75は弥生土器。74は甕形土器の底部、75は壺形土器の底部で平底をなす。弥生時代後期。

3）地点不明出土遺物（第101図、写真図版22）

76は土師質の平瓦で、凸面には細縄タタキ、凹面には布目痕を残す。77～79は打製石鏃。77・78は凹基無茎鏃で、自然面を残す。サヌカイト製。79は平基無茎鏃で、平面形態は二等辺三角形を呈する。赤色珪質岩製。

第4節　小　結

調査では、弥生時代前期末から中近世までの遺構・遺物を確認することができた。今回の調査では来住廃寺創建時の瓦が溝SD9から出土しているが、部分的な検出のため、その性格や時期の詳細については言及することはできなかった。また、「回廊状遺構」の西方域における官衙関連の施設についても確認することはできなかった。北側に隣接する場所で実施した久米高畑遺跡69次調査では、官衙に関連する掘立柱建物跡を1棟確認したことより、調査地周辺が官衙関連施設が展開する南西端にあたることが想定されており、今回の調査でも調査地南側が急激に落ち込む地形の端部である事が明らかとなった。調査地を含む回廊状遺構西方域には本調査でも検出されているように、弥生時代や古墳時代の遺構が展開しており、官衙成立以前には集落域として広く利用されていたことが追認された。



第101図　包含層・地点不明出土遺物実測図

遺構一覧・遺物観察表　－ 凡例 －

(1)　以下の表は、本調査地検出の遺構・遺物の計測値及び観察一覧である。

(2)　遺物観察表の各掲載について

法量欄　(　)：推定復元値

調整欄　土製品の各部名称を略記した。

例）口→口縁部、頸→頸部、胴→胴部、底→底部、天→天井部、体→体部。

胎土欄　胎土欄では混和剤を略記した。

例）石→石英、長→長石、金→金ウンモ、赤→赤色土粒、角→角閃石、密→精製土。

(　) の中の数値は混和剤粒子の大きさを示す。

例）石・長（1~3）→「1~3mm大の石英・長石を含む」である。

焼成欄　焼成欄の略記について。◎→良好、○→良。

表49　竪穴住居一覧

竪穴(SB)	地　区	平面形	規　模 長さ×幅×深さ（m）	埋　土	内部施設	出土遺物	時　期	備　考
2	D1・2	隅丸方形	3.90 ×(1.00)× 0.06 ~ 0.08	褐灰色土	周壁溝・柱穴	弥生・土師・須恵	古墳終末	SD10と重複し、SP152に切られる

表50　掘立柱建物一覧

掘立	地　区	方　位	規模(間)	桁行長(m)	梁行長(m)	床面積(㎡)	柱穴埋土	出土遺物	時　期	備　考
1	C・D2	南北	2×1	3.84	2.30	8.83	褐灰色土(にぶい褐色土粒混入)	土師・瓦器・石器	鎌倉時代	
2	C2~D3	南北	2×1	3.47	2.40	8.32	褐灰色土(にぶい褐色土粒混入)	弥生・土師	鎌倉時代	
3	B・C1	南北	2×α	4.56	(0.40)	(1.84)	褐灰色シルト他		古墳終末以降	

表51　溝一覧

溝(SD)	地　区	方　向	断面形	規　模 長さ×幅×深さ（m）	埋　土	出土遺物	時　期	備　考
2	C・D2	北西-南東	皿状	(3.70)× 0.20 ~ 0.28 × 0.02 ~ 0.06	にぶい黄橙色土(灰黄褐色土混)	土師	近世	久米高畑遺跡71次調査(SD2)の延長部
3①	D2~E3	北西-南東	皿状	(12.00)× 0.20 ~ 0.24 × 0.02 ~ 0.05	にぶい黄橙色土(灰黄褐色土混)	土師	近世	久米高畑遺跡71次調査(SD3)の延長部
3②	D1・2	北西-南東	皿状	(3.70)× 0.30 × 0.12	にぶい黄橙色土(灰黄褐色土混)	土師	近世	SD10を切る
8	D1~D4	東西	皿状	(8.40)× 0.60 ~ 0.80 × 0.07 ~ 0.20	褐灰色土他	弥生・土師須恵・石器	古墳終末	SB2と重複し、SD2･3②に一部削平され、SP113に切られる
9	F1~3	東西	レンズ状	(7.00)×(1.00)× 0.04 ~ 0.15	褐灰色土	弥生・須恵・土師・瓦・石	8世紀	久米高畑遺跡71次調査の延長部
10	D1・2	東西	皿状	(3.60)× 0.60 ~ 0.80 × 0.04 ~ 0.16	褐灰色土(褐色土粒混)	弥生・土師須恵・石器	古墳終末	溝東側をSD3②に一部削平され、西側はSB2と重複する
11	D・E2	北西-南東	皿状	(5.13)× 0.20 ~ 0.38 × 0.02 ~ 0.05	にぶい黄橙色土(灰黄褐色土混)	土師・須恵	近世	

表52　土坑一覧

土坑(SK)	地　区	平面形	断面形	規　模 長さ×幅×深さ（m）	埋　土	出土遺物	時　期	備　考
5	D3~E4	円形	逆台形	2.30 × 2.30 × 0.03 ~ 0.18	褐灰色土他	土師・須恵鉄滓	古墳終末	東側は久米高畑遺跡71次調査にて検出
11	E3	不整長方形	逆台形	2.59 × 1.97 × 0.02 ~ 0.04	褐灰色土(橙色土混)		古墳終末以前	久米高畑遺跡71次調査(SK11)に続く
12	B2~C3	長方形	逆台形	2.34 × 1.58 × 0.02 ~ 0.04	褐灰色土	弥生土器	弥生前期末	
13	C・D2	円形	逆台形	1.50 × 1.50 × 0.02 ~ 0.06	褐灰色土	弥生	弥生前期末	SD2と掘立1（SP65）に切られる
15	D2・3	不整円形	逆台形	1.47 × 1.47 × 0.035 ~ 0.11	褐灰色土(明黄褐色土混)	弥生・石器	弥生中期後半	SD8とSP97・99・112に切られる
16	D3	楕円形	逆台形	1.04 × 0.38 × 0.036 ~ 0.07	褐灰色土(明黄褐色土混)	弥生・土師	古墳終末	掘立2(SP100)に切られる
17	D3	不整楕円形	逆台形	(2.18)×(0.84)× 0.03 ~ 0.13	褐灰色土(明黄褐色土混)	弥生	弥生中期後半	SD8に切られる
18	D・E3	楕円形	逆台形	1.64 × 1.22 × 0.02 ~ 0.06	褐灰色土(明黄褐色土混)	弥生・土師・石器	古墳終末	
19	E3	円形	浅い逆台形	0.98 × 0.98 × 0.02 ~ 0.04	褐灰色土(明黄褐色土混)		古墳終末	SK11上面で検出
20	D4	不整円形	逆台形	1.22 × 1.22 × 0.02 ~ 0.21	褐灰色土他	弥生・土師須恵・鉄器	古墳終末	SD8に切られる

表53　SK12出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
1	甕	口径 (41.0) 残高 21.4	貼付口縁。口縁端部にヘラ描き沈線文1条と刻目。胴部にヘラ描き沈線文3条＋刺突文6段。	①マメツ ②ハケ(6本/cm) マメツ	①マメツ ②マメツ(ミガキ)	淡乳茶色 淡乳茶色	石・長(1～5)・赤 ○		20
2	甕	口径 (48.2) 残高 12.5	貼付口縁。ヘラ描き沈線文3条＋刺突文3段。	①ナデ ②マメツ	ナデ	乳白黄色 乳白黄褐色	石・長(1～4)・赤 ○		
3	甕	口径 (17.9) 残高 5.8	貼付口縁。口縁端部に刻目。ヘラ描き沈線文6条。	①マメツ ②マメツ(ミガキ)	マメツ	淡茶色 淡茶色	石・長(1～4)・赤 ○		
4	壺	口径 (17.6) 残高 18.5	太頸壺。頸部にヘラ描き沈線文5条。	①ヨコナデ ②ナデ・マメツ マメツ(ミガキ)	ナデ・マメツ	淡黄橙色・黒灰色 淡黄灰色	石・長(1～5) ○		20
5	壺	口径 (17.4) 残高 21.7	太頸壺。頸部にヘラ描き沈線文7条。	①ヨコナデ ②ナデ ③マメツ(ミガキ)	①ヨコナデ ②ナデ ③ナデ・ミガキ	乳黄褐色・黒色 乳黄褐色・黒色	石・長(1～6)・金 ○	黒斑	20
6	壺	口径 (14.8) 残高 10.0	太頸壺。頸部にヘラ描き沈線文4条。	①マメツ ②マメツ・ハケ? ③マメツ・ナデ	マメツ・ナデ	乳黄色・淡灰色 乳黄色	石・長(1～5) ○		
7	壺	口径 (21.6) 残高 6.9	広口壺。頸部にヘラ描き沈線文7条以上。	①ナデ・ハケ→ミガキ ②ハケ(7～8/cm)	マメツ(ナデ)	黄褐色 淡黄色	石・長(1～4) ○		
8	壺	口径 (20.6) 残高 7.7	広口壺。頸部にヘラ描き沈線文6条以上。	①ヨコナデ・ナデ ②ハケ	①ミガキ(マメツ) ②ナデ(マメツ)	暗茶褐色 灰黄褐色	石・長(1～4)・金 ○		
9	壺	残高 11.5	太頸壺。頸部にヘラ描き沈線文6条。	ハケ	ハケ	淡黄色・淡褐色 淡褐色	石・長(1～3)・金 ○		
10	壺	底径 (7.0) 残高 6.5	わずかに上げ底。	ナデ・マメツ	ナデ・マメツ	淡黄褐色 淡褐色	石・長(1～3)・赤 ○	黒斑	

表54　SK13出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
11	甕	残高 3.5	胴部小片。ヘラ描き沈線文5条以上。	ナデ	マメツ・ナデ	黒色 淡褐色	石・長(1～2) ○	黒斑	
12	壺	残高 14.6	胴部片。	ハケ→ミガキ (ややマメツ)	マメツ	淡灰茶色 淡乳褐色	石・長(1～5)・金 ○		

表55　SK15出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
13	甕	残高 4.6	胴部片。ヘラ描き沈線文6条以上＋刺突文1段	マメツ(ナデ)	マメツ	灰茶色 灰茶色	石・長(1～4) ○		
14	甕	底径 (4.5) 残高 3.1	上げ底。底部外面に工具痕あり。	ナデ	ナデ	暗茶褐色 黒褐色	石・長(1～2) ○		

表56　SK17出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
15	甕	残高 2.5	小片。	ナデ・ハケ	ナデ	茶褐色 茶褐色	石・長(1～5)・金 ○		
16	甕	底径 (5.5) 残高 2.0	わずかに上げ底。	ナデ・マメツ	ナデ・マメツ	橙褐色 淡灰色	石・長(1～2) ○		

表57　SB2出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
17	坏身	口径 (9.9) 残高 2.1	たちあがりは内傾し、端部は丸い。受部は水平に伸びる。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ○		
18	甕	口径 (26.6) 残高 3.2	口縁部は外反し、口縁端部は丸い。口縁端面に沈線状の凹みあり。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ○		
19	甕	底径 (7.0) 残高 4.7	突出部をもつ上げ底。	マメツ・ナデ	ナデ	橙褐色 黒褐色	石・長(1) ○		

表58　SD8出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
20	坏蓋	口径（116） 残高　3.8	扁平な天井部。口縁部は垂下し、端部は丸い。	① 回転ヘラケズリ ② 回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	長(1～2)・密 ◎		20
21	甕	口径（186） 残高　3.7	口縁部は内湾し、口縁端部は内傾する。小片。	① ナデ ヨコナデ→ハケ	① ナデ ヨコナデ	黄褐色 橙褐色	石・長(1～2)・金 ◎		
22	高坏	残高　9.1	脚柱部。柱部は面取される。	マメツ(ナデ？)	マメツ	橙茶色 橙茶色	密 ◎		20
23	甕	残高　6.9	貼付凸帯。凸帯上に刻目あり。	マメツ	マメツ(ナデ)	灰褐色・淡茶褐色 乳茶褐色	石・長(1～3)・金 ◎		
24	壺	口径（144） 残高　4.4	口縁部は外反し、口縁端部は丸い。	ヨコナデ(マメツ)	マメツ	黒褐色 黒褐色	石・長(1～2)・金 ◎		
25	壺	残高　3.3	頸部。貼付凸帯1条。	ヨコナデ	ナデ ナデアゲ	淡茶色 淡茶褐色	石・長(1～2)・金 ◎		
26	高坏	残高　8.4	脚柱部。指込技法。	マメツ	しぼり痕 ナデ	淡茶色 淡乳褐色	石(1)・密・赤 ○		20

表59　SD8出土遺物観察表　石製品

番号	器種	残存	材質	法量 長さ(cm)	法量 幅(cm)	法量 厚さ(cm)	法量 重さ(g)	備考	図版
27	不明	完存	砂岩	3.25	2.40	2.10	22.24		
28	不明	完存	砂岩	2.20	2.05	1.90	10.96		
29	柱状片刃石斧	ほぼ完存	緑色片岩	14.50	3.90	2.30	210.56		20
30	砥石	完存	緑色片岩	13.00	7.00	5.70	820.00		20
31	砥石	ほぼ完存	砂岩	25.70	13.90	9.60	4,700.00		21
32	砥石	完存	砂岩	32.20	19.20	11.50	83,00.00		21

表60　SD10出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
33	甕	口径（172） 残高　5.4	内湾口縁。口縁端部は内傾し、端面はナデ凹む。	① ヨコナデ(マメツ) ② マメツ(ハケ？)	① ヨコナデ ② ケズリ	茶色 黄褐色	石・長(1～3)・金 ・角 ◎		21
34	甕	口径（228） 残高　4.1	口縁部は外反し、端部は丸い。	ナデ・ヨコナデ	マメツ(ヨコナデ) マメツ(ケズリ？)	茶褐色 淡茶褐色	石・長(1～3)・金 ◎		
35	甕	残高　3.4	肩部小片。ヘラ描き沈線文2条(記号か)。	ハケ(6～7本/cm)	ハケ(6本/cm)→ナデ	茶褐色 茶褐色	石・長(1～2)・金 ◎	黒斑	21
36	壺	口径（214） 残高　3.15	口縁部小片。口縁部は外反する。	回転ナデ→ナデ	回転ナデ→ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎		
37	支脚	残高　4.7	角状突起。	ナデ(マメツ)		乳褐色 乳褐色	石・長(1)・赤 ◎	黒斑	
38	壺	底径（100） 残高　5.5	上げ底。	ナデ(マメツ)	ハケ？(マメツ)	橙褐色 褐色	石・長(1～3) ◎		

表61　SD10出土遺物観察表　石製品

番号	器種	残存	材質	法量 長さ(cm)	法量 幅(cm)	法量 厚さ(cm)	法量 重さ(g)	備考	図版
39	伐採斧	2/3	緑色片岩	12.60	7.30	2.50	420.00		21

表62　SK5出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
40	甕	口径（153） 残高　4.7	口縁部は外反し、端部は丸い。	① マメツ ② ナデ	ナデ	乳白褐色 乳白色	石・長(1～5)・金 ◎		
41	甕	口径（201） 残高　3.6	口縁部は外反し、端部はわずかに内傾する。	① ヨコナデ(マメツ) ② ナデ(マメツ)	① マメツ ② ケズリ(マメツ)	褐色 褐色	石・長(1～5)・金 ◎		
42	甕	残高　9.4	胴部片。	平行叩き→カキメ	円弧タタキ	暗灰色 青灰色	密 ◎		

表63　SK5出土遺物観察表　金属製品

番号	器種	残存	材質	法量 長さ(cm)	法量 幅(cm)	法量 厚さ(cm)	法量 重さ(g)	備考	図版
43	鉄滓		鉄	3.00	2.20	2.00	14.31		21
44	鉄滓		鉄	2.75	2.40	1.30	10.44		21
45	鉄滓		鉄	3.10	4.60	2.00	20.87		21

表64　SK18出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調(外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
46	甕	口径 (18.4) 残高 18.1	口縁部は外反し、端部は丸い。記号あり。	④ ヨコナデ(マメツ) ⑯ ハケ(5～6本/cm)(マメツ)	④ マメツ ⑯ ハケ・ケズリかミガキ(マメツ)	淡茶色 淡茶色	石・長(1～5)・金 ○	黒斑	
47	高坏	残高 9.7	柱部外面は面取りされる。	ナデ(マメツ)	ナデ	明橙褐色 橙褐色	石・長(1～2)・赤 ○		
48	壺	口径 (22.3) 残高 15.7	長頸壺。頸部に押圧凸帯2条、口縁部内面に凸帯と汀口状凸帯あり。	④ マメツ ⑯ ヨコナデ・ミガキ	④ マメツ ⑯ マメツ(ナデ)	乳灰褐色 乳灰褐色	石・長(1～5) ○		21
49	壺	口径 (25.2) 残高 1.6	長頸壺。口縁部内面に貼付凸帯あり。凸帯上に押圧刻目文を施す。	ヨコナデ(マメツ)	ヨコナデ	乳灰褐色 淡灰茶色	石・長(1～4) ○		
50	壺	残高 5.4	長頸壺。頸部にヘラ描き沈線文4条以上、口縁部内面に押圧凸帯を貼付。	マメツ(ミガキ)	マメツ(ヨコナデ)	赤色 赤茶色	石・長(1～3) ○		
51	壺	残高 4.4	広口壺の頸部片。ヘラ描き沈線文4条以上。	ナデ	ナデ	乳黄白色 乳黄白色	石・長(1～2) ○		
52	壺	残高 4.7	肩部片。沈線文(3条＋8条)と3条の山形文あり。	ハケ→ナデ	マメツ(ナデ?)	淡茶色 橙茶色	石・長(1～3) ○		

表65　SK18出土遺物観察表　石製品

番号	器種	残存	材質	法量 長さ(cm)	法量 幅(cm)	法量 厚さ(cm)	法量 重さ(g)	備考	図版
53	石鏃	完存	サヌカイト	2.60	2.00	0.30	1.11		21
54	扁平片刃石斧	1/2	緑色片岩	6.10	3.80	1.10	40.08		21

表66　SK20出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調(外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
55	甕	口径 (20.0) 残高 7.5	口縁部は緩やかに外反し、端部は丸い。	マメツ	ナデ・マメツ	橙褐色 橙褐色	石・長(1) ○		
56	坏身	底径 (7.0) 残高 1.0	底部外面にヘラ記号あり。	⑤ 回転ナデ ⑮ 回転ヘラケズリ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ○		
57	甕	底径 5.2 残高 2.6	上げ底。	ナデ	ナデ	乳白褐色・黒灰色 乳白褐色	石・長(1～3) ○	黒斑	

表67　SK20出土遺物観察表　金属製品

番号	器種	残存	材質	法量 長さ(cm)	法量 幅(cm)	法量 厚さ(cm)	法量 重さ(g)	備考	図版
58	刀子	約1/3	鉄	4.00	2.10	1.25	8.33		

表68　SD9出土遺物観察表　瓦製品

番号	器種	残存	材質	法量 長さ(cm)	法量 幅(cm)	法量 厚さ(cm)	法量 重さ(g)	備考	図版
59	平瓦	小片	土師質	9.60	12.90	2.30	347.76		22
60	平瓦	小片	土師質	13.40	10.60	2.30	309.00		22
61	丸瓦	小片	土師質	15.10	9.50	2.30	385.38		

表69　掘立1出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
62	椀	底径 (4.3) 残高 0.8	瓦器。底部内面に暗文あり。	ヨコナデ・ナデ	ナデ	灰色 灰色	密 ◎	SP89	22

表70　柱穴出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
63	坏蓋	口径 (13.0) 残高 2.4	口縁部小片。口縁端部は内傾する。	回転ナデ	回転ナデ	暗灰色 青灰色	密 ◎	SP14	
64	坏	底径 (6.0) 残高 1.7	土師器坏の底部。底部切り離しは、回転糸切り技法による。	ナデ	ヨコナデ	黒灰色 乳灰色	密 ◎	SP11	

表71　柱穴出土遺物観察表　石製品

番号	器種	残存	材質	法量 長さ（cm）	法量 幅（cm）	法量 厚さ（cm）	法量 重さ（g）	備考	図版
65	扁平片刃石斧	ほぼ完存	緑色片岩	8.70	2.95	1.50	62.86	SP37	22

表72　包含層出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
66	椀	残高 4.3	肥前系陶器碗。白土で波状の刷毛目文と鉄釉あり。		回転ナデ→ナデ	灰褐色・白灰色 灰褐色	密 ◎		
67	椀	口径 (10.3) 残高 3.7	陶器碗の口縁部小片。外面に横帯と重圏線と亀甲文。口縁端部内面に2重圏線あり。	施釉	施釉	釉調：淡緑色透明	淡灰白色 ◎		
68	坏	底径 (3.0) 残高 1.0	陶器。平底。	回転ナデ	施釉	乳灰色 釉調：緑釉	密・灰白色 ◎		
69	焙烙	口径 (33.7) 残高 2.2	瓦質。内面に直径7mmの円孔1ヶを穿つ。	ナデ→ヨコナデ	ミガキ（？）→ヨコナデ	暗褐色 淡灰褐色	石・長（1～2）・金 ◎	保存着	22
70	鍋	口径 (38.6) 残高 2.5	口縁部小片。口縁部はほぼ直立し、端部は水平に延び、丸い。	①ヨコナデ ハケ	②ナデ ヨコナデ	乳褐色 乳褐色・黒灰色	密・金 ◎		
71	坏蓋	口径 (13.8) 残高 1.1	かえりは内傾し、口縁端部は丸い。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
72	甕	残高 2.6	頸部片。	格子叩き	回転ナデ ヘラケズリ→ナデ	青灰色 青灰色	密・石（4） ◎		
73	甕	残高 4.5	肩部片。	回転ナデ 平行叩き→カキメ	ナデ 円弧叩き	暗灰色 青灰色	密 ◎		
74	甕	底径 (4.4) 残高 2.2	平底。	ナデ（マメツ）	ナデ	赤橙色・灰褐色 赤橙色	石・長（1～3） ◎	黒斑	
75	壺	底径 (12.6) 残高 3.2	底部小片。平底。	ナデ（ハケ？） マメツ	マメツ	褐色・黒色 褐色	石・長（1～2） ◎	黒斑	

表73　地点不明出土遺物観察表　瓦製品

番号	器種	残存	材質	法量 長さ（cm）	法量 幅（cm）	法量 厚さ（cm）	法量 重さ（g）	備考	図版
76	平瓦	小片	土師質	11.05	10.50	2.70	351.55		22

表74　地点不明出土遺物観察表　石製品

番号	器種	残存	材質	法量 長さ（cm）	法量 幅（cm）	法量 厚さ（cm）	法量 重さ（g）	備考	図版
77	石鏃	ほぼ完存	サヌカイト	2.00	1.60	0.30	0.74	凹基無茎式	22
78	石鏃	ほぼ完存	サヌカイト	2.40	1.50	0.30	1.29	凹基無茎式	22
79	石鏃	完存	赤色珪質岩	3.30	1.65	0.45	3.22	平基無茎式	22

第Ⅴ章　調査の成果と課題

近年来住台地上では、官衙関連主要施設南西部の様相を解明する目的で調査を継続的に行っており、今回の久米高畑遺跡69次調査、久米高畑遺跡71次調査、久米高畑遺跡73次調査は、久米官衙遺跡群の中でも最も大きくまた主要な遺構である、回廊状遺構の西方および台地の南西部における官衙関連遺構の展開を確認することを主目的に行った。その結果、官衙関連施設と考えられる建物1棟を確認するに至った。

縄文時代

久米高畑遺跡71次調査では、倒木痕中に縄文時代後期の深鉢口縁部片が出土している。近隣では同遺跡36次調査で縄文時代晩期前半の円形竪穴住居が確認され、同遺跡33次調査の縄文時代晩期後半のSK30では断面袋状方形土坑の中央に円形柱穴が見られる例があり縄文時代の落とし穴とされている。このように当地では縄文晩期以降、この南西部付近まで活動範囲であったと考えられる。

弥生時代

弥生時代の遺構は3調査区全域に分布する。竪穴住居、掘立柱建物、円形・方形土坑、溝などが確認され、多彩な集落活動が窺えられる。なかでも、久米高畑遺跡71次調査検出の後期後葉の竪穴住居SB1は外8本、内に4本の主柱穴や炉などをもつ円形または八角形の住居は当地での検出例は少なく、桑原地区では同様な特徴を持った多数の住居が確認されている。来住台地上では、近接する久米高畑遺跡69次調査のSB1と掘立3、また西方の久米高畑遺跡58次調査のSB07ほか、久米高畑遺跡62次調査のSB003など、数例があげられる。そのほか、久米高畑遺跡71次調査の前期末～中期初頭のSK4からはガラス小玉の出土を見ており、松山平野では最古の例となるものである。今回の調査では弥生時代の遺構は各調査区で確認され、当時広く台地南西部において弥生集落が営まれていたことが分かった。

古墳時代

古墳時代では久米高畑遺跡73次調査で掘立柱建物、方形竪穴住居、溝、土坑が確認されているが遺構数は少なく、この集落の中心はより西方に存在すると推定される。

古代

古代では3調査区でも遺構数は極端に少なく、柱穴数基、溝1条、掘立柱建物1棟である。この久米高畑遺跡69次調査の掘立4は、その特徴から主要官衙建物ではなく、雑舎的な官衙関連施設との評価がなされている。今回の調査地以南は地形が急激に落ち込むことが想定されることから、結果的には他の周辺既往調査も含め、現段階ではこの掘立4以南および以西には主要官衙施設あるいは官衙関連施設は確認できず、回廊状遺構の西部および台地の南西部では掘立4が南西限と考えられる。

中世

中世では、掘立柱建物、土坑、溝を多数検出した。確認された遺構の大半は調査区西半に分布する。遺構の中には柱穴内祭祀が行われた状況も見られ、このことからも西方域には中世の中核的な集落が存在する可能性も考えられ、今後の調査に期待する。

主に以上のような成果を得た。これまで、官衙遺跡群南西域の様相について不明な点が多い地域であったが、小規模な遺構ではあるが官衙関連の建物が確認できたことは大きな成果であった。

第102図　69次・71次・73次遺構配置図

写真図版

写真図版１～７：久米高畑遺跡69次調査
写真図版８～14：久米高畑遺跡71次調査
写真図版15～22：久米高畑遺跡73次調査

写真図版データ

1．遺構は、主な状況については、4×5判や6×7判の白黒ネガフィルム・カラーリバーサルフィルムで撮影し、35㎜判フィルムカメラ・デジタルカメラで補足している。一部の撮影には高所作業車・やぐらを使用した。

使用機材：

カ　メ　ラ	トヨフィールド45A	レ　ン　ズ	スーパーアンギュロン　90㎜他
	アサヒペンタックス67		ペンタックス67　55㎜他
	ニコンニューFM2		ズームニッコール　28～85㎜他
フ　ィ　ル　ム	白　黒　ネオパンSS・アクロス		

2．遺物は、4×5判で撮影した。すべて白黒フィルムで撮影している。

使用機材:

カ　メ　ラ	トヨビュー45G
レ　ン　ズ	ジンマーS240㎜ F5.6他
ス　ト　ロ　ボ	コメット/CA32・CB2400
スタンド等	トヨ無影撮影台・ウエイトスタンド101
フ　ィ　ル　ム	ネオパンアクロス

3．単色図版は、一部を除き、白黒プリントを等倍で使用できるように焼き付けている。

使用機材:

引　伸　機	ラッキー450MD・90MS
レ　ン　ズ	エル・ニッコール135㎜ F5.6A・50㎜ F2.8N
印　画　紙	イルフォードマルチグレードⅣ RCペーパー

4．製　　版：写真図版175線
印　　刷：オフセット印刷
用　　紙：マットコート110kg

【参考】『埋文写真研究』vol.1～20・『報告書制作ガイド』『文化財写真研究』vol.1、2

［大西 朋子］

１．遺構検出状況（南東より）

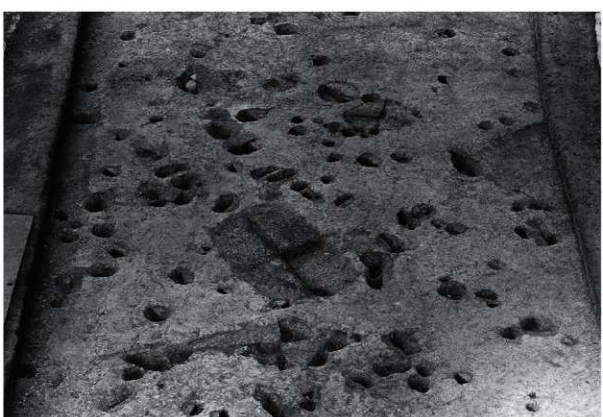
２．掘立4半截状況（西より）

1．掘立7、SK8・12半截状況（西より）

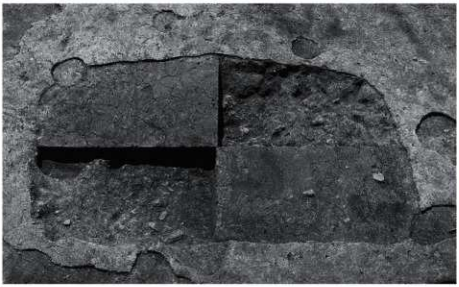
2．官衙遺跡群南西部遠景（南東より）

1．SD1完掘状況（北西より）

2．SK1掘り下げ状況（北より）



3．SK2、SX2、掘立6、SB3・4半截状況（南東より）



1．SK2半掘状況
（北より）

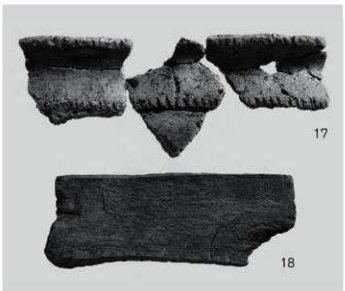
2．SK8遺物出土状況
（南西より）

3．SK9半掘状況
（東より）

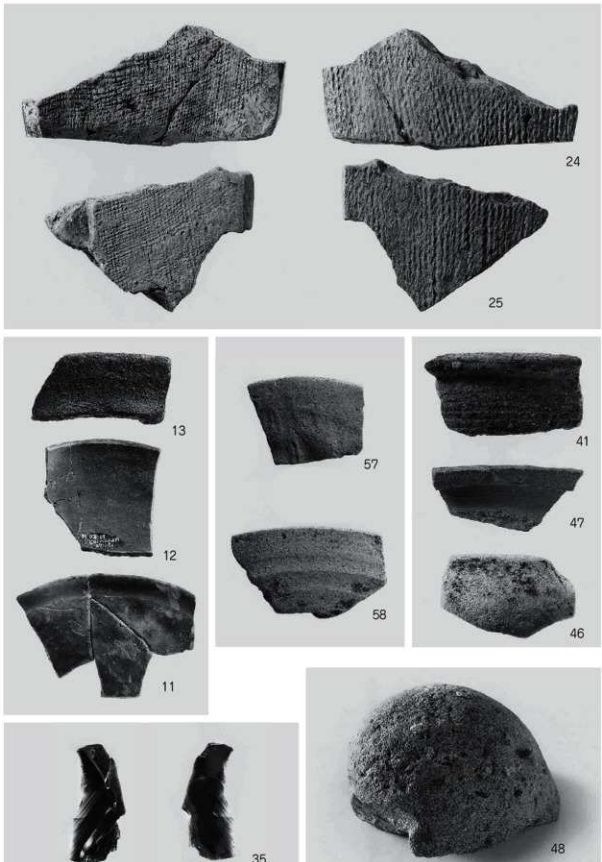
1．SP116遺物出土状況
（南より）

2．遺構北半掘り下げ状況
（南より）

3．現地説明会風景



1. 出土遺物（掘立4：3、掘立5：4、掘立6：5・6、掘立7：7、SK8：17・18、SK9：19、SK13：22、SK16：26）



1．出土遺物（SK15：24・25、SD1：11～13、包含層：41・46～48、SP116：57・58、SP228：35）

1．調査前風景
（南東より）

2．重機による掘削状況
（南東より）

3．調査風景
（北東より）

1．南西隅土層（北東より）

2．遺構検出状況（北西より）

1．SD8上面遺物出土状況
（南東より）

2．SP3内瓦出土状況
（南東より）

3．SK1・SK4遺物出土状況
（北より）

1. SK8半掘状況
（南より）

2. SB1・主柱穴完掘状況
（北より）

3. SD8半掘状況
（南東より）

1．遺構半掘状況（北西より）

2．遺構半掘状況（北西より）

1. 現地説明会

2. 調査後全景

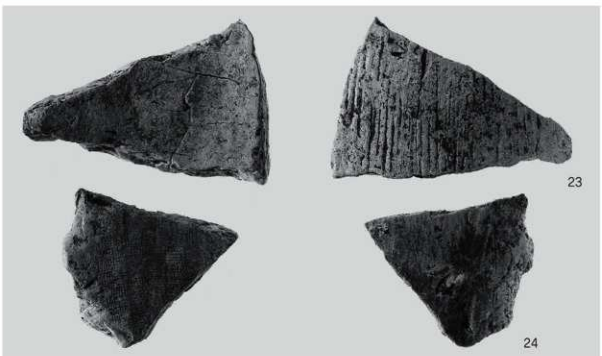
3. 出土遺物（SB1：3・4、SK1：6）

19

20

21

22


23

24

27

28

30

1．出土遺物（SK4：19～21、SD8：22、SP3：23・24、SD1：27、倒木2：28、第Ⅱ～Ⅴ層：30）

1．調査地全景（南より）

2．完掘状況〔中近世〕
（北東より）

3．現地説明会（南より）

1．SK12遺物出土状況
（南西より）

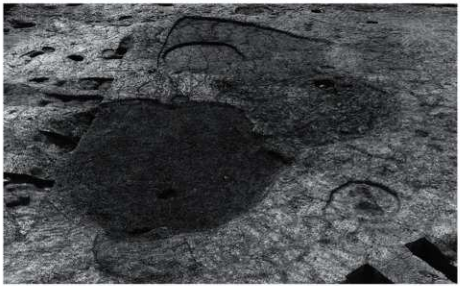
2．SK13遺物出土状況
（北東より）

3．SB2完掘状況
（北東より）

1．SD8完掘状況
（南西より）

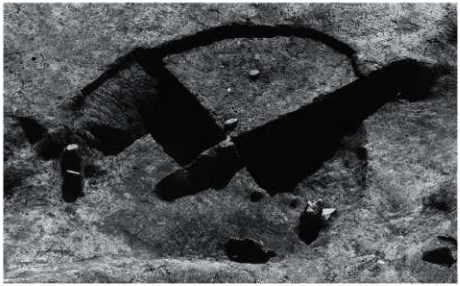
2．SD8遺物出土状況
（南西より）

3．SD10完掘状況
（北東より）



1．SK5・11・18・19
検出状況（北より）

2．SK18遺物出土状況
（南西より）



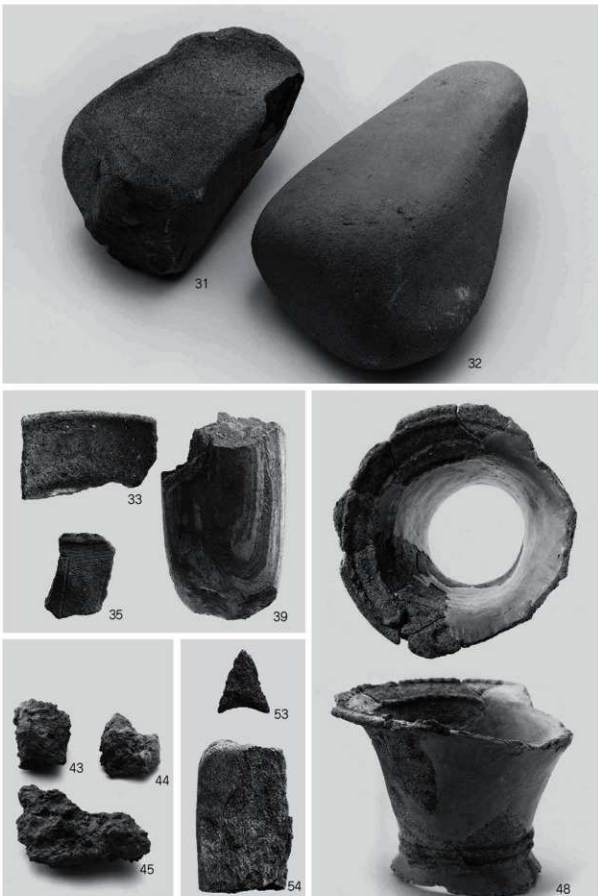
3．SK20遺物出土状況
（北より）

1．SD9完掘状況（西より）

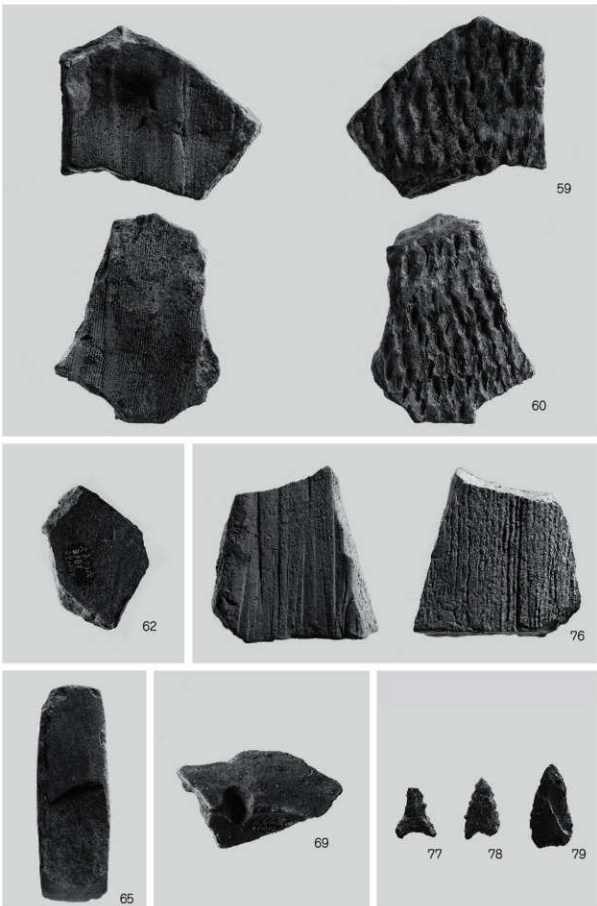
2．SD9遺物出土状況（西より）

3．完掘状況（南西より）

1．SK12出土遺物（1・4・5）、SD8出土遺物①（20・22・26・29・30）



1．SD8出土遺物②（31・32）、SD10出土遺物（33・35・39）、SK5出土遺物（43～45）、SK18出土遺物（48・53・54）



1．SD9出土遺物（59・60）、掘立1出土遺物（62）、SP37出土遺物（65）、包含層出土遺物（69・76）、地点不明出土遺物（77～79）

報 告 書 抄 録

ふりがな	くめたかばたけいせき
書名	久米高畑遺跡　－69次・71次・73次調査－
副書名	国庫補助市内遺跡発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	松山市文化財調査報告書
シリーズ番号	第159集
編著者名	小笠原善治・河野史知・水本完児・大西朋子
編集機関	財団法人　松山市文化・スポーツ振興財団　埋蔵文化財センター
所在地	〒791－8032　愛媛県松山市南斎院町乙67－6　TEL089－923－6363
発行年月日	西暦2012（平成24）年3月30日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	 遺跡番号	北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積 （㎡）	調査原因
久米高畑遺跡 69次調査	まつやましくめまち 松山市来住町 911番	38201		33°48′36″	132°48′00″	20070801 ～ 20071031	419㎡	重要遺跡 確認調査
久米高畑遺跡 71次調査	まつやましくめまち 松山市来住町 910番の一部	38201		33°48′53″	132°48′01″	20081117 ～ 20090228	約270㎡	重要遺跡 確認調査
久米高畑遺跡 73次調査	まつやましくめまち 松山市来住町 910番の一部	38201		33°48′35″	132°48′00″	20091102 ～ 20100303	約270㎡	重要遺跡 確認調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
久米高畑遺跡 69次調査	集落 官衙	弥生	竪穴住居・掘立柱建物・土坑・性格不明遺構・柱穴	弥生土器・石器	
		古代	掘立柱建物・土坑・柱穴	弥生土器・土師器・須恵器・瓦	
		中世	掘立柱建物・溝・土坑・柱穴	弥生土器・土師器・須恵器・瓦器	
久米高畑遺跡 71次調査	集落	弥生	竪穴住居・溝・土坑	弥生土器・ガラス小玉・石器	
		古墳	溝・土坑	弥生土器・土師器・須恵器	
		古代	土坑・柱穴	弥生土器・土師器・須恵器・瓦	
		中世	土坑	土師器・瓦器・瓦	
		近世	溝	土師器・須恵器・瓦器・絵器・陶器	
久米高畑遺跡 73次調査	集落	弥生	土坑	弥生土器	
		古墳	竪穴住居・掘立柱建物・溝・土坑	弥生土器・須恵器・土師器・石器・鉄滓	
		古代	溝	弥生土器・須恵器・土師器・瓦	
		中世	掘立柱建物	弥生土器・土師器・瓦器・石器	
		近世	溝	土師器・須恵器	

要約

久米官衙遺跡群の中でも主要遺構である回廊状遺構西方における官衙関連施設の存在を確認することを主目的に調査を行った結果、縄文時代から中世と幅広い時代の遺構が確認され、中でも久米高畑69次調査では官衙に関連すると思われる東西棟の小規模な掘立柱建物を検出し、主要官衙施設は確認されなかったが、調査地周辺が官衙関連施設が展開する南西端部であることが推定された。弥生時代では掘立柱建物や土坑が多数確認され弥生時代前期から後期まで集落が展開していたことが窺える。特に、前期末～中期初頭の土坑からガラス小玉が出土し、松山平野で出土したガラス玉では最古になる。中世においては掘立柱建物や溝、土坑のほか柱穴内祭祀と思われる柱穴を確認し、当地での中世集落の一端が明らかになった。

松山市文化財調査報告書　第159集

久米高畑遺跡

－69次・71次・73次調査－

国庫補助市内遺跡発掘調査報告書

平成24年3月30日　発行

編　集　財団法人松山市文化・スポーツ振興財団
埋蔵文化財センター
〒791－8032　松山市南斎院町乙67番地6
TEL（089）923－6363

発行　松山市教育委員会
〒790－0003　松山市三番町六丁目6番地1
TEL（089）948－6605

印刷　セキ株式会社
〒790－8686　松山市湊町七丁目7番地1
TEL（089）945－0111